

たり去れり其地の北に寄りたる割合に同地の寒氣の輕さと明かなり一説にて大西洋の熱帯にて炎日に照り込められたる潮流が其温氣を齎らして英國の西岸一帶に衝き當るも恰も大平洋熱帯の潮流が日本に於けると同じく爲めに斯く緯度の割合よりも温き氣候を生ずるなりとも謂ひ又或の同地に霧多く冬分の常に霧を以て同地を覆ひ包むが故に其寒氣割合に輕きなりとの説もあり又英國を指して(常青蕪)と名けし人もありしと聞く是れ塲所に因りての冬分も草色蒼々として日本などの如く黄ばみ枯るゝとのなき者多きが故に斯く呼べるなりとも云へり如何にも處々の公園などを散歩し見るに日本の芝に似たる軟草の一面に青色を帯ひて其儘に年を超す者比々皆是なり尤も其中に少しの赤バみたる枯葉も見ゆるとにて固より春夏の初めの如くに色合句なふて好くあらざるなり然れども之を日本の芝原其他の草叢が秋冬の際に全く黄色に變し盡す者に比すれり甚しき相違あり斯く草の枯れざるも一の寒氣の甚しからざるに因る者にや

蓋軒曰極
北之地而
有此地觀
奇亦可以為

因に爾ふ右の日本の芝に似たる軟草の芝より一層愛すべき者にて芝の其葉硬く尖り居るに此草の其葉柔やかなる事恰も俗間にて稱ふる雜草の種類に似たり此草を日本の庭園或の公園杯に移し種なば如何と思ひし事もありしが或人の話に嘗て之れを日本に移したるとありしに氣候の温かに過ぐる故にや非常に長く生延ひて茫々たる草原と變じ英國の如く短く細やかに愛らしき芝生の用をばなさざりしと云へり或の左もあるへさ乎此の如く寒氣の思の外に輕けれとも唯た其寒き時節の永く續くに驚くべし嘗て記載したる如く先づ概して言ひ一年十二ヶ月の中の五ヶ月を冬とし残り七ヶ月を春夏秋に分つる可なり斯く冬の長さ處なるが故に又其の手當も殊の外宜しく家座敷窓等の造作も又馬車乗合馬車等の造作も皆多くの冬期に對して其の禦きを専らに工夫せるが如く見ゆ始て彼地に着せし時の夏の初なりしかは是等の造作向都て如何にも不細工に見え何とか今少し空氣を發散流通する趣向のなきやと私かに笑ひ居たりしに追々寒に向ふに至り始めて扱ひと思ひあたりしなり窓戸の締り都へてキチ

遊軒曰好
的

くど行届き室外と室内との恰も別世界の如く爲しある風の最も冬向に
 適當せる者なり斯く締りよき家に在て煖爐を焚き家内打寄りて冬籠りを
 なすの又た一種の趣きある様に見受けたり斯くて歳の初め四月頃より漸
 ゃと温氣を生じ是より世間も次第に春めき六七月より八九月にかけての
 人皆之を遊觀の好時節とし或の諸國に旅行し或の海邊に遊び杯して娛し
 ひとなり余等の常に日本の氣候の寒温中を得たる時節多く又た晴天多く
 最も人体に適當せる好土なるを誇り居るとながら彼地の人の亦た英國の
 世界第一の氣候たるを誇り居れり最る亦た銘々國自慢の一証なり日本
 に來りし英人杯の倫敦を優れりとする口實を聞くに曰く日本の國にの常
 に濕氣多し其証據の品物に黴を生じ從て腐朽すると速かなり左れの金屬
 などる銹を生ずると甚だ多しと此點の如何にも一理なきにあらざる倫敦に
 ての如何なる時節と雖も曾て黴を生ぜざりしなり理髮道具の日本に持ち
 歸れば其の一面に黴を生ずると二三ヶ月の内に幾度なるを知らせ始めて日
 本の空氣に濕氣多しと云へる語も認りならぬに思ひ當れり如何にも彼國

の空氣の寒き時多きが故に熱氣に蒸されて濕りを含むと少なく一体に乾
 燥なる如き心地せり斯れの其邊の彼地の空氣が優り居るやも知るべから
 ず然れども唯た倫敦にての快晴の天氣殊に少なく早朝より晩方まで蒼々
 たる碧空を見るを得るの日の一年の中に幾くもなかるへしと思はるゝ程
 に曇り勝にて又た其陰晴の變化の劇しき事の言語同斷なり

◎問 倫敦邊にて春花の景色等ハ如何

○答 六七ヶ月の間花の勿論木の葉さへ見るとなき世界より自然に暖か
 なる春期に向ひて彼處此處に種々の新芽を吹出し花さへ色々に咲はじむ
 るを見る時の坐るに故園の情を生ずるなり余等の如きは是迄外國に留學
 したるとも少く稀に旅行すればとて廣くもあらぬ日本内地を東西に奔走
 するのみにて漁車漁船の便ある今日にての左程に懷郷の感の出たるとも
 なかりしに其身を萬里の外に置き新戚朋友等も少き有様にて節物の移り
 代へるを見るときは實又一種の感を生むる者にて支那の詩人杯が懷郷の
 情を述べたる境界に思ひ當れり左れの一日のイドパークを散歩せる折不

櫻々居士
曰情流
備又水
馳如
從軒日轉
要實情能
語其趣可
矣無遺物

圖下の如き拙作をも得たることなり。瑰園日暖、百花明、綠葉深、邊有鳥聲、萬里假令春相似、滿眸草木不知名。彼地の人の全体に草花を愛して木の花を愛せず。彼地の人が歌或の詩に述ふるの多く皆な草花にて木の花の誠に稀なり。斯る好尚より生ぜしによる者か木に咲く花にして麗しき者の甚だ多からず。然れども日本同様の花の絶て無にもあらざるなり。先づ春頃に開く桃の花杯、全く日本と相違なし。又同じ頃に櫻の花も開けども日本の如く美事なる者にはあらず。元來彼地の人の櫻に對するの唯だ其實を珍重するに在る者なれば其種類の擇も從て日本との趣を異にせり。故に同じ櫻の花にありながら日本の美事なるに比較すべくもあらず。去りながらソレにても其満開の頃の猶は觀處あり。此に對すれ何となく故郷なつかしく眺めたるとなり。又梨の花の畧ば日本と同様に遠く望め皎然雪の如く見ゆる程堆かく植付けたるも少からず。余等が春晩に佛國の南境より白耳義に旅せし時の方さに花時にして櫻花梨花枝を交しへ村落の間散點せる景色の日本の田家に異ならざ

送軒曰梅
花一笑迎
旅客其
以人愉快

るの心地したりき。此の如く櫻花桃花梨花の類の先づ日本と稍や同様の者を觀得るとなれども獨り梅花に至ては曾て其似寄りの者さへ見懸けたるとあらざりき。梅の元と寒さに耐ゆる木の如く思はるれども彼地の氣候にては尙ほ適せざる譯にや。但た春晩に伊太利に遊びし折一夕客舎にて食堂に入りし時卓上の花瓶に種々の花を雜じへ挿みある中に料らすも忽ち一枝の梅花の款語として奔出し居るを見たりしが如何にも久しぶりにて朋友に面會せし心地せるか。上獨旅の事にしあれば分けて懷郷の情に堪へざりしなり。左れは同國にのみ必き梅花あるべしと思はる當時看出したるの確かに梅花に違なし。倫敦の暴風雨も少なからぬ事なるか平生の風力も亦た随分劇しき事多く東京杯に比すれは惡き天氣がちの方なり。去り乍ら人智の進むに従ひ諸般の理科學益々開け爲めに社會に受くる所の助けの大なるとの毎々驚くことなるが英國の新聞紙に大槪例刻に氣象臺よりの通報ありて數日サキの暴風雨の調査を前以て豫記するなり。亞米利加の大西洋海岸より今の愛蘭

の何の地方に吹廻り居り何日頃には英蘭の海岸に来るべし等一々測量届き之を新聞紙上に掲ぐるなり尤も此の通報通りに行かすして意外に荒れの少なき事もあれども亦通例幾分か其驗のあるなり左れに余等が旅行するに西の方よりの天氣の多く此通報を目當てに晴曇を計りし程なりし又明日の天氣の有様を今日より世間に豫報するとの諸國に其例少からず大陸の諸都府の中にては氣象臺より翌日の天氣の概略を日々掲げ示すための懸板を懸け居たるをも見し事あり

◎問 人家に近き鳥類即ち鳶鳥雀杯ハ英國も日本と同様に多き事なるや

○答 如何にも雀の如きの其澤山なる事日本と同様なり又其毛彩なども一見して同種類の者たるを知るへし但た例の烟の爲めにや倫敦の雀の黒く燻ぼり居れり日本人打寄りて言語容貌等の事に及ぶ時に毎ねに鳥類就中雀などの日本も英吉利も其語格の同様と見へ少しも啼聲の變らぬの不思議なり雀などこそ日本の者を倫敦に持行き其仲間に入るも言語

送軒曰實然一哄笑

碌々居士
曰不閉
卷大息半
時慚愧々々

容貌都て他作の者との思われざるならんとて打笑ふたる事なりき鳶鳥の倫敦市中に殆ど見懸けずと云ふも可なる程なり是の倫敦のみならず巴里柏林も同様なりしと覺ゆ但し倫敦より少しく郊外に出れり鳥の随分澤山にて其の聲形ともに總て日本の者に異なるとなし然れども鳶の方の英國にては不思議にも見當りたるをあらせ邊鄙の小都邑などに至らば時として見懸るともあるべきやも知らざれども先づ倫敦近傍の都府にては注意したるに曾て見當りたるを無かりしなり察する所市中に不潔物多く或の空地などありて鳶鳥の食物となるべき者或の其家となるべき場所の多き都府にあらざれり鳶鳥も自然栖まる難き者と見ゆ若し東京の市中が倫敦巴里杯の如く掃除行届きて不潔物少なく鳶鳥の食料絶無とならんに是等の鳥類の強て竿を以て逐ひ廻らざるも必ず都府より以外の地に移り去るとなるべし又今日の如く市中一面不潔物多き時代に在りては鳶鳥の無數に栖遊して是等の汚穢を掃除し呉るも亦た必要とこそ云ふべけれ

鳩の之を飼居る者處々に少らず就中寺院に多く之を飼置ける様見受けたり又尋常の家にては唯た樂みにする譯にや又の何等かの必要あるにや兎に角市中に飼居る者を段々見かけしなり

◎問 倫敦の雪景色は如何

○答 函館札幌よりも北の地位なるか故に倫敦の雪も多かるべき筈の處甚だ少なし如何にも冬に至れり而三度の雪の降るとのなきにもあらぬと先づ東京位の者にて非常に深く積りしとて同緯度の北米加拿多或の歐洲大陸日耳曼境抔との勿論比較にならぬ由なり一二尺以上積れり珍しき者と見へ場末にての子供若者などか相集りて雪抛をなし樂しみ居れり又此若者共が輿に乗して往來の人に雪丸を抛つけて其れか爲め警察署に喚出されて罰金を課せられるなどの話随分新聞紙上に少からず又イッても雪が屋根に積りありては其融け汁始終シタ、リ落ちて敷石抔を汚すか故其の不都合を避くるため家々にて多く屋根敷石等の雪掻をなすなり左れり少し雪降りの後貧民が雪掻の道具を擔ひ家毎に御用のなきやと尋ね歩

送軒日亦
是與吾大
相似況暑

るく人手少なき家の之を呼び入れて庭前又の屋根抔の積雪を取除かしむるなり

◎問 自轉車にて世界を一周すると云へる名高き旅客ステーション氏の不日東京に來着すべき筈なりと云ひ又た第二の自轉車一周客マルトビー氏も既に此程印度コロムボ迄到着したりと云ひ亞非利加のモロッコ國王迄宮中に自轉車を齎すに至れる由續々貴社の紙上にて拜見せり左すれり自轉車の今日西洋一般の流行物と相見ゆ彼地にて自轉車の有様の如何なりや

○答 倫敦などにて市中を乗り廻りし居る者の有様より記さんに彼の肩の摩れ合ひ殺の撃ち合ふと云へる中央盛り場なる市區内の通りに素より斯る慰み半分の者の横行すへき餘裕も少なけれり市區内の通りにては之を見掛るを甚だ稀れなる方なれとも少しく往來の疎らなる場末又の公園空地などにては随分自轉車を馳せて乗り廻り居る者をも多く見掛るなり自轉車にハ上中下色々の種類あれども概するに日本抔にて見掛るも

のどの其の精粗好悪甚だしく相違せる様なり第一に其輪の輻極めて細くして一寸見たる所電信線の針金位の太さあるか無さか程にて又た其の輪齒と名づくべき輪の外邊を成せる圈金も甚だ薄く唯た之を一目したるのみにて既に左も輕快らしく見ゆるなり加ふるに車輪の外邊の大抵皆な厚さゴムを以て縁とりわれ其の彈力にて車輪と地面との激觸を柔かにし乗手に至て安易なる趣向なり又た其制も種々ありて日本に在り來れる如く後ろに小輪二個前に大輪一個の三輪車又其前後に小輪と大輪と各々一個宛なる二輪車等の勿論又た兩人相乗の双坐車あり此の双坐車の大抵三輪付よして前に一人後に一人乗る可き形の者あり又た右に一人左に一人乗る可き形の者あり午後より夕方にかけて公園杯に至り見れば彼の双坐車に朋友にや或は將來の婚約ある仲間にも年若き男女相並びて打乗りつ平坦砥の如き廣き路を輕快なる輪にて音をささずアチラコチラと乗り廻り居るもの多くを見受けるなり尤も是等のすべて中等以下の者共にて無論上等の人々にあらま又た相乗車にて其輪を踏み廻らすの勞を

婦女界
士
大
表

取り居るもの皆な男子にして女子の唯だ左右前後四方の景色を打眺めながら少しも手足を動かさずして平然と驕り居るなり此度ステーション氏が乗りて世界を一周し居る自轉車の直徑四尺許の輪なりと云へば先づ余等が彼地にて通例見掛けたる尋常の大きさのものなりと思へる

先般以來屢々我社の紙上にも譯載せるが如く日耳曼にて既に之れを軍陣傳令の事に試用し佛國にて之れを郵便遞送の事に試用し何れも好結果を見たりとのとあるが斯くまでに至りたるは決して一朝の故にあらざ西洋にては夙より自轉車の流行甚だ盛んにして倫敦を以て現に自轉車雜誌と稱へ自轉車に關する丈けの有らゆる事柄を記して定時刊行する専門の雜誌も之れ有る程あり亦た以て其の流行の久しく且つ盛んあることを知るべし

又た西洋にては寄席などの如き場所にて一寸前鑿として此の自轉車の曲乗りをさすむ往々少奇からむ其の乗方の色々あれども先づ其の一例を擧

げんに彼の曲乗の藝人の左も輕快に見ゆる直徑四五尺許りの大輪付きたる二輪自轉車を舞臺の中央に持出だし最初之れに打乗りて廣しと云へど限りある舞臺の上を縦横十字に或は斜に或は直ぐに自由自在に乗り廻りし又た勢ひ込て走り居る車を腰を捻りて忽ち中止し瞬き五ツ六ツする間と云へる者の恰かも二本足にて屹立せるが如くイみたるまゝ少しも動かず此外或は車を停め片足を車に掛けたるのみにて半身の落ち掛りながら宙に留まり居り或は枕の如き小さき箱を幾個も高く積立てたる上に彼の自轉車を置きて身体を車上に安じヂツとタメ居る等種々の技を演せるす終に彼の自轉車を次第に解きて仕舞に執手も踏處もなき大輪のみを裸にて殘し之れを子供が輪を廻らす如く二三尺向ふに轉がし置きてアトより之れに飛乗り手に執るべき所も無ければ足に踏むべき所も無きに唯だ輪の中央ある心棒の嵌るべき穴の周圍の少し高くあり居るを足掛りに突立ちて足の方にては左右足更るく下を蹴廻りしつゝ手にては又た圈金を手繰り手足相須ちて其の勢を助けながら

其日巧一使呼不覺入

馳せ廻る中に遂に非常の速力を生し全然尋常の自轉車と其の早さを同ふするに至る杯の最も熟練を見るあり然れども更に一とキリ目覺しは自轉車の曲乗濟みたる處にて餘興として大八車の隻輪を外し來り前の自轉車の裸輪同様に之れに打ち乗りて自在に馳せ廻る様前の自轉車の輪との事違ひ不細工に重ゆく大なるものなれば之れを乗りこなす手際の又た一ト入の熟練と感心せり此程コロムボにてマルトビー氏か種々の伎倆を衆人に示したりと云ふも彼地にてヨクある所の曲乗と見合せなれば餘り異なりたる事もあらざるへさやに想像せらるゝなり

◎問 米國にて名高きモルモン宗徒の開拓地なるソート、

シキ、シターに御立寄成し由其の有様は如何
 ○答 余等の乗りたる瀟車のユニオン、パシフィック會社の線路にしてユータ州のオグテンにて瀟車を次ぎ代へる趣向ありシオグテンよりソート、レキ、シター迄の少し寄り途にはあれども僅かに一二時間にて往かるゝ處されは見物の爲め態々寄り途をさす人も多きあり御承知の如く右の都府

の名高きソート、レーキ(潮湖)ある大湖に沿ひたる者にて余等がオグデンを
 發して最早や二三分にて彼の都府に到着すへき筈ありし途中より遙か
 に一曲の灣水に多少の曠影を深べたる者の徐々として窓前に現れ出て
 しを見たり然れども愈々都府に近づくに及ての復た見へきありき
 此の都府は今を去る四十年許即ち千八百四十七年の七月中モルモン宗徒
 の一ト組百四十三人か始めて開拓したる所にして最初より町の割方杯に
 の大に意を用ひナエーグル(凡そ四町餘)宛を仕切りて一區畫とあし此の區
 畫の四面に外に向けて家を建て列ね此の區畫を幾個とく井然と相對し
 合はせて遂に全都府を組み立てたる者あり而して是等の區畫同士の間隙
 即ち町幅の百廿八英尺(凡そ廿一間半)と定め又た町の兩側の家をして門口
 を互ひチガヒにして向ふ同士迭に店を眺め合ふとのあき様にせる杯の殊
 に意を用ひたる處ある由余等は素てより斯る話を聞き居たれり如何にや
 と觀るを樂み居たり涼車の到着せるの恰も夕方にて晚餐を終ると其儘杖
 を提げて直ぐ襟市中を散歩し視たるに成程町の區畫の井然とあし居る有

様往來の幅廣く直ぐにして所謂る大道髪の如しとも稱すへき程に整のひ
 居る有様皆素て聞けるに違はず又た家の檐下より二間許り出でたる處
 に兩側共三四尺許りの廣さの溝堀りありて是に絶えず深々として水の
 流れ居るあり折しも夏分の事されり此の溝を横ぎりて板を渡し其上に椅
 子杯置きて納涼臺とあしすい居る人々も多かりし元來此地の土質輕鬆
 にして少しく風吹けり土の皆を灰の如くに颯がり翻へるを見たり左れば
 是等の溝の土を潤はすにも必要ある事ある可しと想れたり又た町の兩側
 に植え付けある樹の皆亦大きく生長して割合に弱木の少かりし亦た以
 て最初より町の割方都べて成算ありて樹木植付けの事杯も既に夙より着
 手の整ひ居し者あるを推量すへし要するに市中區畫の井然として且つ町
 の組立の按排宜しきを得たる工合の歐洲大都府もおさく及りさる所あ
 るへし舊國の都府の在り來りの家並をアトより取繕ふに過ぎされども此
 の都府の如きは最初より先づ圖引を定め置て後ち建てたるものされり其
 の善く行届くも尤もあり

◎問 引續てソート、レーキ、シテ一の有様並にモルモン宗の事を承り度し

○答 先つモルモン宗の奇談より記さんに御承知の如くモルモン宗の今より五十年許前に米國の一賤民あるジッセルフ、スミスの開創せる一派にして此のスミスある者の別に著へれたる程の履歴も亦き田舎百姓の息子あり左れと其の母の何か異常の處ありし婦人ありしと見へ平生より口癖の如くに己れは必ず一人の豫言者を生むべしと云ひ居たり(豫言者との將來の世人事を豫言する者の義にて其の豫言する所の皆を神の感應より出ると稱するあり昔より西洋にて一宗を開創せる祖師又の之を承述して其道を弘めたる上人等の大抵斯の豫言者と名けらるゝ種類の人々あり)此の婦人の腹に彼のスミスの外に尙は幾個の子供を挙げたりしか母の亦た何か認る所やありけん他の兄をの棄置さ彼のスミスのみをも幼き時より斯の子こそ行くゝ豫言者となるべき者なりとて殊更に詭居たり然るは又た不思議と稱すへきの此のスミス如何なる故にや生れ落ちて一向に

日々居土
非人
行有非
心設

笑ふと云ふことをなさず尋常の子供ならんもの物心つき染むる頃より人の腕又の膝の上よ在てもアチヲコチヲと打眺め看廻りし或の嘻々と笑ふとの多きか通例なるに此のスミスは限りての更に笑へるとなく唯た恒に下に俯むき居るのみなりし又た少しく生長して遊び嬉ふるゝにも他の兒童の如くに子供らしき譯もなき事をは爲さず仍復下俯いて唯だ何か思慮し居る様なりければ其の十二三歳に達せる頃は番くも近村の評判となりスミスこそ凡物ならん云ひ難すまでに至りたり孔子が子供の時にマ、事して遊ぶにも宗廟の祭の真似をなしたる抔後來世の中に立ちて多くにせよ少くにせよ衆人を率ゐて一派の教をも建つる者の兒童の頃より既に何か常に異なりたる行状のあるものと見ゆ又た此に非れば衆人を服するには至らざるものと見ゆ今の清朝の初めに支那の田舎に或る子供ありて鵲を畜ふに妙を得其の子供の聲さへかゝれば數多の鵲アチコチに散じ居るものも皆な一行になりて列を正し揃ひ歩くとの事より其評判高くなり其の子供の終に謀反人の首領と戴かれて一時地方を乱せる話あり是れ其の

異常を政治上に利用したる者なれどもスミスの方の素てより母の口癖に言ひ居たるか如く之を宗教上に利用して乃ち今のモルモン宗を組立つるに至りしなり

スミスが十五十六歳の時井戸の中より一塊の怪石を掘り出だしたるに此怪石の願掛けすれは何か感應のある由を云ひ出たしたる事が則ちスミスの始て宗教世界に一ト足を踏みかけたる初歩なりしと覺へらる此頃は近村にてスミスの取沙汰既に喧しくなり居たるなりしかは扱こそとて之を信仰する者も希れならざりしものと察せらる然れどもスミスが真に踏込て一宗の祖師となりしは其の後シカゴより行脚し來れる一僧がスミスの噂を聞傳へて一日突然其の居を訪ひ終日何か密談して別れたる時を以て始めとなす是より幾はともなくスミスは神の告げによりて或る山嶺より銅牌若干枚を掘り出だせり其牌面に鐫りあるは皆なイスレールの古語なりしをスミスか神の助けに由て讀み得たる所に據るに是の所謂るイスレール十族の一なる猶太王レヒの子にフエーの記したる者なりフエーの國

難を避けて其の一族と共に故郷なるジュルサレムを迷ひ出で大洋を横きりて此の米國に殖民したりしか其事を長なへに傳へん爲め手づから其前後の顛末を録して茲に藏し置きたるなり因てスミスの自から之を英文に譯して出版せり則ち今のモルモン宗の經典ブック、モルモンと稱する者なりスミスか其の經典を出版してモルモン宗を首唱し出だせるは其の三十歳許りの時なりしと覺ゆ今を去る僅かに五十年程の事なり然れどもスミスのモルモン宗を首唱し出だせる後幾はともなく地方を説法し廻られる中に暗殺せられ其アトをばブリガム、ヤングと云へるが襲ぎて七八年前其の歿する日までは常にモルモン宗の管長となり居しなりモルモン宗か米國人の本と神聖なりイスレールの古族の移住したる者なりと言ひ出たるは大に米國人の心に叶ひたる所あるへし又たモルモン宗の他宗と特に目出ちて殊ありたる一點は御承知の如く一夫多妻を正道とする一事あり余等か彼の前管長あるブリガム、ヤングの墓を見物せる時もある案内者ハ門前にて是がヤングと其の諸妻との墓にて候と案内せり成程

ヤングの墓を中央に据へ其他彼の隅に都合三基の墓あり皆ヤングの妻を葬りたるものありき西洋の墓には十字架を彫り付る杯色々の形ちにせる石を樹てし日本の如き風の者と又た之を平ら地上に寝せたる者との二様ありヤング及び其諸妻の墓は即ち第二の地上に寝せたる方者にして長方形ある大理石の上に其の姓名月日等を記したる質素のものなりし又た其の墓地も餘りに廣からず十間乃至二十間四方ありしと覺ゆ

◎問 嘗て承りしが彼地新聞紙の上に付尙ほ日本と異なりし箇條はなきや如何

○答 英國にては一事一物幾んど皆其専門の雑誌なきものなきし例への慰みの事柄のみを記載して發行する遊樂新聞あり又た自轉車あれば自轉車の事のみを記載する自轉車雑誌あり其他遊獵川漁に至る迄皆そそれの雑誌ある程の事あれぬ知してや重なる藝術事業に至ては皆そそれの雑誌なきものならず但た茲に一種の奇異なる雑誌ありてマツトリモニアル、ニウスと名つく右の縁談新聞とも譯すべきか一切世間の縁談

送新軒以波之縁
及我邦以波之縁
日新報以波之縁
告中往還々々
有以告往還々々
僕事以告往還々々
于女其方縁求
誰有讀其文者
淫非使奇人々
抱腹無絶倒
亦非無絶倒
女天縁士靜者

の口入れを記載せる新聞にて餘り可笑しき新聞あるがゆゑに余輩も其見本として一枚を携へ歸れり右の新聞を一讀すれば實に抱腹すべき事少からず先づ第一面に現れ居るは年齢何歳幾許の收入の男ありて此たび年齢若干如何ある女房所望ありと廣告し居るもあり又金持の後家らしく見ゆる者の若き入夫を求むるもあり其中に餘程財産を所有したる者を記載したるも少からず又此の新聞に因りて實際便利を達し睦むく婚縁を爲し居り合好き者幾千人以上ありとか其數を記載せるもあり果して左程の効能あるものにや去り乍ら婚姻の人生の大事あれば互ひに其平生を知り居るが上にも念に念を入れるこそ常あるに斯る新聞の文面のみを便りとして縁を結ぶ者ありとは實に廣き世の中と云ふべし尤も通例の人先づ斯る新聞には構ふべき理窟もなければ相應の讀者もある事と見ゆ去り乍ら又た時としては大なる間違を惹起す事も少からざる由にて嘗て右縁談新聞紙上にて年頃の男子の廣告と年頃の女子の廣告とあり双方共に似合ひしき事と思ひ互ひに相投せしかの愈々双方より日を約して見合

遂軒曰此輩遠失勢所不免

遂軒曰其位者高尙其名非我輩幼穉記此而後新報之快

ひの爲め某の所に出會せり扱て男女とも先方は如何ある人物ありやと且は心配し且は樂み乍ら顔を合はしたるに何ぞ計らん兄と妹にてありければ双方共に仰天して逃脱せしと云ふ物語りさへある程あり又右の新聞は定めて婚姻の節世話料として金子を申受るやうの事も之れあるへきに察せらる兎にも角にも先づ面白き新聞と云ふ可し
佛、伊等の國々と英國とは新聞記者の身上に付きて亦た各々相異なる場合あり佛、伊二國に限らず米にても其他何れの國々にても新聞記者の通例政治家を兼帯する者少なからせ文學得意の政治家とか又ハ法律得意の政治家とか各々其得意とする所は様々あるも兎に角新聞記者とありて政治家を兼帯せる者多し早く云へば新聞記者たる者の通例政治家の役目を務むる者少からせ佛に在りてハチエーア氏が新聞記者たりしか如きガンベッタ氏がレピュブリックフランセーの記者たりしが如きクレマンソー氏が現に新聞記者たるが如き皆を其證あり又た伊太利に在りても有名なる新聞紙にして其記者たるものが國會議員中の重なる人物と稱せられざる者の幾

んど稀なる程あり又た米國に在りても今の大統領クリブランド氏と三年前雌雄を争ひたりしペイン氏は亦た新聞記者あり其他西班牙の議員中にて重なる政治家と稱せらるる者ハ皆を新聞記者にして諾威瑞典丁抹等の諸國の如きも粗は同様の有様あり是れ蓋し新聞社の爲に云へば然るべき人物を主筆と頼む時の其社の勢力を増すが故に勢ひ然るべき政治家を聘するに因るとあるべく又政治家の方にても之を機關として我説を世に表白するの機會を得るか故に亦た進て之に當るにも因るあるへく又新聞紙に關係われは其名を廣むる事も早く隨て政治世界の頭角を露らすに便宜あるが故にも因るあるべく凡そ是等種々の都合より新聞記者の政治家兼帯の者とあり來りし事あるべし然るに獨り英國のみハ殆んど其趣を異にし政治家ハ政治家新聞記者と全く別々の職業を爲し居れり尤も尋常人にてハ固より新聞の主筆とあると出來難き譯かれハ新者記者の名ハ世にも聞へ相應に珍重もさるゝ傾きはあれども去ればとて他の國々の如く新聞記者ハ則ち政治家と云ふか如き譯にハ行かす何とされハ新聞記者

新聞限りの事務家にて政治家とは先づ縁のなきものと云ふ如き仕方ありのあり是れ英國と他國との其の新聞記者の身上に於ける異同あり去りかから英國の記者とて随分社會にハモデル方の者にて又た新聞記者の行狀にハ話柄とある事少くかからすタイムス新聞の前の主筆(二三年前に死去せり)某が尙ほ社務を執れる頃英國の上等社會の貴婦人等が聊か企る事ありて新聞に大鼓を持ち貫ねば不都合ありとの相談にて則ち盛宴を張りて彼のタイムス記者先生某を招待せり素より計りての事あれば彼の廿名許の上等の貴婦人等は寄りて集りて周旋款待至らざる所なく右より左より取持ちたる末緒て此度の企を申入れ貴社新聞にて然るべく助勢を頼み入る旨を述べたるに彼の記者先生は太と平氣に受合ひ委細承知せりとて其夜の別れたりしが其後間もかく愈よ右の一事紙上に現るゝ事とされり然るに彼記者先生は滔々たる筆を以て遠慮會釋もかく此企の筋に違ふ廉々を指摘し散々に非難したりければ上等社會にハ其頃傳てて笑話とありしといへり

送軒白忽
出人意外
痛快哄笑

◎問 先日引續きてソート、レーキ、シターの有様を承はりたし

○答 前記せる如くモルモン宗の創立以來僅かに五十年許に在るかからぬの間されども之に歸依する者の中々に少くからぬ有様されハ他の耶蘇教徒の者共ハ頗る心配ある趣にて種々の手を盡し或ハ間者を縦ちてモルモン宗徒とあらしめ或ハ尋常の旅客とありて彼都府に滞留し色々秘密する内事をも聞き出し其の奇談も甚た多きあり今其の秘密の一二を掲げんに彼の世界の始めに當りエホバの神が創めてアダムある男子一人を作り又た其の肋骨を抜き取りてイーブある女子一人を作り此の男女二人を花園に住らせ置しにアダム、イーブの惡魔に惑はされエホバの神が豫ねて食ふべからせと命し置きたる木實を食ひたるより神の大に怒り始めて人類に死と云へる罰を與へ是よりして人類の蕃殖し乍らも死と云へる事必ず之れに伴ふ様ありしと云へる經典の本文に従ひモルモン宗に入る者は最初此の始末をハ見振芝居にて示す儀式ありたれハ始めてモルモン宗

に入りたしと申し出る信者を、先づホノ暗らき風呂場に導き異様な衣
 服着けたる婦人出て來りて身体を洗ふ是れ現世の塵濁を洗ふて尊とさ神
 の徒となるの印あり此の洗視畢りたる處にて又々之れをホノ暗らき一室に
 導くなり信者の此處に待ち居る中忽ち隣室にて何か物語る聲漏れ聞ゆる
 なり是れ神が天上にて愈々下界に人類を作らんとの相談をなす處なり此
 の相談終りたる處にて神の下界の花園に象とりたる前面の庭に下り來り
 此處に色々の男女出て、前記のアダム、イーブ。を作る事より惡魔に誘ひ
 る、迄の始末を演す殊に彼の兩人が神の誠を破て食ふと云へる木實杯は
 樹身のじめ一切其處の壁に畫がさあるありと云ふ甚た子供らしき事に似
 たれども其歸依の者共より觀れの轉た信心を増さしむる者と見ゆ此事は
 近來米國の耶穌教徒が聞者とありて入り込み自身現に目撃して探り出し
 たる私密あり

モルモン宗の本山の今日にてハ年々一百万圓の収入ある由にて此の一百
 百圓の多く宣教師を派出し其宗旨を弘むる事に用ゆると云へり余等ハハ

バナクルと稱する彼宗の寺院を見物せるに全体の結構は先づ一寸舊の明
 治會堂の如きものにて只た廣き會堂の左右及び後透にかけ四角状の二階
 を着けたるのみの極て質素なる普請ありし壁上には彼の祖師スミスか神
 の告げにより銅牌を掘り出す處を畫きありしか是も餘り感服すべき程の
 手際にハ非りし會堂の前面ハ例の如く説法壇ありて其壇上の模様杯ハ
 別に目立ちたる程變りし處もあらざりし此の會堂ハ都合二万人を坐せし
 むる者の由にて殊に意を用ひたるは堂内音聲返響の趣向なり番人が余等
 を導きて會堂の後邊の壁際に立たしめ己れは其反對の端なる前面説法壇
 の上に立ち小さきベン先をポトリと机の上に落したるに其響き明らかに
 二三十間此方に立ちたる余等の耳に聞えたり
 右タバナクルの外觀の異様なるは屋根の色尋常の瓦など、違ひ一寸日本
 の草葺の如く見へし事なり又た此近邊に新たに大なる寺院を建立しかけ
 尙は普請中なるを見しか前のタバナクルが堂内の柱は悉く木の地を色ど
 り大理石、蠟石様になしたる杯のゴマカシとは大に違ひ皆な立派なる石材

にて組立て居りたり

◎問 一夫多妻の有様又ハモルモン宗と他宗との關係等に付き何か目立ちたる事ソート、レーキ、シテに之れありや

○答 一夫多妻の正道たる否とは扱置き一夫に事かふる多くの細君が皆な幸福なりや否との一事は頗る話の多き所なり兩三年前の事と覺ゆ彼の都府にてモルモン宗徒の婦人三千人以上の大集會を開きたる事あり集會せる婦人は何れも既に人の妻となり居る者にて其中には當ソート、レーキ、シテの開け始めより此に住る居ると云へる七十歳以上の老婆もあり各々其の一夫一婦たりし時と又た後ち一夫多妻となりし時との事を比較し已れの身上の經驗に就て演説せるに皆な一夫多妻となりし後の樂み多き事を言はざるはなかりしなり然れども米國の一体の婦人仲間にては斯る邪教憂びこりては倫理地を掃ふのみならず女性たる者の幸福を滅絶するにも至るへしとて特に一夫多妻排撃組合と云へるを結びて頻りに之を

遊野日實
倫理地之
天理之
大

防禦するに盡力なし居る仲間もあり此の組合より出だしたる探訪者杯がモルモン宗の婦人に就て親しく聽き得たる所なりとて報告せるを觀れば現に多妻の仲間になり居る婦人にて其實に誠に面白からぬ味氣なき日を過せし居るとの中情眞心を打明けたるも往々少らぬ趣なり然れども斯る不平を纏かに訴へたりと云へる婦人は大抵最初に婚禮せし元妻又は第二番目に嫁し來りしもの等其多くを占め第三以下の年少細君には割合に寡なかりし様なりき

兎に角に幾分か此方の心持ちにて迎ゆる所あるかも相知れぬと彼の都府にては出遇ふ婦人も相見る婦人も何となく勢なく影の薄き様想はれたり殊に歐洲諸國又は米國の自餘の諸都府とは相違し婦人の市中を往來し居る者の極めて少かりし一事は亦た實に目立ちて覺へたり

ソート、レーキ、シテハ固よりモルモン宗徒の闢きたる地なれば其管にもあるべきなれど全都府悉くモルモン宗都ならざるはなき程の勢にて府廳の役人首じめ一切皆なモルモン宗徒なれば偶々に他宗の者あるときは之

唯々居士
曰我邦類
之者不爲
少其志可
惡其行可

れを異端外道と視做し万事に付け排斥さるゝ有様なり余等が市中の或る書林に立寄りたるときも彼の書林の主人は己れモルモン宗徒にあらざるか故平生残念なる事のみ多しと物語れり又た笑しかりしは余等の同行中少し用事ありて當都府の殖民事務取扱所に立寄るへき積にて旅舎を出る時より其旨を馬車の馭者に申付け置きしに市中の見物都べて畢りて旅舎に返着く迄彼の馭者は到頭彼の取扱所に立寄りて之を責むれば只だ何か口中にてグズグズ囁くのみにて更に動かず餘りに面倒なれば遂にソコより下りしがアトにて考へ合すれば彼の取扱所は耶蘇教徒なる米國人の出張所なればモルモン宗徒たる彼の馭者は之れを仇とし悪くみて故さらば立寄りざりし者なり

モルモン宗徒の内規は至極善く行き届き五人組に伍長を置き伍長を都ふるに百人長あり百人長を都ふるに万人の頭ありと云へる如き仕組にて終りは之を本山の一ト手にて總管する杯の趣は都合好く出来居る由なり佛宗の者其の評判にてハ彼の宗徒の經畫は追々には米國の國會議員中に其

の宗徒のもの幾名を出だし幾分か議場の勢力を占めたる所にて彼のユータ州(ソート、レーキ、シテ)は即ちユータ州の首府なりをハ行くゝ獨立の一邦となし此にモルモン宗の本據を定めて是より次第に米國を蠶食して己れの宗旨に引き入れ米國を一統し了りたる處にて終には全世界をして悉くモルモン宗國と變せしむべしとの企なりと云へり彼の宗徒の心持より云はゞ其位の處までは勿論意氣込なくしてはならぬ筈にもあらんが先づ實際には其の第一歩すら覺束なけなる有様なり

ソート、レーキ、シテにはモルモン宗徒の專有の機關新聞もあるなり

◎問 彼地にて歳暮年始の儀式ハ如何

○答 歳暮年始の儀式は佛國と英國とは稍や異なる所ある様に覺ゆ佛國にては専ら年始を祝する様なるが英國にてハ専らクリスマススを祝するとなりクリスマスとは耶蘇基督の誕生日にて十二月廿五日の曉なり此の日をクリスマスと稱へ是れより一月初めに掛けては先づ英國にて重なる商店は大休とも云ふべき有様なり則ちクリスマス歳暮年始を兼ねたる一

年中の大なる切れ目と云ふも可なるべし
 親戚朋友知人に對し一年中の歳暮年始の折目切目の祝日なればクリスマス
 スの騒ぎと云へば最早や十二月の初めよりソロソロと騒ぎ掛ける譯にて
 店々の前には「クリスマス進物御用杯」と書きつけ種々様々の物を列べて賣
 捌くなり又此の頃になれば一般の人氣も何となくソハソハとして恰も日
 本の正月前の如き心地せり最も得意なるは子供にて祖父祖母或は叔父叔
 母兩親兄弟杯より其貧富相應の玩物手道具の類を澤山貰ひ受るを心待
 ちに待受け樂み暮すなり又互ひに意を屬せ居る若き男女の如きは此の機
 を幸ひに然るべき贈物を爲して嗜好を通ざるもあるべし又日頃の無沙汰
 を此時の進物にて詫る朋友も多かるべく万事万端一切の折り目切れ目の
 十二月二十五日のクリスマスより大切なるものなしと考へ居る風習な
 り又通例の知人にて品物を贈答する程に至らぬ者も互ひにクリスマス、カ
 ードと稱へる一種の名札様のものを贈答するなり此の札は大小精粗種々
 様々あれども先づ通例は四寸内外のものにて恰も西洋カルタの如く細長

送軒日新我
 邦端新記
 恭賀以表
 等字是爲
 賀意是爲
 近年世間
 一便是更
 郵例是更
 加便是更
 亦劇一便
 生者此俗
 彼是亦同

碌々居士
 日忽出
 戲談証
 家雜樂
 車賣動
 々々筆

く格好なるが通例なり而して其表面には或は草花或は人物杯種々様々の
 面白き洒落たる繪に彩色を加へて印刷しあり又其上には「汝の幸福を希ふ」
 とか或は「目出度今年」とか「嬉しき一年」とか種々の文句を記載しあり此のカ
 ルタの背面に先方の名を書し又此方の名を書し互ひに贈答して懇意を表
 するなり然れば十二月廿五日前後の郵便脚夫の大困りにて平常の書簡に
 比すれば幾十倍とも云ふべき状袋を運送するなり左れば配達するたびに
 下女杯に向て其骨折を述べ立るも少からず又年中出入りの郵便配達人
 其他の者に此のクリスマスの時に少々の心付けを與ふる家も甚だ多し
 是等の有様の恰も日本の歳暮年始と同様なり
 備てクリスマス前の前晩の子供の身に取て此の上もなき樂みの夜にて何
 時の頃よりの言ひ習ひせにや靴足袋を其の寝間の扉に釣り下げ置く時
 天人が來りて種々様々の玩物を授くるとか云へるとにて此等を爲す童男
 童女も少なからず就て其家の父母兄弟祖父祖母杯の豫て用意し置きた
 る種々様々の玩物をクリスマスの朝子供の未だ目を覺さざる内に其寐床

送軒日興
晉起童男
聖以飾衣
女早去婦
裝以去婦
狀一洋之
景光之

の近所に堆く積み置き子供の朝目を開けの己れの周囲に人形其他種々様々の物あるを見て先づ第一に悦び居るなり斯の如き始末にてクリスマスハ先づ家内の祝ひ日にて他人雜らずの樂みを爲す日と視做すも可なるべし

クリスマスの前日よりの恰も日本の松飾を爲すが如く綠葉を以て種々の飾付けを爲すなり英國にて右の飾りに用ゆる木に二種ありて其一ハ日本の松の類にて赤き實の結り居る様に覺へたり又他の一ハ日本にもあれども稀に見掛る所のものにて先づ楓の如きものなり此の二種とも先づ常盤木の類にて其葉ハ十二月頃青々とし赤或ハ白の愛らしき實を其間に着け居るとなれハ歳暮年始の飾りとしてハ恰も申分なきものなり左れハ此の二種の木ハ右祝日の十日前より處々方々にて日本の門松を售る如く售り行くなり因て之を買入て先づ通例天井より下がり居る瓦斯ランプに飾り付け或ハ室内に飾りある鏡の縁杯に飾り付るもあり又其邊の額杯の縁に飾り付るもあり斯く此の綠葉の室内に飾り付けあるを見れハ何となく

樂々吾才士
老練可
其其人
敬服

人氣もサエぐどなる心地するなり異郷の者に在てすらも斯の如くなれば子供の時より是れに慣れ居る彼地の人々にハ定めて我々ハ正月のお飾りを視る如き心地するとなるべし

◎問 其他のクリスマスの景況ハ如何

○答 扱て十二月廿五日ハクリスマスの當日なれば其拂曉より寺々にてハ日曜安息の如く頻にカラン／＼と鐘を鳴すと共に爺媼の如き老人を首め其他家内の然るべき者ハ先づ第一寺参りを爲すなり又寺々の方に在りてハ固より祖師降誕の日の事なれハ無二の盛んなる儀式日にてソレ／＼飾りを爲し祭禮を執行ふ参詣人の寺の儀式濟みてソレより各々定まれる親戚の集會所に赴くなり此日ハ親戚朋友團樂して樂みを爲すとなれハ豫てより何れの家に打寄るべしとか誰れの所を此の會に用ふべしとか父子兄弟祖父祖母杯の間にて定めあるとなれば其處に一家族落ち合ふなり是れ彼地にて父子兄弟別居すると持前の風俗なれハ一家族落ち合ふて歡を盡すにハ祖父の家とか子の家とか兄弟の家とかに皆な落ち合ハねハなら

ぬ都合なるが故なり

晝飯を以て宴會の時と爲すもあり又晩飯を以て其時と爲すもあり
る鵝鳥及ヒクリスマス、プツチングと稱ふる盛物菓子おもてなしの如きハ恰も日本の
正月の雑煮同様是非共此日に添そへねばならぬ獻立けんたてなり鵝鳥の間に合あひざ
る所の牛肉にて其代りとなすも少なからず斯くして上等は上等下等は下
等夫れくゝに打寄りて歡を盡し此日を樂み暮すと成り

左れの當日の都て店々の戸を閉め倫敦市中の外ぐわいふんの恰も日曜日の淋しさに
尙は一層甚しさを加へたるものにて家内の樂みなき旅客杯の身にハ隨
分困却する日柄なり偕てクリスマスせせの當日を過れハ其翌日より諸興行觀
世物芝居の一年中の當て込こみ時にて何れの場所くも塞がり切る程の始
末なり平常閑なき手代番頭職人其他仕事ある者共ハ此の二三日ハ手足を
伸のばして氣樂きらくに遊び得る時なれハ中以下の遊び場ハ別して賑にぎはひ榮ゆる
なり

◎問 英國杯にて通例品物を贈答するるとハ日本と同様なり

趣なるや如何

○答 品物を贈るとハ隨分日本と同様なる場合もある様に見掛けたれど
も日本の如く頻繁ひんぱんにハあらざるが如し先づ英國杯にて品物を贈るハ第一
婚禮の儀式の時なり此の時にハ或ハ座右に置くへき文房具又ハ花嫁の襟
飾腕環其他茶道具の類を親戚朋友より祝いわひとして贈り遺すと實に盛んな
る風俗なり少し身元ある人なれハ其親戚朋友も亦身元あるが故に其の贈
り物のみにてハ中人以下の身代位の金高に積るとなりと云へハ右婚禮の
外にハ別に品物をヤリトリすべき定まれる節なし但ハ田舎に旅行し或ハ
遠國に旅行する時ハ其地方くゝの綺麗なる産物を歸かへり遺して贈る者ハ甚た
多に似たり又其他地方より倫敦杯ロンドンに用事ありて出京せる人ハ一い夜にて
も二夜にても其相知れる人の家に引止られて逗留杯する節ハ其宿料の返
禮と云へる意味にもあるべきか一寸したる小道具或ハ額面杯を其家の主
人主婦娘杯にソレく贈るも少からず又タマたまくゝに面會する知人ハ一
寸したる手綺麗なる其地方の産物杯を贈るともあり

送軒曰恭將敬
子之未恭將
幣之未恭將
敬之未恭將
者之未恭將
敬之未恭將
在其心而無
論也其物不
世動則爲人
以表其敬
於其心則
問其心則
空其心則
謂之禮
成已禮而

英國杯にての銘々の誕生日を其身より取りての非常なる一年の禮ひ日と爲すにて男女に限らず已れの誕生日に其身寄りの者を會し茶話會にても開くか或は少し身元好き所の小宴にても開くかする者少なからずまた誕生日に父母たる者の其子に一寸としたる品物にても必らず之に贈り又子たる者の其父母より對して心計りの贈物をも是非爲す杯誠に床しく優しき風俗なり又同居せる父子兄弟の間にては誕生日にソレ々贈物を爲す者通例なり就中子供の如き誕生日とさへ云へ其父母兄弟より種々の玩物類を必らず貰ふ可きの日なりと心得心待ちに樂み居る有様なり

又たポアステイブック(生日録と譯す可き歟)とて筆硯文房具杯を賣る店々に三寸四方許りの手綺麗に拵へたる金綴の小冊子を賣り居れり是の銘々所持して己れの父母兄弟朋友知人の荷めにも誕生日の贈答を爲すべき人この誕生日を忘れぬ様記るし置くべき爲の手扣にて一年中の月日を入綺麗に印刷しあり英國の子女にして此の生日録を携へ居らざる者なし親

送軒曰此
一車尤忠
厚之至唯
利是而之
若此兒而
可謂奇矣

戚知人におかながら其誕生日に音信贈答を爲さざる時甚だしき不愛想の人の如く思はるゝ事なり

◎問 伊太利の衣服家屋等に付異なりたる風俗を承り度し

○答 衣服などの有様より云へ伊國の首府なる羅馬或は是に次ぐべきフローレンスなどの格別なれども其の小都府に至れり衣服の風の甚だ面白き者多し先づ第一旅客の目に留まるる日本にて坊主合羽或は廻合羽とも名くべき合羽の袖の足の踵にも届く程の長さ者を着け右の腕を合羽の外に合せ目の處より出し其右なる長さ袖をはバタリと左の肩に打掛け居る事恰も袈裟を斜に掛けたる如し則ち左の肩の方合羽の形まゝにて一面に垂れて踵に至り右の方右の腕を露し之を斜に胸より左の肩に纏ひ居れり然して其頭に戴きたるの縁の廣くして軟やかなる高さ帽子の上を一の字形の中に折込みたる者なり(明治七八年頃まで日本にて少し流行せり必ず讀者の記憶せらるべし)此帽子を少し斜に打冠ふり彼の長さ廻合

羽を袈裟掛けにし細長き巻烟草を薫らしつゝ、カッフヒー店の門口の柱に斜に立居るは是れ伊國田舎の若者の一寸意氣なる所と云ふべし余輩の眼より見れば恰も中世の歐羅巴に至りし心地して當時の歴史上の事どもを思ひ出さしむるの種となる者なり又西班牙杯も右の長さ廻合羽と畧同じき者を着け居る由なれば是の裝束の一体に其昔羅甸人種の國々に行われたりし遺俗なりと見ゆ伊國の巻烟草の其丸さの英佛諸國のよりも甚だ細やかにて長さこと殆ど此に倍せり而して巻烟草の口元より中心に極小なる管の如き者を刺しあり是を抜きて吸ふ様に爲したり全体に同國の烟草の甚だ強く辛き方の様に覺ゆ

伊太利の諸小都府の殆ど日耳曼の諸小都府と同様に衣服帽子の有様も種々様々あり丸帽子を冠り居る者あり高帽子を冠り居る者あり誠に不極の有様なり又羅馬の如き首府を以て云ひ高帽子を冠り居る者の先づ身元ある人のみにて通例の種々の低き丸帽子を戴き居る者多し又倫敦などにてマンテル及びチヨツキの黒の色類にてズボンのみ縞物を着け居るが

通例にして先づ縞羅紗などの田舎行か或は極打解けたる時かのみの外之を着ることなきに羅馬などにては縞羅紗の服を着けて往來し居る者も澤山に見懸けたり又人種上より云ひ恰も英國に茶色の毛多く黒色の毛少なき割合程伊國には黒色の毛なる者澤山にて赤茶色の毛の先づ少なき方なり倫敦などにて黒髪の日本人杯の背影を眺むれば著しく目立つ事あるが羅馬等にては黒色の毛ある人多きが故に日本人杯も左まで目立たざる様の心地せり又其面貌を云ひ伊國人の日本人などの風韻に極く適する方にて英人に比すれば佛人の顔のキユツと引締りて意氣なる方なるが佛人に比すれば伊人の方の一層引締りて意氣に見ゆる者多し又其顔色の淡紅の者(英人の如し)鮮なく寧ろたい白き方あり

又家屋の有様の一体に諸都府共に英佛二國に比すれば古びたる方にて其建築の模様体裁の先づ似寄りたる者あり唯た英佛諸都府の中古の建築風より漸々に進歩して種々の材料物質を煉瓦に造り又た遠方のものを運送し得る今日の事あれば昔しの木材を用ゐし所にも今日の鉄或は

石を用ゐると云ふ傾きにて万事輕便に越くと云へる勢あるに伊國の諸都府に至り見ればそれ迄にの進歩し得せして是の尙ほ中古の建築風をなし居る者なりと思ひしむるの有様あり例へば屋根瓦の如きも尙石瓦を用ゐずして多く赤色の燒瓦の粗末なるを用ゐ且つ其屋根の勾排格好まで依然中古の畫圖を見る如き心地せしむる事多し又中古の建物の其儘に存したる町々は其家の壁などの馬鹿げて厚く丈夫なること實に人を驚かす程の事あり今日にての不要の處に下手念を入れて無用に物質を費やし使ふ事を爲さず諸事萬端唯た其の入用なる處までに限りて切り詰め煎し詰めて都てキヨウに賢く出來するに昔し物の昔し物程無駄念を入れ無用の場所に材料物質を費やしあるの何れの國も同様にて則ち伊太利の諸都府にては是より類する事共を夥しく其の建築上に見かけたり又昔し其府内の市場に用ゐたりし者と見え小都府の中にの必き一二ヶ所大なる廣小路の如き空地あり處に因りての現に猶ほ府民が茲に集り色々の市を立て居るをみ見受けたり又其の府内の諸街路の概して狹隘なるか上例の如く悉く

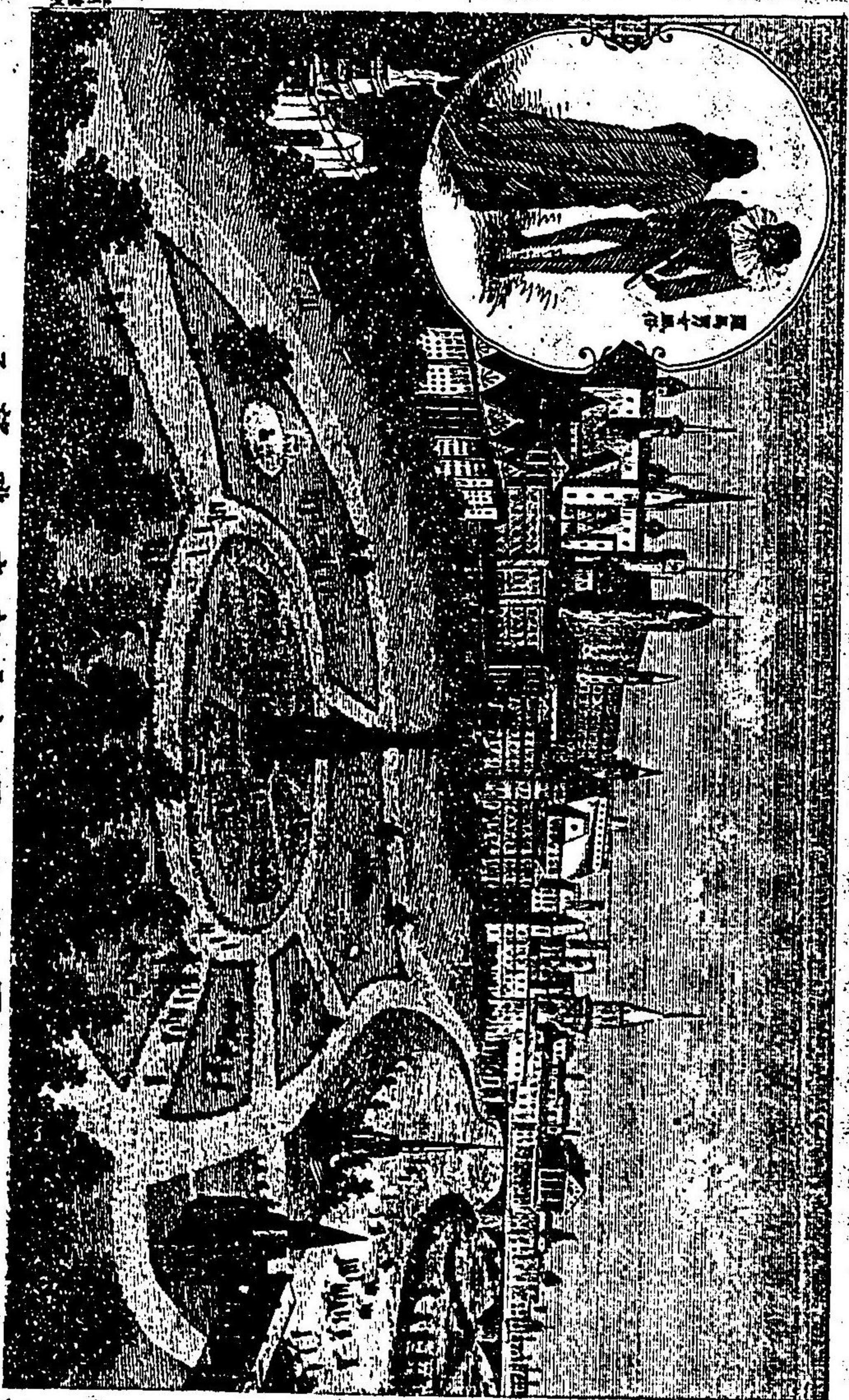
石疊になしあり故に車にて馳する度毎に甚だ繁昌する事なり伊國の諸都府にて用ゐる定時馬車乗合馬車等の先づ通例佛國と同様なり

◎問 伊國羅馬府の有様如何

○答 羅馬の二千年來の古跡にて西史を讀む者の皆な何となく昔しなつかしく想ふ處なり余等の如きも日本に在りし頃平素羅馬吏を翻閱して古羅馬人が歐洲全土を一統し居たる時の事などを追念し其の模様ハ斯ありしならん杯と想像し居たること久しかりしか一たび吾脚を其の境に着くるに及ての實に懐古の情に耐へせ余ハフローレンスより夜瀟車に乗込み羅馬府を指して出發したりしに未明にの既に羅馬府の近傍に馳せ着たり車中の小使が戸を開て最早羅馬に近づきたりとの聲に眠を驚かされ俄に衣服を更めて先づ瀟車の窓より其邊の景色を打眺めたる事なりしが此日の細雨霏々として降りしめり太と穩やかなる初夏の天氣なりけれハ斯の煙雲蒼濛たる中に左まで險しからざる遠山の徐かにウ子れる波の如く遙に西北に横りるを見たり是れ即ち彼の古羅馬人と争ふたるサビ子人種

漢野白馬
馬之地勢
委由詳細

の棲みし地方にて余の地圖を案じ扱ひ彼處ありけりと思ひたり
 既にして羅馬府に近づけば彼の有名なる古水道の怡も無限の長橋の如く
 蜿蜒として平野に奔れるを見たり是れ則ち二千年前の遺物にして日本に
 は是に似よりたる土工なきが故に類を以て之を比說せん事難けれども先
 づ通例の日本の長橋の橋柱を燒瓦にて圓形に疊み上げ其上に高さ四五丈
 の燒瓦の洞道を幾十町とさく直線に續けたる者どころ云ふべけれ兎角す
 る中流車の間もなく敗類して苔茂したる古城壁の間を横切りつゝ羅馬府
 内に到着せり
 概して羅馬府の地形を言ひ初め余等の想像せし如き險阻あるものには
 おらず先づ一面の平野にて近くは三四里遠きは七八里の間に山勢極て温
 籍なる鬱脈の遙かに羅馬府の幾分を抱擁し居るあるのみ是は余等のみか
 は知らされども初め羅馬の古史を讀み當時の地形を想像する時は羅馬府
 は都て險阻なる山岳を以て立て廻はされたる者の様なる心地し居たりし
 に斯る平坦ある有様を見て先づ意外の思をさしたりしが又熟考れば二



羅馬公地都府眺不

遺跡曰如
地視其實

千年の間には羅馬府近傍の地勢も想應に桑滄山谷の變を經たりし者にして昔の羅馬府は恰も既に土中に埋め盡し今の羅馬府は昔しの羅馬府の天井を基礎として其上に立ち居ると云ふも可なる程あり其證據には市井の片はどりには幾千年前の古高宅の下部の八分通りは地底に没して僅かに其上部の一二分の地上に露はれたるを利用して穴居同様其の内に生活し居る貧民も少からず又地底より掘出したる古建物の圓柱杯は概ね皆其の頂さ今の家屋の土臺より下にある者多し羅馬府の人口は概ね六十万内外にて市街の建物は全体に古びたる者多し左れども亦た中古建築の模型を存し甚だ丈夫に見ゆる者も少からむ今の王室か伊國一統の功を奏し十五年前茲を以て其の首府とせし迄は此地は唯た羅馬法王に參拜し世界第一と稱するカソリック教の本山寺院あるサンペートルに參詣せんとて輻湊する所の信徒並に此地の各所古跡を探るか爲めに接踵來遊する所の旅客の二者を相手に全府の活計を立て居たる者されり市中に露く所の品物も皆な是等の外國人の本國に持歸るべき土産物多く日用品の方

ハ左におもむらざる様に思はれたが左れば全体に町も狭く之を巴里倫敦の
きに視ふれば其大小冷熱の固より相比較すべき類にあらざ然れども今の
王室が此地を首府と定めしより漸々に市區を改正し新らしき建築杯も起
り行々ハ一の繁華ある新都會にも變すべき有様なり先づ前記せる人口と
此地の沿革の舊來とを察する時の畧は其他の事を推量すること難からさ
るべし

◎問 引續て羅馬名所の御話を承り度し

○答 巴里倫敦の羅馬府に及ぶる一事は其の名所古跡の多きこと是か
り左れば余等の逗留中も新らしき繁華の場所への赴き觀ること少なくし
て暇ある毎にハ輒ち古跡のみ見物せり西史を讀みたる日本人杯に取りて
第一に珍らしきハ彼の二千年前共和政治の始めより王政の始めに至るま
で用ゐたりし古宮殿の跡なり又羅馬史中にカピトルと書し其節羅馬の本
城とも云ひし處にハ今日も尙は其の上に羅馬の府會議事堂府縣など建築
じあり其の廣さハ二三町四方にて今日にても他の地面より一二丈も高く

是奇觀
是奇觀

達軒曰昔
時隆盛
如之狀
觀歷々

登へ居れり前記せる如く今の羅馬府の基礎ハ昔しの羅馬府の天井の上に
立ち居ることを考ふれば其の昔しの羅馬府の頃ハ此本城の地面ハ餘程
市街より高く扱んで要害の區たりし者と察せらる前記の古宮殿ハ即ち此
本城の裏手の麓にあり此古宮殿ハ舊と地面の下に埋もれ居たりしを中ご
ろ其土を築ひ上げて掘り顯したる者なれば尋常の往來の方適かに宮殿
の圓柱の頂さよりも高く之を見物する者の皆な往來より一段低くさ地面
に降り行くことなり此の宮殿の趾にて今日に存し居り認め得へき者ハ其
一部の石壘と三四の圓柱と又其傍らに立てる一箇の凱旋門とのみなり此
の石壘なる一區ハ即ち彼の英雄該撒が志士ブラタス等の爲に要殺されし
所ありと言ひ傳ふ果して信なるや否や敷石は都て大理石にて其圓柱の格
好風韻ハ亦た實に美事あるものあり

又此古跡の一方には四五町四方の小高き丘ありて是ハ羅馬が帝政に變じ
たる以後の皇居の趾ありと云へり丘の地質は都て煉瓦にして其の舊ハ唯
た一個の宮殿なりし者が幾千の星霜を經る中に漸次土砂に埋もれて遂に

今の一堆の丘を成せしにのあらざるやと思ゆる程の者なり四方より此地に遊ぶ旅客共が前記せる古宮殿の大理石などを持去る者多く之を制禁せされば終に其形を損する迄に至るへきが故に茲にハ伊國政府より出張の番人ありて之を看守することあり余等の如きも何とかして此の古宮殿の大理石を手に入れんとせしか左りとて番人に咎められんも面白からず又其の大なる者の持歸るにも不便されば唯た余か遊蹤の印の爲めにもと其邊の大理石の一小片を打缺きて携へ歸れり他日之を彫刻して當時の紀念と爲さんと思ひ居れり

初め其の共和政治の時代に當り小亞細亞より歐洲を一統して以後羅馬人民の一体に奢侈の風を長したりしが故に其宮殿の圓柱なども既に定めて美事にあり居しあらんとは今日に存する二三の記述を以て之を想像すべきが其の帝政の始めより中頃にかけてハ取分けて建築術の進歩せしものと見ゆ帝政の頃の神廟の圓柱二三本右の古宮殿の傍に立居れるに其物質ハ紫色の大理石にて其割合の宜しきと彫刻の美事あることは實に人を

して感嘆せしむ

古宮殿より少し隔りて一二の凱旋門あり是を過ぐれば彼の有名なるコロセオと稱ふる闘獸場の古建築あり其狀を略記すれば圓形の飯櫃の如き者にて其圓形の周圍ハ殆ど七八町もあるべく直徑二三町もあるべし其圓形の中央に平場ありて茲にて猛獸を闘はしめ或は奴隸をして互に決闘せしめ或ハ人と獸とを闘はしめたる土俵舞臺共云ふへき所あり其の中央の平場より少し高く石を積み上げソレより圓形なりに段々高く數十の階を輪づくり設けあり即ち見物人の席なり左れハ見物人の中央平場にての決闘場を立て廻はして上より看下す様おせるものなり而て其外面周圍ハ地面より幾丈の高さに直立し居れり又其闘獸場の地底にハ穴庫の如き部屋幾個もあり是ハかねて猛獸を入れ置く處にて決闘の時に茲より之を例の平場に引出す様にちしたる者ありと云ふ此の闘獸場の中央は總て廣大なる石を以て積み上げたる者にして其昔しハ總て彫刻せる大理石を以て内外共に飾り鏤めたる者ありしが中古歐洲戰國の時に及び羅馬の古物の悉皆

遷軒曰其風流可想

零落せし頃羅馬の一侯國の主某が其の宮殿を造らんが爲に此闘獸場の大理石を過半取り去り唯たソレのみにて一個の大なる宮殿を建築したりと言ひ傳ふ其他亂世の事なれば何者が取るともなしに思ひくゝに之を奪ひ去り遂に今日の如く其中央の骨のみ露殘するに至りし者と云ふ如何にも以前大理石にて飾りし證據には今日にても其の或る個處にハ尙は一二彫刻大理石の剝落しのこりて存し居るを見受けたり今日に存せる古羅馬の建築物中にて此の闘獸場こそ則ち古色第一と稱せらるゝ所に於て四方來遊の旅客の昔しを忍ぶ人々は風清月白の夜に乘し此邊を逍遙して流光の廢墟を照らすを賞するも多しと聞けり彼のギッポ氏の羅馬帝政史ハ英國文藝社會にて有名の一書なるが初め同氏の此に在る頃一夜月を踏て此の邊に散策し俯仰低回感念の依りたるに堪へず乃ち帝政の史を編みて往事を叙述せんとの志を此時に發したるなりと言ひ傳ふ此の闘獸場の寫眞は日本などにも持歲れる者多けれハ時々諸處にて之を見懸けし者も少からざるへし其昔しハ一たび世界の中心たる名都の間に立ちて莊嚴偉麗を誇

日隆居士不日談古

かたる建築が星移り物換りて斯く荒敗せるの有様を念むひ又彼の古宮殿の中に一たび出入せし該操のブルタス其他の諸豪傑の事を憶もへは轉た懐古の情に耐へず余は逗留中外出さへすれハ幾回となく此れ等の古跡のみ訪ひたる事なりき

◎問 伊太利にて闘獸場及び古共和政治の時の宮殿の遺物等の外に尙ほ古蹟の面白きもの之れあるや

○答 先づ重なるハ嘗て述たる如きものながら尙ほ其他にも之れあり今其一二を記さんに最も奇異なるハ地底の住居是れなり是は羅馬帝政の時耶蘇教が嚴禁を蒙りしに當り其信徒が酷刑を逃れて茲に隠れ栖みたる跡なりとも云ひ又耶蘇教徒が唯た自宗の儀式を以て死者を葬むるが爲めに茲に來りて其の葬式を執行し居りし迹なりとも云へり孰れか信なるやは知らざれとも兎に角奇異なる古蹟なり右ハ今の羅馬府を離れて二十町許りの近郊に在り先づ地面より打見たる處にては勿論何事もなく唯だ小さな入口あるのみにて此れより穴道を地中に這入り往く時ハ石炭玩の如

遷軒曰其風流可想

く無数の部屋ありて其部屋くくの相連りたる廣さハ十町乃至十五町四方
 ありてしとの事なり穴の入口にハ案内者ありて見物人ハ之れと共に各
 ヲ手に日本にて紙燭と稱ふる如き細く長さ一種の蠟燭に火を點じ之を携
 へて案内者と俱に地底に降るなり地底の道の幅は三尺乃至一尺許りの所
 多く僅に人の往來の出來る迄にて又其部屋くくの高さも僅かに六七尺に
 過ぎずと覺へたり而して其部屋くくは唯た上を切抜きたる迄にて實に日
 本の穴居の如き有様なり又處々に柵の如きものあり是れ則ち死骸を葬む
 りたる所の由なり又アチヲコチヲに不器用なる畫風にて魚の形を畫さ
 あり如何なる譯のものにや案内者の詞にハ古代に在りてハ耶蘇教徒ハ魚
 を以て其符牒と爲せし者なりとの事なりしが果して然るや否やを知らず
 扱て我々は一階より二階に梯子の如く刻みたる所を降り又ハ上に登り顧
 りに其邊を彷徨たりしか何分暗黒なる穴の中にて空氣の通ひも十分なら
 ぬハ甚ハだ不快なる心地せり
 右ハ彼の古へに有りしと云ふ迷室も同様にて若し此の地中にて案内者を

迷室
 其
 在
 處

失ひたる時は十五町四方の廣さの三階に成り居る地底に迷ひ迷ふて出る
 の道を失ひ餓死するの外はなかるべしと云ふ既に先年一人の旅客が道を
 失して此中に入りし儘出て來らざりしと云へり又案内を商賣と爲し居
 る其の肝腎の案内者さへも未だ十分には其路を窺め居らざる由にて通例
 旅客を案内するにハ唯た一通りの定まれる場所くくを觀せて然る後に地
 上に現はれ出ることなり

嘗て佛人が百五十年前以前に著はせし小説を讀みしに其中に西班牙の南部
 の事を記し耶蘇教徒が回教徒に罰せらるゝを恐れて人知れぬ穴居したる
 旨を述べたりしが其折ハ唯た小説のソラ事とのみ思ひ居たりしに今ま此
 羅馬の古蹟を見るに及びて始て其全く架空の言ならざるを覺れり
 又右の穴居の近處に耶蘇教の未だ流布せざる以前の古代の墓所あり此の
 時代には皆な火葬を行ひたる趣にて四五寸許りなる小さな壺に遺骨を
 納め之を彫しく一室に積み累さねあり其の模様を記さば先づ一棟の家あ
 りて其四方の壁に段々の柵を設けて尤も煉瓦の柵なり其柵の壁に彼の壺

を一個宛納むる様になせし蒲鉾形の窪み無數にあり左れり家の四面一体に彼の壺を列らべあるなり又た其壺の前に燈火を供へたるものと見へ日本にてカンテラと稱ゆる形の燈火皿の往々存し居るものありし

◎問 英國にて議員大改選の節改進黨保守の兩黨が其選舉に勝敗を争ふの有様如何

○答 余輩の親しく見聞するを得たるの一昨千八百八十五年の大改選及び昨年の臨時改選の有様なりしが一昨年の大改選の保守黨の内閣敗れて政府の全權の改進黨の手に落ちたる儘五ヶ年の間打ち續きし後の大改選なりしかば双方の争ひも非常に劇しき方なりし由なり英國の内閣が五ヶ年間持ち續くの先づ珍らしき例にて此の百年間に長さの十八九年續きたるものもあれと先づ平均の年數の三年内外を常とす然るは保守黨が敗れてより以來五ヶ年間は改進黨の勢力實に旭日の如く一昨年春夏の頃迄の今ま十餘年も持ち續くべきが如くに世間にても稱し居たる程なり左れり保主黨の此度の大改選を以ては是非とも勝利を得て政權を回復せんと非

送軒曰此日我
邦見此改
選何爭之
實況何時
不勝之
下

常に盡力せしむ亦た當然の事と云ふべし去り乍ら一昨年の大改選に到底の勝利の先づ矢張り改進黨に歸すべきやに見へたりしなり尤も世人の知る如く大改選の兩三ヶ月前に改進黨は内閣を退き保守黨代りて政權を執り居たる事なれども逆も保守黨の永續せんことは憂束なく政權の再び改進黨の手に歸す可しとの前表は先づ十人の九人迄の認め居たりしなり然れども兎にも角にも五今年目にて外々の大改選なれば双方の用意も亦た十分行届きたる有様なりき

米國の大統領選舉杯は全國諸州同日に之を爲すことなれば唯た一日を以て双方の勝敗を決するなり然るは英國のみは古來よりの慣習にて國內の諸州諸都府にて其日割種々に違ひ早さあり晩さありて最初に投票の始まる地方より最後の地方に至る迄は凡そ十五日以上を費やすなり其間日々電報にて各地より兩黨の事務所は勿論新聞社に當て某州にては何黨勝ちたり何都府にては某黨の方當選せりとの報道引きも切らき而して新聞社の外面の窓には又た其時々各地の兩黨の勝敗の數を貼出すこと故之を

送軒曰其
見況可想

種々居士
現場可
想

観んとて新聞社の前へ見物人にて黒山を成し居るなり斯く群集して貼出しを觀居る處へ又た一州より改進黨が勝ちしとか保守黨が勝ちしとかの知らせ來りて之を窓に貼り添ゆる時には見物人の中にて其の勝ちたる政黨方に最負なる者のフライクとかワーツとか聲を立て、鬨を揚げ勝利を祝するに又た負けたる政黨最負の方の見物人はウ、ン、ン、ンと聲を立て、呻めくなり彼地の詞にては此の呻きをクラウンと云ふ他國人が聞き居る時には實に笑しなるものなるが不平方は頻りに大聲を出たして此の呻きを立るなり左れば選挙の間重なる會同館又は新聞社の前は毎日朝より晩まで見物人の絶ることなし實に盛なる有様なり

扱て余等の英國の中にて何れの地方の選挙の有様を見る可き歟と相談せし處龍動より西北五六十里を隔てたる有名なるボルミンハムの都府は其製造工業の繁昌なるのみならず政治上には人民の殊に熱心なる土地にて同府の民は各人皆政治家ならざるはなしと仇名さるゝ程なり之ま加ふるに此ボルミンハムは彼の改進黨中最も世人に属望さるゝチャムベルライン

種々居士
現場可
想

ン氏の郷里にて同氏の本營と頼み居る地方なり且つ此度の改選には有名なるジョンブライト氏も同府にて選挙區を争ひ又保守黨にて今日屈指の人物と稱せらるゝチャイチヒル氏の如きも亦た同府にて改選を争ふ譯なれば其土地と云ひ其候補者と云ひ此都府こそ先づ英國選挙の手本とすべき一番の觀物たるべしと聞きしかば乃ち同府に赴くこと、決したり扱て同府の各區の投票日と定まりし日の一日前に余等の龍動より發足して同府に赴きしが餘り心急きたるまゝ、馬車を乗り過りて同府を通り過ぎ二十里許りもマンチエスターの方に赴き中途にて復た他の涼車に乘移りて再び同府に至る杯不都合なること多かりしも同府に着せし時の幸にして尙は甚はだ晩からざりしかの同夜チャムベルライン氏の演説の定刻には間に合ひたり

◎問 引續てボルミンハム府にて親しく御聴きなりしチャムベルライン氏の演説の模様及び其他大改選の景況を承はり度し

○答 余等の旅宿を定むるや否や直に同氏の演説の場所に駆け付け視れ
ば早や聴衆の堂内に充満し其中庭までもヒシシと詰め合ひ居り尙は其
上に多人數外より推入らんとするを屈強なる巡査十名餘りも立ち塞がり
て之を防ぎ居る有様にて中々演説堂内に入ることは思ふよらざる有様な
りき因て一と工夫を抜出し其處に居合はす一二名の巡査を傍に招き我々
は同氏の演説を聴聞せんか爲めわざと遙々と龍動より來りし者なり何
とかして堂内に入れ呉れよと懇に依頼し聊の心付を與へしかば彼等も外
國人の遠方より來りしを氣の毒にや思ひけん今ま暫時待つべしとて種々
に盡力すれ共何分雲霞の如き聴衆が堂外より押寄せ推詰め居ることなれ
ば如何とも爲すこと能ひを一時間許りも庭内に佇み居たれ共爲ん術なけ
れば余等は痛く失望して早や旅宿にも歸らんかと思居たるに四五名の巡
査來りて如何にもして堂内に送り込むべき間我等の間に介まり給へとて
前に二三人後に二三人にて其間に余等を夾み聴衆を推分けて入口の前に
進みたり豫ねて打合せありしにや入口に達すると斜めに少しく戸を開く

や否や其處に群集せる人民の一同に激浪の如く押寄せ來るを巡査の盡力
にて余等のみは首尾好く堂内に入るを得たり(因に記す英國の巡査は最も
身材の大いなる者を選抜すること見へ左らぬに丈高き英人の中にて
更に目立つ許りの大男のみなり伯林、巴里杯の巡査ハ其骨格身材の大小に
至ては逆も英國の巡査に及ぶこと能はず左れば予等の如きハ其腕下をも
潜るべき程の大男が五六人余等を夾みて堂内に送り呉れたることなれば
斯くは首尾能く其中に入るを得たりしなり)
扱て堂内に入り見れば立錫の地無き迄に聴衆ハ充満し居れ共兎に角に尙
は庭前にて人民の推合ひ居る程の窮屈なる有様にはあらず跡を斜にして
群衆を推分くれれば彼方此方に動き行くことも出来たりき尤も椅子杯の如
き腰掛あるのみ只だ演臺に近き前の方二三間の所にて其他は聴衆は皆な立
ち居るなり正面を望み見れば恰も日本の棧敷より舞臺を見たる如く一段
高き演臺ありて此時にはチャムベルライン氏今ま方さに演説し居れり同
氏の演臺の前面に立ち其の前には卓子あり卓子の上にハコツアに水を入

れあること恰も日本の演説の有様と同一なり尤も演説者の卓子の前には
 立たず卓子より離れて近づき演説し居れり又た其演臺の舞臺の如くにし
 て其上の少し手廣なれば此區の改進黨の重立ちたる人々世話人及び數名
 の貴婦人は皆な演説者の後に椅子を並べて二十餘名も列席し居れり扱て
 予等の此度に限らば彼地の人より丈低く何分人の肩のみ見へて遠方の有
 様の見難さが故に成るべく人を押分けて前の方に進行かんとしけるに聽
 衆は早くも余等が外國人なるを認めたりと見へ口々に「外國の紳士なり前
 に通せ」と傳呼して成べく路を開き呉れければ余等の好き事に思ひ路
 の開けしを幸ひムヤミに演説者に近く進み行くに隨ひ益々路開け次第に
 ズリ進みて演臺より二三間の所に達せしかば最早此にて宜しと止りしに
 演臺の上なる世話人等の早くも余等を認めしにや其中の一兩人降り來り
 て其處は不自由なるべし此方に然るべき場所之を有りとして彼の演臺の上
 に伴はんとしければ余等は幸なる事に考へ導かるゝか儘演臺の上に登り
 他の紳士貴婦人と共に椅子に凭りて聽聞したることなき此度に限らぬ

演説者
 紳士
 外國
 紳士
 亦
 是
 國
 風

日本
 紳士
 居
 日
 人
 者
 須
 謹
 言

送新日
 是觀切
 我國厚
 不汗願
 不汗願

ことながらボルミンハムの人民が外國人を親切に取扱ふの好意は余等の
 深く感謝する所なり之を思へば外國人となへ云へば直ちに之を敵視する
 東洋人の風の實に慚愧と堪へざるなり面相客貌の相違にて直ちに外國人
 と見るや斯迄に丁寧に取り扱はるゝは万里の他郷に在る者の身に取ては
 實に喜ばしく思ふなり右の世話人らしき紳士が外國人を斯く取扱ふは先
 つ然あるべきことながら演臺より隔たりたる聽衆は多く職人体とも見ゆ
 る有様なりしに斯る者共に至る迄口々に「外國の紳士なり」とて故さら
 に路を開き前に進ましむるなどは實に感ずるに餘まりありと云ふへし

◎問 引續てチャムベルライン氏演説の模様を承り度し

○答 扱てチャムベルライン氏の演説は先づ英吉利風の中にて活潑な
 るものなるべし余等の當夜四五間傍にて近く聽居たることなれば余等の
 耳にも先づ大抵の分明な意味を解し得たりしことなりボルミンハム府の
 全体に氏の部下多ければ此夜の聽衆も大抵の同黨の人々なりしなり氏の
 演説の大体を言へば聽衆を殆ど掌の中に入れ居る容子にて其の喜怒を

支配し抑揚すること自由自在なるの有様なり其一例を言へば右選挙の時
の彼の地面論の事喧しく牝牛一頭と地面三エーケルの話の名高き頃なり
ければ氏の演説も専ら地面の事に關係し居りしか聴衆の中に一人ノ一ノ
と叫びし者ありしに氏の直ちに其邊に向ひ諸君此處にも一人の地主あり
と笑ひ指せしに之と同時に聴衆の関を作て其ノ一ノ一の聲の發せし方に
浪を翻へすが如く推し行きたり聴衆の喜怒ハ一に氏の言に因りて左右し
得べきこと此の如し

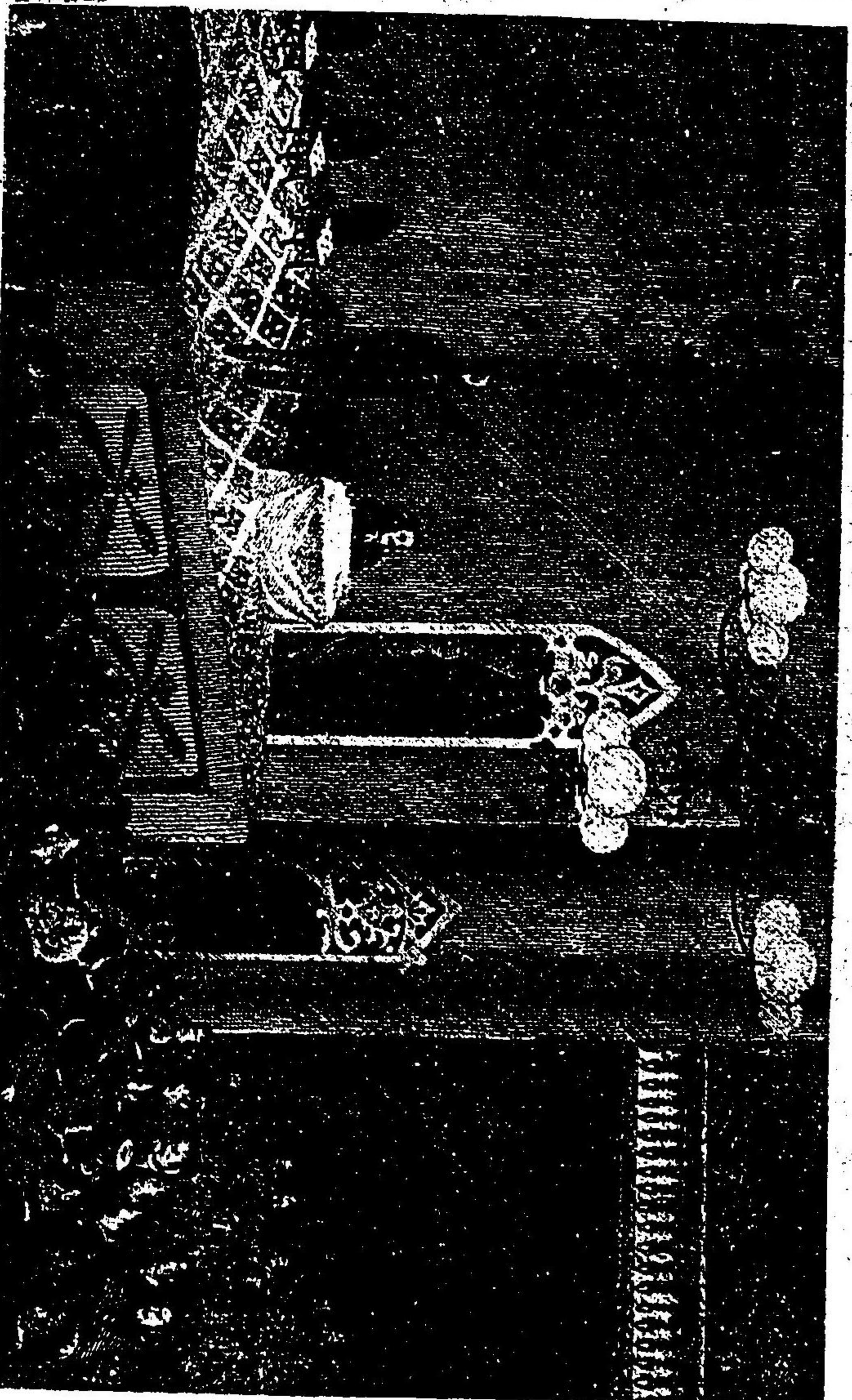
演説の論意は聴衆次第にて或の深く或の淺さハ勿論免かれ難きことなり
氏の當夜の演説を氏か平素議院にて述る所の議論の体と比較するときは
實に淺く分り易きを主とせしものと見へ其論意に於てハ曾て感服すべき
處も見へず只た如何にも聴衆を悦ばし射方に勢をつける勝手の理屈のみ
を述べし者と評するも可ならん左れば概したる所當夜の有様の先づ一口
に言へば政治上の祭禮とも稱すべきものなるべし元來此區ハ氏の選挙區
にのあらし但た其の部下の政友を此區より選挙せしめんが爲に援兵に出

其筆記一
見其熱心亦

懸けしものなり果して翌日の選挙に此區ハ改進黨の方に多數を得たるこ
となりき

又演説壇の前には各新聞社の通信者ありて各々傍目もふらせ筆記し居り
七八分若くハ十分毎に其書き終りしものを傍らに待居る小使に持たせて
銘々の社に送り遣はす有様杯ハ實に忙敷ことなり

扱て右演説の翌日の投票の當日にて則ち兩黨ハ其の勝敗を決するの日本
り豫ねてハ投票の當日ハ定めて賑か意外なりき先づ各區に臨時一二ヶ所
定まれる投票の役所を設け之に役人出張し居りて朝九時頃より夜八時頃
に至る迄の間各選挙人はソレ々其の役所に赴ひき投票を爲すことなり
其法ハ先づ三四寸四方の骨牌の如き紙ありて之に其區の候補者の姓名を
記載しあり通例ハ改進黨保守の兩黨より各々一名を出すことなれば候補者
は二名なれ共中立黨或ハ獨立黨杯の其區にある時又ハ改進黨保守黨中に
て候補者の相談調ハズ一黨より二名の候補者出づる時ハ右の骨牌の上に
三四名の姓名を記することあり左れと先づ通例ハ兩黨の候補者一名宛



子ムベラルシノ氏演之圖

昭和四年

○答 投票の始末先づ前記の通りなるが故に外部より觀れば只た投票所に選舉人の出入を爲すのみにて別に何等の賑かなることもなし但た茲に舊くよりの仕來りの残れるの兩黨か各々其の重なる躬方を別仕立の馬車を以て投票所に送り込むことなり英國に嚴重なる選舉令ありて選舉の爲に賄賂を行ひ或は賄賂を受け或は金錢を以て種々のことを爲すは皆な嚴罰あり左れば何事も只た金錢の縁を離れ相談づくにて爲すことならでい出來き若し然らずんば反對黨の爲に苦情を申し立らるゝの恐れあり故に通例商賣の馬車杯を金錢にて借入れ之を用ふるは法律に背くが故に其黨内の人の手持の馬車杯を貸渡し之を其黨の用に供することなり選舉の節には各選舉區に兩黨とも各々臨時に其事務所を設けあり其黨中の事をバ万端此の臨時事務所にて取扱ふなり左れば右借用すへき所の手持馬車をバ多く事務所を集め扱て譜代の黨員其他定まれる躬方の選舉人等が事務所に来るを待ち右の馬車に打乗せ馬車の横には各々其黨の得意の文官杯を貼付け或は其黨の候補者の名前等を記載し此車にて事務所より

選挙人等を投票所に送出すことなり去乍ら是れすらも餘り賑かには見へず先づ一通りのことなり英國にてハ概したる所改進黨には金満家少なく保守黨ハ財産家多きが故に事務所より選挙人を投票所に送る馬車杯ハ各區共に通例保守黨の方の賑かなるに勝を取らるゝなり又其區の候補者ハ馬車にて時々其區内を乗廻り己の顔を見せて選挙人に勢を付け躬方を勵ますの一手段と爲すなりチャーチヒル氏の室ハ素て美人の名ある人なりしか其夫の勝利を助けんか爲に同日も馬車にて頻りに選挙區を乗廻りし由され共余等ハ行違ひて之を見るを得ざりし扱て此日も暮れて十時頃に至り最早各區投票の結果も布告さるゝならんと待居たるに此の結果を調ふるには立會人ありて一々之を監査する等其他鄭重の手續あるが故に中々急には纏まらず十二時前後に至りて始めて結果を警察署の前に貼出したたり兩黨の撰舉人共に結果如何と待に待て眺居たるとされハ其貼出しを掲ぐる毎に双方勝負の見物人ハ黒山の如く群集し居り互に鬨の聲を揚げて勝利とて躍り狂ふもあれハ負け方ハ又た例の

選挙日

紳さ聲を立てるもあり中々に大騒ぎあり尤も群衆の一番多く集まる所の府廳の前なる廣小路なりき愛蘭人民の同府に出稼ぎ爲し居る者等ハ職人ながら各々其帽子に白き紙を付け之に行け汝の國を救へハの文字を書して之を正面に被ふり三々五々相伴ふて歩行し居る者も見受けたり勝てハ勝ちし様に負けハ負けし様に各々得意もあり小言もあり同夜は三時四時迄も廣小路の近處にハ殆んど人通りの絶へざる程の賑ひなりし扱て同日の結果ハチャンベルライン氏は勿論ジョンブライト氏何れも改進黨の先選も當選せしがチャーチヒル氏の反對の候補者の爲に敗られ直ちに引返して龍動府内のハッテントンの區に出て是より二三日後に當選せり同氏のボルミンハムにてハ逆も當選ハ覽束あきは畧ば知れ居りしも同府ハ常に改進黨の爲に蹂躙せられ保守黨の勢少きが故に同氏を請ふて先づ其候補者と爲せしものなりと聞けり左もあるべしと思はる以上ハボルミンハムの選挙區の有様を畧記したることながら投票の模様兩黨の事務所の有様其他都へて何れも先づ之と同様と知る可し以下にハ

全体の選挙の有様を畧述すべし

◎問 然らば其大改選總体の有様は如何

○答 大改選の争の先づ其豫期の投票日の畧定まる時より漸々に始まることなれ共兩黨開戦の端の先づ兩黨の重なる黨員が其撰擧區の人民に對して銘々の意見書を發布する時より啓くるものと云ふて可なり此意見書の發布の兩黨の中一方は先きに一方の後るゝ如き譯にて借へば甲黨の方にて先づ乙黨をして意見を發露せしめ然る後之を攻撃するを以て勝を取らんと欲する時の成るべく控目にして自分の意見書を發布することを俟居るべく又た雙方の持論の畧ぼ平日より定まり居ることなれば斯る駈引に關せき己れの必ず勝者たるへきの地位を恃み自から先きんして意見書を發布するも有るべし一昨々年の如きはグラッドストーン氏が第一に其意見書を發布し保守黨の方は之を俟ち受けて攻撃するより戦を開きたる姿なり又兩黨の中にて末流の候補者等は先づ其黨中の領袖たる人々の意見書の出つるを俟ち居り之に拱揖して己も亦た己れ相應の意見書を

作り之を其選挙區内の人民に示すことなり兩黨共に其末流の候補者が只た其黨の先輩の出したる意見書の骨髓共言ふべき簡條を簡單に少し許り寫し取り書き直し之を己れの意見書として出すもなかくに笑しく興あり撰擧の時節に諸方を行き視れば處々の停車場の壁杯に其區々の兩黨の候補者より出せし意見書を印刷してあちらこちらに貼付けあるもの多し又た候補者の右意見書を發布せし上に少くも一二回其區内にて演説會を開くことなり又た其他各黨々々にて内會を開きて躬方の勝利に付色々相談杯あり凡そ是等の諸會の皆な其區々の重なる黨員が世話掛となり之を執行ふなり余等も知人に伴はれて一夕某區の保守黨の内會に赴きしことあり是の内會のことなれば先づ保守黨最負の譜代の人々のみ集まりて此度の勝利を得んことを相談するの會なるか見渡したる所五六十人許りあり白髪のお翁其半を占め日本にて言へば歳にも恥ぢずと云ふ程の人々が白髪頭を振立てゝ頻りに躬方の勝利を工夫する杯冷眼より見れば笑かしき程に熱心なるの感すべき事なり

又た候補者の演説會も保守黨の方は先づ聴衆には豫め入場の切符を渡すこととし聴衆をして勝手次第には入らしめざる向多かりし蓋し斯く爲されば反對黨の者共多く入り來りて妨を爲すの憂あるが故なるべし改進黨の方の概して自由集會にて切符を用ゆるに及ばざりし者多し如何にも地方に因て反對黨非常に多く亂暴も爲し兼ねまじき場合又は切符集會を爲して聴衆を肆まゝに入れざるも時々取ての良謀と云ふべし後來日本杯にても國會議員選舉の節杯に一黨のみ非常に多く他の一黨非常に少く隨意集會を爲す時は他黨の爲に亂暴なる妨を受くるの恐あるに當ては是非共之を嚴制せざるへからず斯る場合には巡査を用ふること通例なるべしと雖も右保守黨の如く切符を用ひて集會をなすの法も亦一の好手段なるべし

又選舉の七八日前より其區内の處々に貼紙を出し之に何黨の候補者某を選舉せよと大字にて認めしもの多し或は候補者某平和主義の躬方を爲せとか或は某の主義に躬方を爲せとか一二の詞附加へあるものも之れあり

其貼紙の大きさは通例は三尺四方のもの多し四尺以上のものは先づ見當らざりしと覺へたり扱て愛に奇異なるは黨に因て此の字杯の色を異がへ居ることと是あり例せば右貼札の大字を書するにも保守黨の必らき青色を用ひ改進黨は多く赤色を用ゆ故に其字の色を見れば通例敵躬方を區別し得ることなり去乍ら地方に因ては改進黨に青色を用ふるものも少からず保守黨よりは吾黨の色を盗みし杯と嘲けり誹るを以て見れば青色の全体も保守黨の色なりと見ゆ斯く青の稀れに兩黨混淆する事われ共赤に至ては保守黨の決して之を用ふることなし右の敵躬方の紛れを避るか爲に保守黨の中には黄色を用ふる者もあり是れ蓋し保守黨の首領たりし故に保守黨のコンスプヒーランド侯が櫻草を愛せしが故に其花の色に象とりて遂に保守黨の一の色と爲すに至りしものと云へり又た青の五色の中にて最も久しきに耐へて變せざるものなりとの意味より保守黨の方の之を其主義に近く永續の義を表するものなりと爲し古き時代より之を以て其黨の色と爲せしと云ふべし

◎問 彼地にてメスメリズム或はスピリチエーリズムと稱へ一種不思議なる力を用ふる者之れあるやに聞し

果して如何のものなるや
○答 如何にも其の事ハ豫てより承り居れりメスメリズム或ハスピリチエーリズムと稱ふる奇術家の内ハ人の面部を軽く撫て擦る真似を爲し居ること二三分ハ經つ時ハ其の術を施されたる人はウトウトと眠り
を催ふし又たハ施術者の命ずるが儘に如何なる舉動をも爲さしむる者あり又頭の上をソツと手にて撫る真似を爲すこと暫時ある時ハ其術を施されたる人の意中を悉く見顯すことを得今ハ爾々の事を思ひ居るからん斯々のことを欲し居るなるべしと之を探ぐり當てる事に妙を得たるものあり又た室を隔て他人が紙上に如何なるものを描きしか如何なる形を寫せしかを云ひ當てる者あり右ハ折々新聞紙にも見へ又た話しにも聞きたることなればとたび右の奇術家に出逢ひたしと思ふ心頻りに起り來れりさりながら餘り世間にはありふれざるものと見へこれを見るの機會に

達軒曰開
化之有狀
而猶有狀
嗚呼如我
事往々不
足見矣

出逢はざりしを甚だ遺憾に思ひ居たり然るに一昨年の夏の末頃余等が倫敦西北隅に寓居せしに圖らず其の近所の街頭に右の奇術家現れたることを聞き出せり尤も通例の落語或ハ芝居の如く席を設けて此の術を施し見物人より席料を収る仕組みにて其奇術家ハ佛人マダム某と云へる者由頻りに評判せり且つ所々に貼り札杯をも見受けられたる之を宿屋の主婦に語り御身は如何に思はるや斯の如き奇術ハ随分實事に之ありと思はるやと茶飲み話に話したるに彼の主婦ハ左ればあり先年我懇意の者が其妻を失ひしに跡に一二歳の小兒ありて毎夜母を慕ひ終夜眠らずして泣き續けて居たりしが遂に不眠の病症とありて其の父親ハ無論親戚へ甚だ難遣したりけるさりあから後にハ其小兒に夜中藥劑を用ひて眠らしむることゝなしたれども何分魔睡劑を屢々用ふるは身体に宜しからずとて大に心を傷めける折しも幸ひ其の邊に眠りを催ふさしむる奇術家ありければ之を雇ひ來りて毎夜其術を施さしめしに毎時小兒ハ能く眠りたることあり左れば強ち右の奇術の之なきに非るべしと答へたり左らば

其の子の後年まで成長したりや」と問掛けしに如何にも尋常の子供と異ることなく成人せしは親しく我知れる處なり」との答を得たれば今は轉た右の奇術を見物したしとの心を増し左れば兎も角も行て其の模様を試し見んとて二三人打連れて見物に出掛ることゝのされり
 偕て右の興行場に至り見れば通常音楽杯を爲して人を集る場所なりけり先づ場内の芝居場の如く又た通例の寄席に髣髴たり向ふには舞臺の設けあり此方に上等中等下等棧敷あり殊に此の夜の既に大入にて見物人は七八百人も場内に充満し居たり孰れの國の寄席にては少しく入りのある時先づ第一に見物人の充満するは中等下等の場所にて上等の棧敷は明き間多きか常なるが此の場内も亦同様に大入なれども未だ上等の棧敷は満ち居らざりしかば余等の連中の則ち此の棧敷にと席を定めたり尤も舞臺より僅かに二三間を隔て居る所なれば都てのこのを見物するに甚だ便利なる所なり
 己にして彼の奇術家の婦人現れ出ると與に滿場喝采の聲宛ながら湧くが

迷軒曰其
容來太巧

迷軒曰其
巧實也太

如くにて其婦人と云へるは先づ三十前後の年齢にて美人と云ふ程にはあらねども其の人品も卑しからず如何にも佛蘭西人に一寸相應なる骨格にて其の身軀顔杯は與に少し平たく肥りたる方にて髪は黒く顔の色は雪を欺く程に白くして少しく赤みを帯ひ其上美事なる衣服をさへ着け居ることなれば通れなる品格にぞ見へたりける只た其の目元如何にも鋭く其の言語舉動は沈着にして最と靜かなれども底意の惡しき氣象自から現れ來り恰かも小説杯に形容せる魔法使ひの女と云へる容貌なりけり同伴せし宿屋の主婦杯は之を見て如何にも薄氣味惡き女かなと評したるばかりなり扱て此女の奇術家は先づ見物人に向て賦禮し其の術の事に付き聊か演説せり其の大体の抑もこの術たるや決して恠み驚くべきものにて非らき理學上より其の理あるを諦め得べきものにて只其の力世人の耳目に物珍らしきは故に之を疑ひ恠しむ者あれども右の大なる誤解なり」と云ふにありて何か理學に縁因せし様に演説爲したり右終りて再び見物人に向ひ「我れ只今我術を試みだぐ思ひ候へば見物人の内よが尤人ばかり此所に御

出あらんことを乞ふ又た茲に申し置候きことあり此のメスメリスムの方
 の多く感せる人と少く感せる人とあること恰も尙は雷氣に對して多く之
 に感せる人と少く之に感せる人とあるが如しされば我術を試みたる上に
 て其の感じ少き人もあるならん其の節は代り人を求むべし又た我術を施
 す間の我命を守る所を守らずしての叶はぬことなり我か命を守らざればと
 て此法に感すべきものにあらす斯る人此方より相斷るべし能々此の旨
 を諒せられよと云ひ出したなり
 扱て何者が試験を受けに来るやと思ふ内に下等機敷の方より十餘人ばかり
 出來りしかば其内九人を取りて剛をば斷はりて元の機敷へと返へらし
 めたり何處も人情の同様と見へ中等以上の人々の衆人中にて斯る試験を
 受けんが爲めに舞臺に上るは其品格に關することなればとて上中等の機
 敷より一人として動くものなく我れ先にと出る者の皆な下等機敷の品
 格を構はざる者ばかりなり扱て此の受験人等は舞臺に上るや否や其數に
 應ずる丈の椅子を見物人に面して一列に並べ受験人等をして一々之に

目録
目録
目録

着かしめたり此の時下等機敷の方より下ツト一度に鯨波の聲を上げ手
 杯敲ひて騒ぎ立てし此の試験を受けに出掛けたる仲間をばやしたるこ
 と見へたり
 扱て今や試験を施ささんとするに方り彼女は受験人等に打ち向ひ都て何
 事も我命する如くに爲すこそ肝要なれ先づ各々右の手を出すべしと云ひ
 ければ受験人等右の手を差出して掌を開きたり此の時彼女の懐中より直
 徑二寸計りで見ゆる基石形の丸き平たき物を採り出して一々受験人の掌
 の上に置き我の留むるまでの隙を定めて一意此の品物を見詰り居べしと
 命じたり右の基石の如き物の定かになれと見分け兼ねしが其の面滑形を
 爲せる様に見受けられたり扱て其の儘に見詰りて我命を守るべしと聞く
 まり此方の受験人等皆な一同に觸目も觸る其物をのみ一生懸命に見詰
 め居たりしが中にも心輕るげなる者と見へ時々ジロリと見物人の方
 を打ち詠め或は彼女の顔を見る者もありけり彼女の斯くと見るより其傍
 らに近か寄りつゝ左様にてい進もこの術の行はるべきものにあらず疾

送軒曰此
怪何等不
奇法知此

引き離し見よと教へければ善し君等の方にては到底引き離し得むと思ふや如何にと聞しに如何にも致し方なしと答ければ我之を解き遣かばすべしとて又た肩先より襟の邊を撫る真似を爲し手を打て何れも其手を引き離し見るべしと云ふに右の者等は其の組み合ふたる手を容易く別々に引き離すことを得たり

◎問 引き續きてメスマリズムの事を承ばりたし

○答 それより又た彼女は受験人等を一列に並べしめ此のたび受験人一同を笑ひあひへしと告げ乃ち各々に向て其の術を施しけるに都合七八人の受験者の皆初めの程ハラくと笑ひ居たりしが後ちに其可笑しさに耐へざる様子にて互ひに稽さして笑ひ合ひ或は見物人を指さして笑ひ

三三六

送軒曰此
怪何等不
奇法知此

出し最初の其の笑ふ度毎に各々横腹を抱へ居たりしが終に其笑ひ耐へまやあけけん舞臺を轉げ廻りつゝ笑ひ出しければ余等も之を見て自から笑ひ出し横腹を痛くしたる程なりき扱て彼女の最早や宜しからんとて一々受験人等の傍らにて稍暫らく不思議なる手附きをなし終に受験人の眼前にてハツと手を拍ちしかば受験人等は皆さく夢の覺めたる如くに正氣づき初めて笑ひを留めたり右受験人等の笑ひ方ハ求めて假笑ひしたるものとも思われず真に可笑ましくして腹の底より笑ひ出せるものと見受けられたり

扱て此の次は受験人の右の手右の足を療れしめて不感ひと爲し或は其の近所の手の達する所に貴重なる物品を据へ置きて之を取れと命ずればも受験人等自ら取る能はざりし又た其の最後に至て小供用の鞆の太鼓喇叭の如き諸樂器を宛てがひし受験人等の恰かむ子供の如く更に餘念なく機々の盡しを爲すには余等も絶へず笑ひ續けたり此の夜は是れに其扱ち切かとなり皆あつと思ひくは誠に歸かなきの

三三九

さて其の翌日余等の下宿に於ては此のメスメリズムの一事が一話物とありて彼の受験人等の笑ひ方と云ひ其の所作と云ひ故さらに斯くするものには非ず眞に出るものなりと云ふ者あり或は之を疑ひて左様ある事のあるべきものに非ず是れ迄メスメリズムスピリチュエリズムと唱ふる術も世間を驚す程の實力なき者多し杯と云へるものあり終に争論の種子を生じたり其の中にも余等の如きの右の力を試したく又た其の理をも究めたく思ひ頼かにメスメリズムスピリチュエリズムに關せる書類杯を求め得て其の理を究むへし杯との騒ぎを爲せし程なり去るにても余等は今一應之を確かめ置かざるべからず我々の外國人なり旅の恥の掃き捨て我々自から進んで其の試験を受けんかそれも餘りのことなりとて差し控へ此上は何とかして然るべき者を雇ひ入れ其の者に彼の術を試させたと乃ち此の家の主婦に向ひ金の相應の所迄我々より辨ずべければ然るべき職人体の者にて十餘名ばかり雇ひ呉れよ今宵こそ此等の傭人を率ひて再び彼の場へ赴き傭人等に其の術を受けさせ此等の傭人より其の力の感

其る時が有様の如何かりしや如何なる心持せしやを聞き訊きたしとて其の傭ひ入れを頼み入りければ彼主婦も去る者にて私共も其理を知り度一事に就きては尊公方と御同説あり必らず力を盡すべしとてそれより出入の八百屋或は近所の酒屋に赴きて頻りに受験人とあるべきものを尋ね求めしに尋常の者の皆左様ある奇術を施れては如何なる心持するやも測り難し氣味の悪きことなりとて一向に募りに應ずる者なく爲めに其日の事を果さざりし然るに余等の尙も試験の念絶へせし翌日も又た主婦に頼み頻りに傭人を捜さしめしに遂に受験人となるべきもの四名を得たり由て先づ其の者等と約定を爲し彼等の入場料は余等より之を辨せし又た彼女の命を奉じて十分に試験を受けたる上の三シリング計り我七十五錢より八十錢内外に當るを與ふへし若し彼女に剋ね除けられて試験を受けざる時の別は三シリングを與へせ只彼等の見物得と爲すべしと申し渡し如何ある者共にやと其の様子を窺ひ見るに孰れも皆な廿二三計りの若者にて氣の利きたる様にもあられと随分馬鹿氣たる所少なからず斯る

者にては如何にやと氣遣ひむ他に慕ふに應ずる者なれば先づ之を用ふることに決し扱て今夜こそ此等の受験人を突然彼の舞臺に登らしむべしと用意茲に整ひたれば此の下宿の家内中打ち揃ふて左らば是れより見物に出掛けよとて皆なく余等と與に立ち出たり

○問 引續きメスメリズム試験の模様を承りたし

○答 扱て例の刻限に彼の場に至り余等の一行の雇ひ入れし者共と皆なそれくの棧敷に入れり兎角して暮も開き彼女例の如く現れ出て又た例の如き口上を述べ見物人の中より十餘名來るべしと求めたりスハや今こそ余等の雇人も出つへしと眼を注て見てありきに大勢の望み人の中より先づ十餘名の舞臺に出ることなれり其中に余輩の雇ひたる者二人丈け入込むことを得たり左らば此者共が如何なる力を感するやと片唾を呑んで見てありしに其一人は試験を行ふに及はずしてムザムザと匂ね出されたり今一人の後に遺りしかば先づ好しと思ひ居たりしに問もなくして其の者も亦た遂に匂ね出され余輩の甚だ失望したりしことなりしが又な

能く見れば舞臺に昇りたる受験人の中の二三人の先夜も舞臺にて見掛けたりし受験人に相違なく儘かに其の顔付きに見覺へありければ扱て一杯食はせられたりと早や茲に感付さしかば尙ほも其心して都ての事に注意するに疑はしき事のみ多かりし斯くて其夜も打ち出しとなり皆な打ち連れて歸りし後ち余等の彼の雇人等に向ひ汝等如何にして只た二人のみ舞臺に昇りて他は昇り得ざりしやと問ふに後邊の棧敷より上等の棧敷の間に一二の關門ありて嚴しく取締り容易に人を入れお何か譯ある事にや其關門を取締るものが隨意に人を選びて舞臺に昇るべきものを定むることにて我々は眞先に飛出したれども右の關門にて支へられたりと答え又他の雇人か彼の舞臺に昇りて受験人に用ひらるゝ中に余の知れる男あり彼の毎夜舞臺に昇るなり定めて彼女との間に何等かの約束にてあることならんと云へるも可笑しく又た其の他の様子を見るに甚だ不都合なることのみなりければ余等の仲間にては扱ては一杯喰はせられたるに相違なしとて果の笑ひになりしが兎にも角にも余等の慕りに應じた

阿同所附定日豫
々穴謂迷席如々
狐不亦之我居
也外然即邦士

也無其此事界選
奇本和往奇軒日
怪即能々怪之世
事次究皆皆之

る者共を其の儘に返へさるる氣の毒なれど進客を三ツの金と
與へて返へし遣りたり右の始末にて余等の十分に試験を爲すこと能はざ
りしか先づ其の時の有様は右の如くなりさるる事
若し深く疑ひを懐きて右の事情を判断すれば彼女の用に供すべき若者を
豫じめ廿名若しくは三十名雇ひ置き是等をして毎夜替りて入れ遣ひに
受験人たらしむるものなるやも亦た知るべからず或は彼女が試みに豫じ
め其の術を施し其の力の能く感ずる者丈け撰みて之と契約を爲し置きて
見物人の前にて之を施すものなるやも亦測るべからず多分右の兩様の外
にハ出でざるべしと思へる何人とも雖も十分右の力に感ずるものゝなきハ
明白なる事實なり如何に物好きに任せよ同じ受験人が毎夜舞臺に現はる
ハハ兎に角怪しき事柄にして其の力の不十分なるを証するに足るべし右
ハマダム某と云へる女の力のみにて就て斷案を下したるまでなり然れども
廣き世間ハ如何様の事あらんも知れざれば世上のマスメリズムスピリ
チニリアリズムハ概して皆右の如しとの云ふべからず其の後彼地によ

大に逢ひ偶々此の話しに推し移る時其人々の話しを聞きて其の力に感ず
る者も稀にハあることありさながら十分に感ずるにハあらざると云ふ彼
地に遊びし人の中には定めて右の類を見分せし人もあるあらん余等が出
逢ふたるハ右のママム某一人にして其の他の不幸にして之を實驗するこ
とを得ざりしあり

◎問 彼地の人は煙草を嗜む由に聞き及びしが其の模様
は如何

○答 先づ倫敦を一例に引て申さば如何にも煙草を嗜む人の澤山ある様
あり去りながら余等の如き他國人が倫敦市中を彼方此方と徘徊して見受
けたる所に據れば巻煙艸をふかしながら往來途中を歩き居るハ紳士に少
なく概して下等社會の者に多し就中尤なる雁首に一杯煙艸の満ちたる煙
管をくゆらしながら歩き居るハ大抵下等の職人に限れるが如し又或ハ練
物製の白く長き煙管を咬み居る杯ハ別して職人中に多し途中咬へ煙管に
て歩きの倫敦巴里與に概して下品なる人物にて身元善き紳士の稀なりと云

て可なるべし且つ倫敦探にても中以上の紳士は出入共に手馬車を用ふる人の格別おれども其の外の或は流車或は乗合馬車鐵道馬車等に乘る者の先づ煙草を吹はぬ方多し尤も流車に別は喫煙室の設けおれども乗合馬車鐵道馬車等にては一切煙草を禁じ居れりさるからに途中煙草を喫ながら歩き居るも馬車杯に飛び乗る時の忽ち之を捨てねばならぬ次第なり右の如く或は喫み或は捨るの不便あるを以て途中煙草を吹ふもの自から少なきものと見へたり

倫敦にて先づ良品と云へるの葉巻煙草(シガー)及び紙巻煙草(シガレット)なり又た大なる雁首に煙草を詰込みブカリと云ふかすは先づ品柄の悪しき方なり自分の書齋杯にての斯る大煙管を用ふるものあるも知人の家を訪問する時杯にの餘りに見掛けざる所なり又た價の上より云ふも葉巻煙草はなか／＼高價あるものにて一本十二三錢乃至廿錢計りなるもの通常なりされば貧人が之を嗜むは甚た不經濟と謂つべし之に比すれば大雁首に詰め込む煙草の方甚だ廉なりと申すべし刻煙草を紙に拈り込みて紙

巻煙草と爲し之を喫むの暇りたる席杯にての多く見掛けざる所なりさるながら右は甚た廉價ある故にや到る所の店先に置き居らざるはなしされの相應に身分ある人も之を喫むことゝ見へたり

日本に歸り見れり西洋煙草大に流行し居れり蓋し二三年前と比較して著しく進歩せしものゝ西洋煙草を吹ふことゝ思はれ實に予輩をして驚かしめたり今斯く日本に西洋煙草を用ゆること流行する上からの彼地の煙草に關する風義を日本に運び込むことも亦た甚だ必要なることなるべし是迄の日本の煙草なれば其の薫りも強からず従つて煙草を好まぬ人の傍にて之を喫むとも左迄先方の迷惑には非らざりしが西洋煙草の之に反し概して其の薫り甚だ強く煙草を嗜まざる人より其の煙と云ひ煙と云ひ甚た難澁なるものと謂つべし彼地にての何れの所にてても不遠慮に煙草を吹ふことを許さざるの風儀あり是れ必竟煙草を嗜まざる者をして不愉快を感せしむるの恐おれりなり右の最も然るべき風儀と申すべし日本人よし西洋煙草を用ふ程なれば此風儀をも採り用ひて煙草を嗜まざるものに

半睡不語
世間不語
水八意
師水八意
山止七
法鴨七

巖々磨居
士曰磨居
亦甚矣哉

て類に歸朝を促がば來れるのみならず引續き電音を發して直に歸朝せよとの命令さへ達したれば今は猶豫す可きにあらざり殘念ながら斷然意を決して歸途に就るといふなり思ひ設けぬ旅立なれば余が一身に取りていふ可らざるの混雜を極たりしが幸に在英朋友知己の何くれとなく親切に助け呉れたるをもて何事も最迅速に纏まり心置なく彼地を出立するを得たり至急を要する飛脚同然の旅行ゆへ別に物々しく紀行などを綴る程の材料もあければ亦た一つ二つの談柄なきにもあらねば左に其概畧を書き記るして讀者臥遊の一興に供することゝなしぬ余が乗込む可き紐育行の郵船は十二月十一日午後二時を以て英國リパブール港を開帆す可き手筈なれば大抵の乗客は前日倫敦を發して同港に泊せり余も成る可くは右の手續を履まんものをと心構へ居りしが十日の朝來知己の過訪するもの跡を絶たせ夜に入りてい平素懸念に往來せる外國人等の集り至りて別を惜み宴を開き談笑の間に夜を徹したる程なりしを以て遂に前日には出立すること能はる當日の一番海軍にて出立すること

半睡不語
世間不語
水八意
師水八意
山止七
法鴨七

因之士
之失日
酒策英
夫居人

半睡不語
世間不語
水八意
師水八意
山止七
法鴨七

とゞかれり倫敦の名物とていやか上立ち籠めたる烟霧の間より隙をたる旭光の僅かに地平線を離れて斜めに樹梢に映せる曉方の景色を名殘惜しげに見送りつゝ寵送の友人諸氏に別れを告げて鐘笛の響きと共に倫敦を背にして馳せ去りたり余と同室に坐せる英人二名あり皆共に同じ船にて米國へ赴く人なれば忽ちに懸念になり種々の物語りに笑ひ興じて時移るを覺へざりしうち車は只ある停車場に着けり右の二人は物ほしゝとて近處の酒店に這入れり余も共に來よとて誘はれたれと辭して行かざりしが車は問も無く運轉し始めたり酒屋に行きたる二人の英人は車に置き去りにされしと見へ歸り來らる只彼等の手荷物と余一人のみ室内に在り氣の毒なることとしてけりと思ひながら證術をければ其まゝ次の停車場まで來れり車が停まるや否右の英人は大失策と叫びながら室内に入り來り前刻車の動き出せる音を聞き飲みかけた酒も食ひかゝりたる肉も其まゝ投出し狼狽たへ騒いで駆け付けたれと最早間に合はせ止むを得ず役員に乗込み居る最後の車中へ物をばせ身を跳ちして飛び乗り

たゞ役員めが何か云々云つたれども終に強情を張り通して辛ふじて
 助かたりの物語りに又々一興を催はし旅馴れたる君達すら旅中の失
 策はあるものを土地不案内の我々日本人に縮尻のあるも無理ならせと
 笑せり扱て此停車場にては十分間車を停めると云ふことゆへ今度こそ大
 丈夫なり飲み直しに出掛け玉へ己も朝饗をしたへむ可しと勸ひれども
 に所開る噎に懲りて食を廢する道理にて彼等は痛く前敗に懲て動かさ
 らば己れ一人りゆるく飲食せんものをと停車場付きの料理屋に赴きた
 り食事了りて時計をながむれば既に八分を過ぎたりたり丁度よき刻限なり
 と拂をすませてもとの處に立歸り來ればコハ抑も如何何處行さけん車は
 見へず南無三大事を仕出したりと狂氣の如く馳せめぐれと尋ね當らず
 ツヨラに居合す車掌等に問ども充分に教て呉れず進退維谷の場合に迫り
 如何はせんと苦慮せる折柄一人の役員向ふより來應りたれば之を逃がし
 ては大變なりと急ぎ懐より二三志を拾ひ出し彼れの手に握らすると同時
 に其手を捕へてリマブール行の列車は何處に在る早く案内しろとて引立

嗚々嗚々
 士曰天
 不為少
 豈如斯
 而

半嗚子曰
 情者勿忽
 之親

たれば地獄の沙汰も何とやら彼心よ承諾も欣々然として余を其處に誘
 いたりヤレ嬉しやと思ふ間も無く車は既に運轉を始たりソレ選てはと足
 を空らに馳せ付けて漸く室内に飛び入りたり英人等は余が同じ様なる轍
 を踏みしを見て手を打てうち笑へるも可笑しコハ全く此線より彼線へ車
 を移したるまでにて別段おはてる程のことにもあらねど日本の鐵道もど
 くは違ひ幾十百の線路が縦横に入り亂れ列車の出入織るが如き處に在り
 ては一寸の出來事も不案内の旅客をまごつかしむるに足るものなるに況
 して此車は途方もおき方角に持ち去られたることなれば余が狼狽の一方
 ならざりしも亦た敢て無理ならじ惣べて歐米大陸の旅行中汽車の乗り下
 りには別して心を用ゆること肝要なり前人の失策話は後者の鑑戒となり
 て便益を興ふること少からねば余は些細の事柄にても旅行中の心得とな
 る可きことは務めて附記するを事とす讀者此意を諒し玉へ兎角するうち
 瀟車はリマブール港に着し乗客思ひく散亂し余は直ちに馬車を備ふ
 て埠頭へと進みぬ

歴的瀟洋は唐人の熟知せる如く風浪殊に險惡にして盛夏風死し水眠るの時と雖も猶ほ怒濤山を崩すの勢あるに況してや時正さに臘月風雪の候に際し膚を劈くの寒風は空撲つ水を激して船体の揺搖一方ならず秋の木の葉の風に舞ふ心地して數百名の航客概ね船暈を感せざる無し余は印度洋の航海以來中々に剛くなりたる積りにて最初は何程の事かあらんと威張り反りて甲板を散步せしが遂に耐へ切れぬして房中へ逃げ込みたるまゝ五日計りの間は起き出づる能はず空しく呻吟の中に日を暮したり五日目の夕方より我慢して床を離れ食卓に就きたりしが船の猶ほ顛頓して止まらず食堂窓々として卓に向ふ者甚だ少し以て其風浪の尋常ならざりしを推知す可し

半睡子日
余其苦舟
行此同告
船如何也
船像亦感

一日余の朝寝を了へて喫煙室に入り倫敦婦人と題せる小説を讀み居りしか傍らに幾多の航客此處に三人彼所に五人と類を以て集りつゝ或は骨牌を闘はして雉梟聲中頻りに輪贏を争ふあり或は將棋を弄して運籌經營頭を疾まして交々勝敗を競ふあり酒を命ざる者茶を飲む者雜談する者喫煙

する者千差万別思ひ／＼に一方に割據して消遣の道を求む偶々一人あり突然余に向ふて君は日本の貴公子なる歟と問へり余驚き怪んで其故を問へば即ち云ふ下等室に二人の日本人あり思ふに君の従者ならん富貴の人に非らざるよりの遠く従者を引連れて海外萬里の遊を試むる能はざる可しと余の其言の意外突然なるに驚き日本人は己れ一人の外他に乗組をさしものをと空嘯いで取り合はざりしが餘りにシツコク尋ねるゆへ余は單身孤客の一措大なり従者も無ければ朋友も無し滿船余を外にして復た一人の日本人なきに非らざるや何と間違へて左様かことを云はるゝにや其意つや／＼解し難しと一本参りたるに彼れ益々ヤツキとなり否とよ従者を見たるは余の誤りにもせよ日本人の君の外尙ほ二名の客あるは儲かあり同國人の乗組居るをも知らずして反て余を間違など云はるゝこそ迂遠千萬なれ若し偽りと思はば請ふ試みに下等室に到り見る可し必ら吾か言の誤りなきを知らんと威式け高になりて論する傍はらより他の洋人等も口を添へて其相違なし我れ必見たり我れ必知れり吾異口同音に唱ふる

ひ今更三日二日にて散りてに快別し再會の期も測り難き譯なれば今夕は一同懇親の宴を設けて互に名残を惜み度く思ふなり船中の貴女紳士は皆な同意にて其議既に定まり足下も不同意なくば臨席されたり尤も徒らに酒を飲み肉を食ふのみの飲食會にては餘りに殺風景ゆへ餘興として各々得意の伎藝を現はすべき約束にて或ハピアノを弾する貴嬢あり唱歌を謠ふ紳士あり或ハ滑稽の落し話を爲す人演説を試むる者思ひく役に割を定めて歡樂を齎す趣向なり足下は我々に取りて殊に東海萬里の珍客なれば是非席上の演説を願ひたさし了簡なりコハ拙者一己の私願に非らず實に乗客一同の公望なれば何分にも受引かれたしと事をわけての示談なれども余の甚だ閉口を極めれば御覽の如く日常の談話すら片言交りに辛ふじて其意を通ざる位の始末なれば中々以て演説などハは思ひるよらざ其義は平らに御免を蒙りたりし席末に列せんとハ素とより拙者の希ふ所なりと挨拶して立別れたりしが其日も既に暮れ行きて午後七時と云へる豫定の時刻となりければ積り食堂に集り來りて思ひくく坐を占

めたが中央には一壇高き會頭の席を設け航客中には最も貴賤の地を占めたる英國海軍中將某氏一同の推薦によりて會頭席に就き手短かに本會開設の主意を述べて各々充分に快樂を盡されんことを希望する旨を語り且つ豫ねて約束の如く銘々得意の藝能を試みられたし其順序姓名の如きは別紙目錄を製し置きたれば就いて一覽の勞を取られんことを希望すと説き了りて一小片紙に何か印刷せし者を配布するを見れば是れなん豫め今夕の技藝者演説人等の順序を定め船中備置の印刷器械にて刷行せしものにて第一某女彈琴第二某氏唱歌第三何某の演説と一々其人の姓名と其試むべき事項の種類とを掲げ示したる一覽表なり余は何心なく其第一席より讀み第八に至れば何ぞ思はん第八席日本紳士吉田君の短簡演説の Short address: Mr. K. Yoshida, Japanese Gentleman)の數字を見出さんとは扱ては今朝の英人めが余が謝絶するをも肯かきして目錄中に我が姓名を加へたる者らんさりとては理不盡千万の仕方ありと心中不満に堪へざれども今更も彼此れ争は可きにもあらき其期に及ばば詮術あらんと先づ黙して控

士不日勿... 勿表閉心... 一其之... 矣至矣

居以於第一席より段々と順を逐ひ來りて既に第七席の演説も済みたれば會頭は起て余の姓名を呼び一坐に向て吹聴せり此時余が心中の閉口は驚ふるに物なけれと事既に此に至て最早やグメク、躊躇すべき場合に非らねば思ひ切て其席を起ち先づ一禮を施したるのち
會頭并に貴女紳士諸君余が萬里飄零の孤客を以て圖らず諸君の知遇を受け今夕此の盛舉に陪して諸君の名論卓説を聞くを得るは誠に意外の幸榮にして余の謹んで諸君に鳴謝せんと欲する所なり今朝某氏は余に告ぐるに今夕此盛筵に列なる可き旨を以てし且つ觀むるに演説の一事を以てしたり然れども余の英語に熟せずして日常寒暄の挨拶尙は且つ容易ならざるハ諸君の現在親しく見聞して熟知さるゝ所なれば余は固辭して肯せざりしに今此場に臨む及んで何ぞ思はん目錄表中余の姓名を見るあらんとは余の當惑實に譬ふるに物なき也然れども事既に此に至る徒らに黙して禮を諸君に失す可きに非らざるは我が自ら圖らざ敢て一言を發する所以なり我にして若し英佛何れかの語學に長せん

此年睡語千... 於數百語... 所謂寸鐵

士不日勿... 手不日勿... 數是與不手士

我が我が此好機を幸と慶我が日本の近狀に就て諸君の聽を煩はさんと欲するを甚だ多し唯だ慍ひらば不肯にして外國の語言に嫻はず胸中の萬分を漏らすと能はざるを故に我は止だ下の數語を以て此席を下る可し曰く謹んで諸君の健康を祝し彼我兩國の交際益々親密にして永く各國の泰平を保持せんを祈ると
と述べたりて逃ぐるが如く其席に復したるが満場の男女は我が向ふ見ずの大胆なるに驚きしが將た其言語の整はざりしが可笑かりしか兎に角拍手喝采して暫しの鳴りも止まざりしか余は益々閉口して汗背に滴りたり曾て倫敦滯留中誘はれて或る英人の青年同盟會に望み演説を強請されて同一の迷惑に出逢ふたることありしが英語の達者に饒舌らるゝ人は返て愉快得意にも思ふ可けれ我の如き片言交りの驚愕が噴れの場處に法法華經を歌はされては實に當惑せざるを得ず併し是れ亦た旅中の一興か扱て豫定の如く演説もピアノも順次滯はりなく終りを告げられたれば會頭の起て鄭重に謝辭を述べ且つ一同に向ひ今夕の諸入費に充てんが爲め各々

應分の義金を藤田あかたき旨を告げ直ちに給使人を以て二個の丸をきき
 益を捧げ片端より出金を促がし歩行かじめたり斯くある可しとりかねて
 より覺悟し居りたることなれば懐中より紙入を取出し是れ丈けあらば澤
 山なりと英貨三志即ち今日の相場にして凡我九十錢計りを用意し給使の
 來るを待ち居しに給使先生は段々と回はりて遂に余の前に來りたれ
 ば卒喜捨せんと手を舉げながら圓らず起て盆中を瞥見すれば何ぞ思ひ
 ん一磅即ち二十志半磅等の英金貨は二弗五弗等の米國紙幣と錯落相交り
 り一志銀貨の如き其影をだに見ること能はざらんとは余は餘りの奢り
 様なり畢竟洋人の瘦我慢にて負けぬ氣の贅澤より斯る法外の金錢を投じ
 たるものならん左りとては愚の至りなりと心中不満にもあり惜くもあれ
 どさながら日本國を代表するとも云ふ可き余一人が鄙吝な事して輕蔑を
 受くるも殘念千萬なればと終に思ひ切りて半磅の金貨を投與せりあどに
 て聞けば此夜の集金高凡そ五十五六磅我二百七十圓餘に上りしと云へり
 此金員は昔な當夜の入費に充てたるものにて何人も横着をせし譯にあら

外睡人之可憐
 外睡人之可憐
 外睡人之可憐
 外睡人之可憐

士日其居
 士日其居
 士日其居
 士日其居

ざるは云ふまでも無きことながら思ひも寄らぬ課税されば貧生余の如き
 は一時頗るまごつきたりチヨトせし旅中一夕の談話會にも斯く奢侈を極
 むる習慣あれば深かど上流社會の交際仲間には這入れぬ譯あり是れ併し
 亦がら積んで能く散じ勞して能く樂む歐人固有の氣象にて東洋風の驕奢
 遊逸との同日の話に非ず右了りて教れも卓に就き交む杯をかはして更闌
 くるまで笑いさゝめさ興じたり
 二十日の曉には米陸の山影漸やく牌底に入り來り烟霞模糊の間微かに唇
 顔の笑めるが如きを見認めたれば船中一同喜び合ふて知るも知らぬも言
 葉を懸けて互に無事着を祝し合ひ往時龍龍が始めて米の陸影を認めたる
 む斯くやと思へる心地して愉快の情面に溢れて見へたり僅か十日間の航
 海あれども十一日出帆以來到着の今日に至るまで一日とて風恬浪靜の天
 氣のあく始終荒れ詰め揺り續きの中に苦められたることあれば斯く一同
 の喜び一方からざりしも理はりなり漸漸く進んで陸影漸く洋ぶに隨ひ宏
 大なる樓閣の尖頂なぞもみみりと眼底に印し來るよ及び首を擧げて前面

半睡子日
余之編者欲
評論之者
既何言余
亦何言余
知忙然不
所措不

を眺むれば屹然たる巨像の高く妻を凌いで矗立せるあり是れ即ち近日佛
國人民より米國へ寄贈せし有名なる自由の銅像にしてペドロロス島の脚
頭に建てたるものなり其高さ無慮十五丈一尺あり像の全体は女神の形に
摸し右手には巨大なる電氣燈器を捧げ一たび火を點すれば光明萬里を輝
らすと云ふ所謂る世界を照らす自由の光輝にして米人の最も得意を鳴ら
す所なり近時米國人民は何事にては世界第一と云へる肩書を得んことを
熱望し種々工夫を凝らして宏大異常の事を企て往々天下の耳目を聳動せ
り此大像も即ち世界第一の一つにして假令米人自ら建設せしものにも
非らざるも既に贈られて其有に歸する以上は則ち米國偉觀中の一なる
こと勿論あり此像は極近時の設立に係り矢野森田兩兄の此地に立寄りた
る頃はまだ工事最中にて兩兄も目撃せざりしことなれば余は紐育滞在中
是非ペドロロス島に渡り親しく就いて其の摸像を一見せばやと心懸け居
たりしが生憎く連日風雪の爲めに阻せられ遂に造り觀ることを得ざりし
は甚だ遺憾に思ふ所なり併し汽船は間近に其前面咫尺の間を通過するが

半睡子日
病室却爲
妙風之資
過々々々

ゆへ細かに像身を觀察することを得たり此像の事に就ては曩に本紙の雜
報中に詳記せしことありと覺ゆれば繁を厭ふて今更復た追記の勞を取ら
ず兎角するうち船は既に紐育港内に入り其會社持ちの停漿場止りたれ
ば乗客先を争ふて船を下れり此際の雜沓喧嘩は實に非常に余の如き一
人旅人は随分煩勞を與へたり余は荷物の檢査も事なく済み直ちに馬車を
俵ふて領事館正金銀行支店等に抵り暫時談話の後去りてウエストミン
スター旅館に投す時正さに午後五時斜陽漸く殘光を収めて暮色蒼然たる
の頃なりき
前にも記せし通り余が今回の歸途ハ一日片時も迅速を要する場合ゆへ紐
育には僅か一夜の滯留にて直ちに桑港へ向け出發の心算なりしが歴的瀾
洋の航海にて非常に苦しめられたる爲めにや身心何となく快からず加ふ
るに俄かに非常の寒氣に觸れたるより忽ち邪熱に冒され心氣頗る懊惱を
感じたれば此分にては進む即時に發紐すること能はじ如何のせんと思案
の折柄在紐育の人々は懇ろに余に勸むるに諸處遊觀の事を以てし先般矢

野君の一行も折角此地を過ぎかからず滞留周に満ちして匆々に去られたるは甚だ遺憾に思ふ所なれり願くば二三週間を此地に費して商工業上の視察を兼ね彼地此處見物せられれば當だに貴社の爲めに便益少からざるのみならず我々も亦た大満足する所あり紐育にも觀察遊覽するに足るもの多し歐洲を見たれば米國のさふをもよしと云はぬ計りに冷視するに頗る不平に存する所なりと諷刺報告取り交せて頻りに滞遊を勸むる言の最と親切にして且つ理りに聞ゆれば彼此の事情を慮かり終に心を決して此地に越年と覺悟を定め其趣を本社へ通して暫く御興を振ゆることにはありぬ因て紐育滞留中に目撃耳聞せし事柄のうち記するに足る可きもの數項を左に掲ぐ讀者若し西洋風俗記中の一部として一讀せば則ち可あり

◎下宿屋

既に十日以上の滞遊を決心したる以上はペンノとホテルに逗留して毎日代枚四下ル五弗の旅籠料を拂ふは不經濟不得策の甚しき譯されば早速

此土華
不厚不
謝邪不
熱得至
居

中下宿
下宿屋
不之粗
物國之
我世之
甚宿之
下宿者
可少加
實餘之
客時之

相當の下宿屋に投さるる肝要なれど人にも頼み自身にも奔走して探り歩きたれど何分三週間や三週間の短き下宿は面倒なるゆへにや言を左右に托して承諾せし甚だ當惑を極めたりとが幸にせ難あり是れまで絶へて日本人が止宿して主婦は能く日本人の性質習慣をも承知し居る由あればコハ屈竟ありと早速に面談を試みたれば快く承諾して何時にても差支あしとの返答あり即日到着の三日目ホテルを引上げ直に此家へ轉宿せり爾來此下宿の体裁と各所に散居する友人の止宿せる下宿屋の模様とを對照し且つ永く此地に滞留せる人々に就いて聞合せたる廉々に據りて粗ば當府下宿屋の状況を窺知するを得たり大体の上より云へば巴里倫敦と大差なきに似たれど細かに穿ては随分相違の廉なきにもあらず尤も下宿にも様ありて廉なるは一週間四五ドルより不廉なるは三四十弗にも及を以て其取扱の模様家内の体裁等に至ても夫れ相應の區別段階ありて一概は論を可らざるの勿論のことながら概して云ば諸物貨の不廉なると共に下宿料も巴里倫敦等より遙かに不廉なり朝夕の食物も直段によりて

相違は亦ね矢張り概して粗悪なるに似たり且つ紐育に到着以來毎に余をして困却を感せしめたるものはホテルにても下宿屋にても靴を磨き呉れぬ一事なり巴里倫敦などにては如何なる安泊り安下宿にても客人の靴は毎朝必らず奇麗に磨くを以て例とせり余は最初矢張り其積りにて寢に就く前靴を戶外に直じ置きしこと屢々なるも朝起て之を見れば依然たる膏の汚れ靴ゆへ詮方なく出で、街頭の靴磨きに掃除せしめざるを得ず毎朝チヤンと磨いて置いて呉れると一々自身が街頭に出で、靴磨きに磨かせるとは其便不便の差一方ありき随分五月蠅き次第あれば大抵の我慢して汚れたまゝに穿ち勝ちにありけるが人情ゆゑ往來の男女が爪先を見れば何れも汚靴を穿ちて行き通へり之を巴里倫敦等の男女が鳥の羽を欺き漆の色に優れる靴を着けて往來するに比すれば大なる相違ありと云ふべし佛曼英等歐洲の國々にての一般人民常に酒を嗜み朝變を除くの外大抵卓上にビール、カクレツ、セリ上等諸酒の上らざるは無し殊に麥酒の如きは價廉にして最多く何人の口にも容易く上り得可きを以て人を毎朝は

上士階々居
一戸日世之
讀勿嘗汚者

水の代りとしそ之を用ゆる程あり故に酒の甚だ自由にて全くの下戸連は亦知らば少し酒を嗜める者に取りての賊に愉快便利を極むる譯なり余は元來百川を吸ふの豪には非らざるも亦た三盞に酌へざるの量にも非らざる何れと云はゞ先づ上戸籍に列する方ゆへ斯く自在に斯く廉價に瓶を傾け得らるゝは何よ其の都合にて下宿に居てもホテルに泊りても友人を訪ふても散歩をしてても渴を覺ゆれば即ち此靈水で喉を潤はすを常とせり然るに紐育に着以來ホテル及び割烹店等の有様を見れば男女に限らず杯を手にする者甚だ稀れにして皆な茶、珈琲を用ひ居れりホテル、割烹店すら既に斯の如くなれば況して一般下宿屋の如きの尙は更ら酒の縁薄く水と茶と珈琲にて持ち切りの有様なれば余の甚だ寂寥を感じたり左りとて米人に限か酒を嗜まぬと云ふに非らず年々米國にて製造する酒類及び歐洲大陸各地より輸入する數量の統計を見れば實に驚く可き高に上れるのみならず各町到る所居酒屋を見ざるのなき程なるに何故斯く一方には酒嫌ひの風習あるにや頗る解し難き理屈のやうなれど少し熟思すれば直

まゝ手に携へて食堂に入れり食事の間たゞ一坐の男女絶へず言葉を交はして雑談嬉笑するの彼地一般の風俗にて之れを以て交際上世辭愛嬌の一つと爲せることゆへ彼等の色々な話端を啓いて彼れ一句此一句面白ろそらに談笑し居れど余は少しも面白味を感せず能くクダラヌ事を繰返して話の種とするもの哉と心に冷笑しつゝ退屈のあまり携へ來りし新紙を披いて一再讀過せり扱て食事も了りて余の少しく用のあるまゝ先へ失禮と會釋して自分の部屋へ入り來りしが間もなく他の日本人も上り來りて余が室に集りて云ふやふ今ま君が食堂を去りたる後洋人等頻々に君が食事中に新聞を讀みしは不敬の舉動なりとて非難し居たり些細の事にまを啄を容れて彼れ此れと評論するの彼等の常僻あれば御参考まで申上置く迄の心注げ故サレばなり余も其失禮を知らざるには非らざる然れども彼等が平常我々に對する言語動作は果して禮儀を失し居らざる乎彼等の舉動に比すれば新聞位は何でもなし己れ先づ修りて而後人を責むること可ければ己れの始終野鄙賤陋の言語舉動を以て夫に對し乍ら嗚呼をま

碌々庵居士曰何處風之甚乎唯有不堪嗔笑者

平睡子曰頂門一針試得快

他人の小事を咎め立てすること心得ぬ畢竟日本人と侮りての傲言なり其儀ならば此方にも心得あり御心添の段は千方辱しと答へ置き其夜晚餐の卓に向ひし時余は突然席を起ち威儀を正して恭しく満坐に向ひ拙者の此度初めて米國へ参りし者なり英佛諸國には春來暫く滯遊して粗は其地の風俗習慣を承知致したれど當國の事情には甚だ暗し定めて食事中にも諸君に向て間々失禮の言語舉動ある可し然れども是れ元と有心故造の惡意より出づるに非らざる事情を知らざるに坐するの罪なれば其邊は枉げて海容ありたく且つ若し拙者の言語舉動にして不敬に涉る廉あらば事大小となく公けに訓戒忠告されんことを望む必らき謹んで其致に従ふ可し但だ後へに識し密かに誹るが如きに至ては啻に拙者の取らざる所なるのみならず亦た堂々たる紳士貴女の品格にも關する譯と存するなりと述べ了て席に就きたれば一同呆氣に取られたる面色にて座中甚だしらけて見へたり此より後は流石に氣耻しくや思ひけん彼等の待遇全く一變し交も機嫌を取りて俄かに敬禮の意を表するに至りし可笑し何分黒髮黃

願の東洋兵と見れば直ちに未開の人民なりと賤視し萬事に輕侮の痕を顯はすは海外を旅せし者の等しく熟知する所にして此方に温順にすればする程蔑意を生ずるの彼地中等以下人民の免かき難き所なれば旅中及び下宿屋などにては温順中に威嚴を保ち折節の無遠慮に攻撃を試みるも宜しと存す

◎ 高架鐵道

米國は近時草創の新興國にして百事歐洲諸國の如く秩序正しく整頓のせざれども廣汎たる天然の沃土と燦爛たる自由の薰風とは忽ち其國の富強を促かし建國僅かに百有餘年の幼齡にして既に世譽を瞬視し眼中殆んど人なき勢なれば百般の事業も常に壯大新奇を競ひ諸種の發明工夫日に月に隆起するの天下の共に驚嘆して措かざる所なり左れば歐洲諸國に於ては未だ嘗て聞見し得ざる所のものにして米國特り之れも事の事物少からず今ま此に記述せんと欲する高架鐵道の如きも亦た其一に居るものなり嘗たに歐洲に其類なきのみならず米國にても紐育府を除くの外未だ其設

曠々庶居
士曰不堪
飲矣也

半睡子曰
之原則會

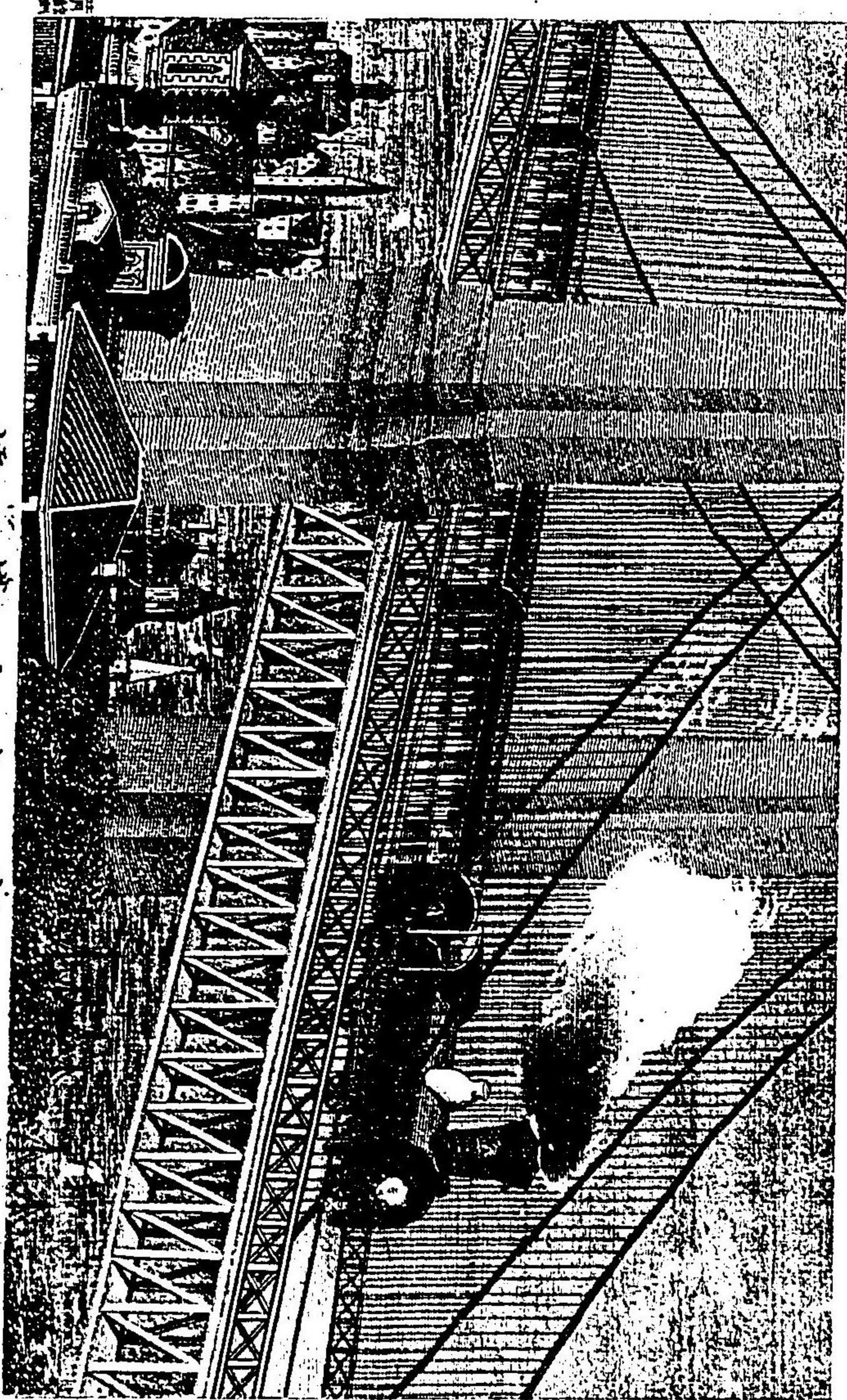
半睡子曰
非常之原
是之明歟

立を見せと云へり此高架鐵道と倫敦の地下鐵道との併び稱して世界の一大奇工事とも云ふべき歟彼れれ地底を潜るの鼯鼠の如く此れれ天上を飛ぶの鵬に似たり其趣の異なりと雖も文明の奇工たるに至ては則ち一也思ふに今後文化益々進み厚生利用の道愈よ開くるに至らば草澤山林用ひ盡して車を行るの餘地なく終に到る所煤炭空中に燃へ車輛地底に流るに至るや必せり然らば則ち今日の奇とし妙とする所も幾ばくならずして不奇不妙の觀を爲すに至らん嗚呼文明の流潮も亦た盛なりと云ふ可し今余の讀者の爲めに此鐵道の模様一斑を叙述す可し鐵道流行の今日に適當の話柄ならん
凡そ新たに一事業を起さんとするに方りては其事の目新らしきと異常あるとに依り往々世俗の非難を被ひり種々の困難障礙に出逢ふこと古今一轍の常態あるが此高架鐵道の如きも其草創の始に當りては攻撃百出擧斥の聲四もに起りて勢に實施さる可くも見へざりしが首唱者は毫も屈曲の色なく百方經營して終に土工に着手せしが爾來實際の運轉を試むる

半睡壯觀與
 實効者余
 於高架鐵
 道見之我
 國此盛
 時果在何

二百九十六

に及んでの皆だに一人の不字を唱ふる者あさのみならず皆な翕然として
 賛成の意を表し前きの排斥の聲の忽ち變じて稱賛の音と化するに至れり
 是を以て創設以來僅々の年處を經るに過ぎざると雖も其之ヲ爲めに紐育府
 民の幸福利便を進め紐育府内の繁華隆盛を加へたること甚だ著大なるもの
 のあり實利の著大なる斯くの如きあるに止らず其空中に横架せる彩虹と
 天上を飛行する大鵬との實に紐育府の壯觀を加ふるものにして流石に文
 明國の大都たるに負かざる心地せらる扱て此の高架鐵道の目今四線路に
 分派して普く全府に貫通し停車場の短さ二三丁長さも十丁内外の處に
 掛置しあるを以て甚だ乗り下りに便なり停車場の道の兩側に設けありて
 一の上り車一の下り車の停車場とす構造の頗る簡易質素を旨とし絶へて
 華美に流れきと雖も待合室喫煙室等凡て必要の事物に欠く所なきを以
 て決して不便を感せず乗客の乗り下り亦た甚だ簡易靜肅にして毫も喧囂
 雜沓の憂なし乗客の先づ切手賣捌所に於て切手を買ひ之を傍らに備へ
 る硝子張りの小さき箱の中へ投し去るなり此箱に一人の番人附添ひ居



高 架 鐵 之 橋

中睡許子之
 從者孟市之
 不貳其至
 難之甚矣
 然余始知
 而後天知
 其恒固不
 之車固不
 可一藥論

て乗客の切手を投入するを監視し居れり乗車賃の遠近の別なく通じて一
 人五錢を定則とす故に切手の文面、恰好色合皆な一樣にして區別あるなく
 乗客の一切此切手を買て箱中に投じ去れば何れの停車場に下りるも勝
 手次第なり鐵道馬車、乗合馬車の如きも其車賃の遠近を論せせ一人五錢の
 定めなれば馬車よりの瀛車を撰ぶ人多く其遠方に往來する人は云ふまで
 もなくチヨト近處へ用足しに出るにも此瀛車に乗りて往來するゆへ乗客
 の常に込み合ひ押し合ひ始終車内に立ち詰めにさるゝ事珍らしからむ雨
 降りなどには随分困却すること多し列車の駛行せる鐵路の高さは今も儲
 かに覺へ居らざれども大抵通常家屋の二階三階の間を平行する位の所に
 在り思ふに少なくとも六七間はある可く思ひる鐵路の下は馬車も走り荷
 車も挽き人も歩行き居る尋常の往來なり鐵路の近年の創設に係り家屋稠
 密の間を縦横に縫ふて四方に通ずるものなるが故に迂回屈曲の場處甚だ
 多く蜿蜒として長蛇の谿谷を行くに似たり一屈一曲頗る急にして一見す
 れば實に危険あるが如くなれども此鐵路の構造の至極堅固にして車軌と

碌々
一日
點之
所無
可問
然之

半睡
明子
日
公議
步論
我
執引
謂之
水

癡々
居
士
癡々
紙之
新
章
夫在
聞

車軌との間に横架せし鐵棒の上に少し突出したる堅材ありて車道を狭み居れば萬一車軸の破損することあるも列車の此堅材より支持せられ決して頓墜の危険あるなし其他車の停車場に停まる工合と云ひ車掌の乗客に對する鹽梅と云ひ共に都合よく整ひ居て一點の間然すべきなし要するに人手を省き時間を節して金儲けに勉強する米人の性質は此鐵道の仕組の上にも現れて頼むしくもあり羨しくもありと申すの外なし

◎新聞社の景况

新聞紙の文明の利器にして社會改進の指南車たり政治法律之れに依りて改良し學問究理之れを以て誘發す其他貿易殖産に道德風俗に皆な新聞紙の力を藉りて鼓舞奨勵せざるの無し是れ余が新聞記者たるの故を以て漫に手前味噌の自畫自賛論を唱ふる譯には非らず實に世界の公論にして復た一人の之が異議を狭む者あるを聞かざれば凡そ一國文明進歩の程度如何を知らんと欲せし須らく先づ其國發行の新聞紙數と其の發賣高とを檢すべしと云へる金言の古來歐米學者の間に行はれて其紙數及び賣れ高

の恰かる文明の進度を測量するの度衡となれり從來日本より海外に旅せし人々の中に随分心を彼國新聞紙の狀勢に留めて細かに觀察を下たしたる者も多かるべきが矢野森田兩兄及び余の如き所謂商賈柄の當局者にして其身現に新聞の業務に従事する者なれば其注意觀察の綿密なること元より他の無縁局外の人が他事を觀察するの傍ら匆々一斑を觀察せしものとい日を同ふして語る可きに非らず或の屢々彼地新聞記者に面會し或の時々編輯印刷の模様を目撃する等我々の專業に取りて必要の實地調査の可なりに行届き居る積り也然れども今更巨細に實際見聞の條を列擧して一々之を説明せんこと頗る煩冗に失するの恐れあるを以て今更其詳に及ばず此には唯だ彼國一般新聞社會の狀情に就いて其有様の概畧を記するに止めんと欲するのみ
今更若し歐米諸國の新聞紙が如何なる權勢威力を有し如何に社會に普及せる手を明示せば冷淡なる日本の讀者は啻たに吾言を信せざるのみならず徒らに一片皇張夸大の言として顧みざるに至らん新聞遞送の爲めに毎

半睡子日
余雖非不
信編者之
言亦不堪

碌々庵居
士曰儂歎
々々

碌々庵居
士曰儂歎
々々
不讀過々
此可讀過
即是黃金

朝各地に向ふて特に別仕立の瀟車を差立て數輛の列車悉く各種新聞紙を以て充たすと云はゞ世人の必ら驚き異んでマサカに左程まではと疑ふならんが是れ偽り飾りなき正直の話なり又た市内各賣捌所へ新聞配布の爲め各社より特別に仕立たる馬車の絡繹として馳せ違ふなどと思ひも寄らぬとなるべし日夜五六分置きに東西南北に飛行する各瀟車中にの上中下等の差別なく老人も婦人も貴さる賤さる殆んど一人の新聞紙を手にせざるの無く言ひ合せたやふに黙讀するも奇なり日本にて偶々讀書好きの人が寸陰を惜んで瀟車人力車等の中にて新聞若くは書籍を繰くを見て讀書の時間位は家に在りて充分なるべきに左りとて生意氣な男あり驚き入た外飾家なりと悪口しながら己れの徒た忙然として無聊に苦みつゝ不行儀にも欠伸の中にも可憐に千金の光陰を空過するを得意顔なる社會に生息する人々に見せしめなば必らず嘆驚仰天して歐米人民は悉く生意氣千萬の外飾家なりと思ふべし時はれ黄金の確言を守りて四六時中營々として職務に勉強し僅かに寸陰を偷んで智識聞見を廣くし一身一家の富を培

半睡子日
功不以虛
而名不立

養して國家富強の果を結ばんと心懸る人民が果して生意氣千萬ならば余の謹んで日本人民の悉く相率ひて速かに生意氣の仲間に加はらんことを希望して止まざるものあり
新聞紙の勢力既に此の如く強大に新聞紙の賣れ高彼れの如く夥多ある割合に記者の權勢亦た非常にして古來英國に男子生れて大宰相とならずんば宜しくタイムズ新聞記者と爲るべしと云へる驕のあるを見ては其勢力の強盛なる程を推知すべし然れども其強盛も徒らに強盛なるにはあらず記者の人品學識と云ひ議論の精確公明と云ひ共に強盛なるの實ありて而して強盛なるなり其筆鋒の銳利あるは百萬の甲兵にも過ぐべく其議論の公明なるは日月と光を争ふに足るべし但だ時に黨派心を挿んで言偏僻に陷るの弊あるを憾みと爲す耳試みに著名の新聞の主筆記者に就て親しく其面容に接し其議論を聽けば實に堂々たる一代の政治家にして一國の大巨宰相と爲すとも毫も耻かしからざる人物なり米國大統領選舉の際往々其候補者の新聞記者中より現はれ出で、鹿を中原に争ふに至るも亦た決

七て偶然に非らざるなり。余は紐育滞留中是非同地の重立ちたる新聞社を訪問し實際事業の有様を
 む一見し且つは其主任記者に面會して談論を試みたと考へ居りしが何
 分突然に訪問するも如何なりと猶豫ひ居たるに幸ひ起立工商會社紐育支
 店詰の支配人執行弘道氏は久しく同地に在りて學者社會の交際も廣く各
 新聞記者の大抵懇意なれば余が爲めに紹介の勞を取る可しとのことゆへ
 早速同氏に紹介を依頼し同道にてトリビュン、ヘラルド、メールなど云へ
 る二三の著名なる新聞社に抵り其主筆記者に面會して種々の談話を爲し
 且つ編輯局の模様は更らなり印刷の様子をも一通り實見し心中に發明せ
 し利益も少きからざりし執行氏の紹介は實に余をして右記者と面晤の
 便を得せしめたるのみに止らず同氏が精熟練磨せる通辯は余が未熟なる
 舌頭を補ふて爽快明白に晤談するを得せしめたるの誠に余に取りて最上
 の賜ものなりしと云ふべし右の新聞記者を訪問せしり丁度正午頃にして
 晝飯時にも迫り居れば余は記者に請ふて午餐に同伴せんことを望み相

士々皆居
 然曰吾不
 之於我移
 其利不宏
 大得其不

半睡子日
 不輕之風
 政海其感
 不可及者

携へて近傍の料理屋アストン樓と云へるに抵れり食事の間には互ひに種
 々の問答を爲し且つ飲み且つ談じて轉々情真なるを覺へたり歐洲の形勢
 は何如英國内閣の近状は何如米國現政府の處置は何如など云へる政治上
 の談柄は第一に彼我の間に起れる問題にして遂には進んで各國政治法律
 の得失利弊に及べるは自然の順序にして彼の記者等は余に向ふて頻りに
 是等の問題を設け此方の胸中を窺ひ見んと欲するの傍ら若し政治上の
 議論に關して疑問もあらは遠慮なく問ひ試みるべし善へ居る丈けの
 卑見は覆藏なく披陳すべしと云へり然れども余は輕卒に彼の記者等と辨
 論を交へて政治上の問題を論議するを欲せず殊に彼等が面會早々斯る話
 の緒口を開けるも訝しければ余は只た其厚情を謝したるのみにして敢て
 政治上の意見を述べき且つ云く先生等の斯く懇ろなる言を與へらるゝは
 誠に拙者の感佩に堪へざる所にして深く鳴謝する所なり元來拙者が政治
 上の問題に就て抱ける所の疑義と平生蓄積する所の卑見とは敢て少々に
 非らず今更英邁達職ある先生等に就て胸中の宿疑を敢し平昔の持論を吐

露して高明の教示を得んことを拙者の最も希望する所にして偏に今日の好機を失するを恐ると雖も政治の問題は事頗る洪大にして一朝一夕の能く盡すべき所に非らず然るに拙者の滯遊や其期既に限りありて心身共ま忙はしく加ふるに先生等の業務亦た非常に繁劇にして徒らに海外一孤客の爲めに割愛す可きの時間に乏しからん旁々拙者は今日敢て言の政論に渉るを欲せず只た其希ふ所の要點は貴社實際の事務如何を視察するの榮を得んと欲するに在り云々と是に於て孰れも話頭を一轉し新聞事業上の實際問題に移れり因て余は先づ編輯の手續を探訪通信の仕組より配達賣捌の方法に至るまで凡て我々の事業を取りて必要と思考せる庶々を質問したるに夫れく仔細に説示せり此上は其編輯印刷會計等の諸局を一覽せんと紐育にて最とも著大なるトリビュン社の樓上に登り先づ編輯局に入り順次各局を巡見せり器械場は何れの社も地下の最下層に設けありて絶えず燈火を點じ置けり器械場の主任者は記者の命によりて余が爲めに特に諸器械を運轉して可憐なる説明を與へたり余が此社の摸樣を實見し

碌々屠居
士曰我邦
委身於富
大國者之一
大模範廠

て心に識得したる利益の點の素より一二の少きに止らざ大に余をして實際の學問を増さしめたり要するに編輯と云ひ會計と云ひ又た器械と云ひ諸事簡便質素を旨とし人々勤勉して各自負擔の事業に勵むの一事ハ萬事の利得を促す源泉にして畢竟米國富強の基因する所も亦た一個人が孜々事業に勉勵なるの致す所に外ならず門外より仰て之を望めば巍屹たる傑閣雲よ鐘へ玉壁燦爛として目を驚かすと雖も一たび室に入りて館内の實景を窺ひ去れば各室窓々として入語なく二三の役員机に對して一心不亂に働くあるを見るのみ毎朝幾十萬と云へる紙數を發兌せる世界の新聞社なりとは思ひも寄らぬ有様なり日本の地方新聞にても其雜沓と人數とは遠く其上に出づべしと思はる是れ皆吾時を惜て勉強すると人手を省ひて器械を利用するとの結果なり試みに一二の例を擧ぐれば日本にて一二萬の新聞紙を印刷するにハ大抵五時間より十時間を要するがゆへに編輯の締め切りも紙數が多ければ多き丈けに時間を早く切り上げざる可らざる故に夜間少し遅く得たる重要の報道ハ其日の新紙に登載すること能はず

士々居
我器雖有夫
此器徒爲
草紙所
使役亦足
以判之
開否切齒

三頁六
隨ふて之に伴ふの不利不便は職工の手數工錢と會計の繁雜とに及ぼし冥
々の得失少からざるに歐米各國の新聞社に使用せる印刷器械の何れも
宏大なる蒸氣仕掛けにして一時間少きも一二萬多きは四五萬を刷行す可
きものなれば數十萬の紙數も十時間を出でずして刷り立て得可し其便否
果して如何ぞや電報局に抵り見れば各國各地より電報四方より集り來り
て函中に落ち降ると恰かも雨の如く又た鐵の如し彼地の新聞社にては日
本の如く電報を電信局より配達し來るに非らざる皆電報局と特約して私
設電信支線を室内に通じ置き諸所の通信者より飛來たる電報の皆を集り
て此に入るなり其盛なること驚くに堪へたり編輯局を巡見せる時其一隅
に大なる書物箱やふのものを立て置き其中を幾つにも仕切りて其上に一
々エビシと横文字の符帳を付けたるものあり餘り見慣れざるものゆへ如
何なる用に供する乎と問しに是は内外國の有名なる人々の傳を書綴たる
ものにて學者政治家は云も更らなり苟くも一技一能を以て世に顯はれた
るものは其生前より豫じめ其人の履歷出所を取調べ零傳の文章に綴り置

申睡子日
及未陸士
取被桑雨
編總下民
其子斯下
亦余於此
言於此段

き其姓氏の頭字に隨ふて此符帳の中に入れ置くなり若し其人死去する時
の直ちに之を函中に括いて原稿に付し翌日の新聞に載するなりと其用意
實に至れりと云ふ可し前年岩崎彌太郎氏の死去せし電報の倫敦に達する
や翌日のタイムス新聞は直ちに同氏の零傳を掲載して我々に一驚を喫せ
しめたることありしが今にして思ひ合すれば成るほど左もありしならん
と合點せり是等は別段手數の懸る事にもあらねば日本の新聞記者にても
平生心懸け置き度と存し歸朝後我社の諸兄にも話し合へり其外書籍室
庶務局等巡見の際に會得したる事柄にして摘記す可き庶少きに非ねど煩
を厭ふて此に省けり

◎グラント將軍の墓

南北戰爭以來其名を天下に轟かしたる米國の一豪傑にして殊に我が日本
には最も親愛の友誼を表されたる名士グラント將軍は世人も知る如く
一昨千八百八十五年の夏を以て溢焉逝去せり當時米國人民の痛哭は云ふ
も更らざる我が日本の人民も亦た擧て一朝此の敬愛す可き英雄を失ふた

るを悲悼するに至れり左れば恩を思ひ徳を慕ふの米國人民は爾來頻りに奔走して資金を集め或は墓碑を建て或は紀念標を設けんと其計畫一方ならず亦た以て將軍生前の功德と米民義侠の精神とを見るに足る可し余の將軍を敬慕するや久し不幸にして生前一たび儀容を仰ぐの機を得空しく幽冥を隔てゝ不遇を訴ふるの人となれり憾み何ぞ云ふ可けん今更らざる將軍桑梓の地を過ぎりて轉た感懐に堪へざるものあり責めては其墳墓に詣でゝ英魂に接せんものと思ひ立ち友人駒田氏に案内を頼み第十四街の停車場より例の高架鐵道に駕して行くこと里餘七十五街の停車場に下り左曲して復た行く十數丁にして達せり墓は沿河薊リバーサイドパークの最高處クワレメントと稱ふる阜頭に在り前は有名なるハドソン河の洪流を隔てゝ遙かに大陸の風色に對し後へは一帶の曠野を控へて近く細育の煙火の望む樹木扶疎岡巒起伏蕭條たる狀景忽ち塵襟を洗ふて仙境に入るの想あり漸く墓前に近いて前面を仰視すれば十三星の國旗は翻瀾として寒風に飄り參詣の老弱より捧げたる朶花は雲を作して柵前に堆し

此一睡子日
讀韓愈祭
田橫文

士曰居
嗚呼夫
不悔終
能終編

門外には正服瀟々しく短銃を脇狹んで非常を戒むる警護の査官兩名あり余等は即ち就いて恭しく禮を施し將軍の墓に謁せんことを請ふ警吏は直ちに諾して之を誘き墓前に抵る余は脱帽跪坐默然たること良久し墓の全体は其規模意外に大ならせ間口二間奥行三四間に過ぎざる圓椽平矮の赤練瓦造りにして思ふたよりは無造作なり併しながら是れ畢竟其墳墓を九出しに露出したるに因るものにて往々々々宏大の靈廟を建てゝ之を覆ふに至らば必らず壯觀目を驚かすに至る可し此日は朝來雪催ひにて彫雲厚く捲ひ朔風凜烈として寒威堪へ難きにも拘はらず遠近より馬に鞭ち車を驅りて詣で來れる貴賤男女少からず門前爲に雜沓す嗚呼丈夫生れて此に至る死すと雖も何をか憾まん將軍の英魂亦地下に瞑するに足らん歟猶ほ墓前を徘徊すること多時ハドソン河畔の風光を弄しつゝ漫歩堤に沿ふて紐育の寓に歸しは斜陽漸く殘光を収て暮色蒼然たるの頃なりき

◎土耳其風の湯露西亞流の湯

日本人が海外に行て不便不自由を感せることは種々様々あるが中に洗湯

の如きは着當坐の二三ヶ月間尤も不自由不愉快に覺ゆるものゝ第一なは
 一体西洋人は入湯の度數甚だ少なく多きも一ヶ月兩三回少きは半年一年
 に一度位に止まる習慣にて餘りに度びく湯に入る者は却て其身体が不
 潔なる故ならんなどい誹謗さるゝ次第日本とは全く反對の風俗なれば平
 生毎日のやふに入浴し來りし我々日本人の實に心持惡くして堪へ難さ
 思あり左りとて日本に居る心持にて度々入湯せんとせば當ぶに彼地一般
 の風俗に展れる奇物視さるゝのみならず一度の湯錢も三十錢四十錢に上
 るを以て貧生には随分迷惑の至りなり旁々不自由不愉快を忍びつゝ一月
 二月と送るうちには習慣性を爲して終には何とも思はぬやふになるが常
 なり斯く西洋人は平生入湯の度數少なく止だ毎朝全身を拭ふて僅かに其
 清潔を保つ次第なれば偶々浴する時ハ日本人の如く數分時間よして飛出
 すが如き早風呂主義を取らず大抵一時間前後の長湯を爲して細かく奇麗
 に全身を掃除し積れる污垢を澀ひ去るを例とす是れ歐米各地一般の風習
 なり扱て西洋人が平素用ゆる普通の風呂は今余が説明を爲さずとも世

半睡子日
 高々外
 驚之不
 人之由
 浴豈不
 此邪別
 有仔細
 半睡子日
 三年不
 三則將
 周々別

人の熟知する所なれば此れは申さき只た彼地にて流行せる土耳其流露西
 亞風の風呂に至ては頗る奇にして未だ親しく海外に遊歴せざる人々に
 ハ随分珍らしき心地せらるゝ方ならんと存ずれば此に其大畧を述べべし
 土耳其風と云ひ露西亞流と云ひ共に其本國に行はるゝ風を移し來て歐米
 の各都市に構造し以て浴客に供するものなれば一たび此湯に入らば粗ば
 其國風の一部をも推察することを得可し尤も此の土耳其湯露西亞湯は倫
 教にても紐育にても普通の洗湯の如く到る所左様に澤山の設けある譯に
 非らず府中の要所くはポツく見受くる位に止まるなり例へば東京に
 て伊香保磯部有馬等諸所の温泉を取寄せ彼地此地に一二軒の浴場を見る
 と同様なり土耳其湯露西亞湯共に蒸し風呂にして室内の鹽梅浴客の取扱
 等も粗ば相似たれば一纏めに其景况を記述す可し只其異なる所は土耳
 其風は室内に巨大なる石を置き之を烈火の如く燃立てゝ其温熱を全室内
 に充布するの仕掛なると露西亞風は之と違ひ室下に蒸氣の裝置ありて酷
 烈なる蒸氣の室内に充満して温熱を保つ仕組なるとの差あるのみ此

外には別段之と云ふ程の異同を見せ扱て浴客は先づ入口の受附に至りて湯錢を拂て手形を受取り時計懐中等大切の品物は此處に預け置て切符を取り置くなり尤も度々往く人は日本の如く一度に夥多の湯札を買置くもあり湯錢の日本銀貨にして大抵三四十錢より一圓四五十錢まで場所により家によりて色々差別あり一様ならず湯錢拂濟の上奥に這入れれば已前の手形受取所ありて之に渡し夫れより靴脱ぎ部屋に至りて靴を脱けは監督の小僧ありて之を受取り傍はらの靴置棚に載せて何番々々を記したる合札を呉るゝことと丁度日本の寄席などにて下足札を渡すと同じ趣向なり靴室を出づれば部屋番の若者客を導いて衣裳室に抵る此にて衣服を脱去し西洋手拭の長く廣きものを腰に纏ひ湯場に進くなり湯室の温度は大抵二三等に區別しあり第一は七八十度第二は九十度前後第三は百度内外と云ふが如く漸次に熱を加ふ元來西洋にては皮膚を露出すること最も失禮にて婦人の禮服を着けたる時の外は男女共に身軀を包み回はして毫も膚を現さず一般洗湯の如きも一人一部屋取り切りにして衣服の着脱ぎも其

裸々庵居
士曰衛生
上一日此
非不有此
爲以路者
如何者此

半睡子日
來風亦移
其長不捨
其短我取
此室之雜
浴大極至
此類極至
男女混浴
成亦混浴

室内に於てする位に嚴重なれ必此比耳其湯露西亞湯に限つては男女の區別こそあれ多入敷入り込みにて湯浴の間は何れの部屋へも皆な赤裸にして我れ人共に赤條々一絲を掛けテアチラコチヲに往來するなり日本の如く始終平氣にて皮膚を露し人に對して恬然座まざる風俗より見れば何でもなきことなれ必行儀正しき西洋にては随分奇妙の思を爲すなり殊に日本人は全体皮膚の色茶黒くして如何も色白と稱する人にては自哲人種の中に廁りては黒白非常に目立ちて見へ骨格の小弱と云ひ膚の汚黒と云ひ随分氣の引ける程の區別あり平生は西洋人を平呑して何に彼等々と強情に意張り居る余の如き頑固生る此れには毎度閉口してうら耻かしき心地せり

◎ 汽車中の新聞紙

倫敦の其中央の地下鐵道の線路一周し居り又其上の地面を一周せる尋常の線路あり其他各地方より倫敦に入り込む線路は中央處に聚まるか故に倫敦府内は地面地下鐵道縦横に連り居り其中にて最も少しく遠き部分に

中睡日亦
雖此風其
有甚僅其
所謂此風
無星雨之
無寒夜之

不可也陶
體獨所外
邦人之輸
一不終有
嗚呼以宮
之紙必此
同紙要
形以紙
致勢此
文明今
然決日
偶也非

碌々庶居
時日無斯
情乃長官
亦有心經
乎一動物
半睡子曰
長官遂折
其足何不
戰備時具

雖々庶居
士日不居
人之得朝
笑却使朝
一人談亦

半睡子曰
自笑如可
其笑如亦
獨有今日
者蓋如問
式用之例
有類之者
笑此真恐
於我之笑

趣々に満車は乘る方頗る便なり故に府内鐵道の乗客の夥まきこと云
ふまでもなま而も何人も車中に在る時は定例の好く新聞紙を讀むなり
勿論新聞紙を見せとも更に精のさるることながら英文を讀み得ざる者の身に
取ての他人か盡く新聞紙を讀み得るに己れ獨り無聊の顔色を爲し居るも
甚た安からざるものと見へ英文を讀み得ぬ者までも彼地にて満車に乗る
時同行人の新聞にても持ち扱ひたさるもの、由嘗て日本より英京に赴き
ま一長官不幸にまて英文を解せず府内の車中に在て常に無聊なる有様を
英人に笑はるゝやと憾み居たり一日属官と共に某の地に赴きまか乗客滿
ちくたる中に於て己れ一人のみ例の如く黙然とまて他人の新聞紙を讀
むを眺め居たりまか隣席ある属官か新聞紙を讀畢のりしを窺ひ傍より之
を手に把り己れも亦た之を讀得る者なるか如く濟し居たり然るに其隣席
なる英人か頻りに己れの方を不審氣に見居る様子なれ此の長官機轉の
きたる性質故属官に向ひ日本語にて話すも勝手次第一人も解し得る者
なし隣りの英人のナンデ己れの新聞紙を頻りに見たがる狀と云はるゝに

属官之を見て忽ち噴き出だし「貴君ソレの新聞が倒まです」と日本人の英文
を倒し讀得る者なりと隣席の英人の驚嘆し居りしならん

◎靴投げ米撒きの事

英國杯にての古るひ破れたる靴を遙かに人に投かけて之を祝ひの心持と
爲すことあり例せの子供か成長して始めて職業にてもありつき稍や出世
らしく見ゆる事ありて其日家より出で行く時に其家の下女杯遙かに之
に古靴を抛りつける右の後來此人の仕合せ好かれと祝するの心持なる由
現に今日にても中以下の人民中には随分行はれ居る事なり實に一奇と云
ふへし又た近き頃まては婚禮の飾すらも此の古靴を抛りかけたる事にて
今日まて稀にの之を爲す者ありと云ふ婚禮の飾之を抛りかけるの場合の
先つ下の如し婚禮の當日花婿方の親類も花嫁方の親類も時刻を違へず共
に婚儀を行ふ寺院に參集す斯くして神前に於て僧侶の儀式を執行ふあり
事果てゝ別の設けの宴席に就き歡を極む來賓の舞踏杯を始めて興に入る
中に花嫁花婿の豫ねて用意の車に同乗して新婚族を爲そ之をハドニシム

ンと云ふ近來ハ日本にも此新婚旅を學ぶ者往々あり稍や人の知る所な
 るか是は唯た新夫婦して豫めて定めたる場所に旅する事あり多くの其近
 郊又ハ隣境の國杯に趣く東京亦れハ熱海或は給島等に向け婚儀の席より
 直に發足し新夫婦旅先にて多少の時日を送り然る後歸へり來て始めて
 夫婦の住居を爲す苟も中以上の人民亦れハハーニムーンと出かけされ
 ハ恥辱なるか如くに思ひ居り誰一人之を爲さざる者なし又た下等人民と
 雖もハーニムーンに務めて出かくるなり彼の古靴を車に向けて抛りか
 くるは正に此の新婚旅の新夫婦か出立を爲すの時に在り來賓ハ皆な門口
 まで送出て後來二人の幸福を祝しつゝ新夫婦を乗せたる馬車の軋りて家
 を離れ行く時古靴はバラ／＼と馬車に向て飛ぶことなり然れ共何れの頃
 よりか古靴に代ゆるに米を以てし近來にてハ米を握てバラ／＼と浴せか
 けること一般の風儀となれり近來の新聞紙に婚禮の儀式を細かに記せる
 場合にハ米の驟雨二人の上にもふりかゝれり杯と云ふも多し米撒きの風行
 んれてより靴投げの方ハ婚儀に付てハ稍や廢れたりと英人の嘲せり何故

半睡子起
 例式之起
 因大率皆
 如此

碌々居
 活物也
 轉進不
 也進不
 退者其
 亦足証
 一端可
 々其

に米を撒くや又何れの頃より此事の始まりしやと英人に聞きしも余等よ
 り問を受けたる人の不幸にして答へ能はざりしか其後見るともなしに某
 の雜誌を見たるに米撒きの起源を記せるあり曰く前年土耳其の公使が英
 國在留中に婚儀を執行ひし事あり其節同國固有の風儀とて右の米まきを
 新夫婦に爲したり是より此席に臨める人々ハ善き風習なり古靴よりの
 此方然るへし清くもあり又た誤ちて人に怪我せしむる憂もなしとて其後
 頻りに米を撒きたりしか遂に一般に廣まりて今日の如くなりたりと云ふ
 土耳其は古へより米を用ふること歐洲諸國に比して頗る多き國柄なれば
 右の説ハ實事にもあるへしと思はる尙は博識家の説を俟つ日本にてハ地
 方に由り水祝ひの風俗あり別して花婚か新婚後其の親屬の家杯より歸へ
 らんとする處を水を濺ぎかけらるゝ者ありとも云へり又其の婚禮せし後
 最初の年始に水を祝ひれ歸へる者ありと云へり又婚禮の翌日に水を濺
 ぎかけらるゝ風習もありと云へり此等の稍や東西相似たる事ながら古靴
 と云ひ水と云ひ懸けらるゝ當人には難澁なる譯なれば以後は日本にてハ

亦に代ゆるに米を以てするにも至るへき歟去年は是の餘計の相談なり

初旅の西洋浴室

舊るく邦人中に言傳へて失策中の大失策と稱するの旅館浴室の一條に過ぐる者あらず彼地の旅館の概ね其の規模雄偉にまて間敷も夥しく大抵の市街中にて宏大なる建物の中に數へらるゝ程に壯麗なるもの多し左れ其内の裝飾も亦た美事にて部屋付きの小使の如きに至るまで小禮服を着け白襟にて伺候するの一事にても其他の万事鄭重なるを知るへし故に一室内こそ我勝手なれ既に室外に出づる時最早市街の往來も同様に威儀を繕ひ行らくことにて又た廊下其他に一體に綺麗なる敷物布きわたしあり又た食堂に會食する時杯も極めて禮を正し恰も主人ある饗燕に所れたるか如く誰一人大聲を發し放談する者なし歐洲諸國旅館の体裁の通例此の如き者なるを知り居なすしては以下の話も甚た受取り難きものあらん何れの旅館にかありけん日本人の一行來り投し旅の疲を休めんとて入湯

牛睡子
記事果敢
出那事
官宜刮目
而待

禮士禮
之目不
無起一
不敬一
大動及
世不類
岩不類
々不類

を所望せり大抵の旅館に勿論浴室を備へあれ即ち一の日本人先づ道かれ之に趣けり彼地の浴室の通例二三枚敷の廣さにて一廊となり此に一の開き戸ありて通例西洋間の扉の如くパタリと戸を締むればキチンと錠の下りる仕掛なり凡そ浴室の扉に殊に意を用ひ内にて裸体などに成居る所を他人の知らず外より扉をあくる杯の事ありて不敬此上もなきことなれハタと戸をしむれ錠下りて外面より之を開らく能はず唯た湯番のみ鍵を以て之を開くを得へし然れども内よりの把手ありて自由に扉を開くを得へま是れ浴客か浴し終りて立出るにて隨意をらしむか爲きり故に浴室の扉の内より之を開き得へし外より之を開き得へからず又た浴客の此の扉を開らさ衣服の儘立入り扉を鎖したる後ち此處にて衣裳を脱し一々に之を浴室内の衣裳掛に掛くるを定りとす扱て彼の日本人の浴室に送りたまれハタと扉を締められし後見廻いせの湯壺あり衣裳掛あり因て先づ通例の手續に従ひて浴し始めんとする時湯加減熱さに過きて堪ゆへからず湯屋に因て熱湯冷水を自由に出たす子

半睡子曰
我邦始浴
漢會也
都猶有忍
時況於堂
々々風之
西此風之
乎此風之
忍此風之
笑此風之
矣此風之
至亦可笑

半睡子曰
不置子曰

半睡子曰
此人情與
望美人於

三百二十一
才の附き居る者あり又た此の子無くして湯番を呼ぶの命を備へあるも
あり此にて湯番を呼ぶは自由ある事あり最初の暫く忍んで之に浴せんと
せしかば到底忍び難きか故に如何にすへさやと見廻せども初旅の事と云
ひ註に記する如き案内を知らず色々工夫の後ち寧ろ先刻案内せよ湯番の
其邊に居るへけれの渠を呼ひ手眞似にて湯加減を爲さしめんと罪を少し
開らさて見渡せども人の影なし幸ひあたりには浴客も居らざる摸樣なれり
少しつゝ扉の邊に身を進め今少し進まは彼の蔭に湯番の居るならんと次
第く身に身を進めしか遂に全く浴室外に出てキヨロくと見廻すうち如
何にしけん扉のハタと締まりたり當人の別に意も留めず何心なく扉を開
らき内に入らんとするに前記する仕掛なれり如何にするも再び開らくこ
となし心漸やく慌てて我身を顧みれり唯た一の手帕の腰部を蔽ふあるの
みにて全身裸体なり最早致方なし往て湯番を索めんと最初の浴室の廊下
を裸体にて彼方此方と良や久しく行るけども生憎に湯番を見ず其中に裸
体の寒さに堪へず如何にしてか浴室に立歸へり衣裳を着けんと外より扉

天之一般方

半睡子曰
我邦始浴
漢會也
都猶有忍
時況於堂
々々風之
西此風之
乎此風之
忍此風之
笑此風之
矣此風之
至亦可笑

を力限りに推せども彼の堅固なる構造なれり更らに揺るぎもなきはこ
そ進退茲に谷まり遂に裸体にて旅館内の我室に歸へり入るの外なしと決
心し赤條々の腰に手帕を巻きたるまゝ彼の衆人の別去て威儀を繕ひ行き
居る旅館の大廊下を上にと下にと昇りつ降りつ我部屋を求むるにぞ見る者
遇ふ者只たアツケに取られ呆され果てて笑ひも得せき其うち毎階ソレソレ
取締の見張りを爲し居る者あり此の者等ハ驚きて裸体武者を取押へんと
するに當人の益す周章し捕へられてハ大變なりと己が部屋の方を指し
散に走り行けども斯る場合にハ容易に其部屋を見つけ得ざる者にて二三
度二階三階の廊下を駆け廻りたる後ち始めて其番號の部屋を見つけ飛
入りたりしは是れ恰も其隣室にて此處にハ婦人子供の遮れの客人泊まり
合のせ居たり彼地一般の風儀として見る方よりさへも遠慮し見らるゝ方
の尙更ら恥辱とする赤條々の飛込みしことなれり其室の人々の仰天せよ
この想像するに餘りあり定めて狂人と思ひしと見へ直ちに其呼鐘を打鳴
し小使を呼ぶの騒ぎとなれり裸体武者の當人の是ハシタリと此室を飛出

たる鋼砲の式と相似たり然るに一方に陳列しある曼兵の用ひたるクルップ式の大砲を見れば全身皆を鋼鐵にて且つ元込め亦前記する佛の大砲の其質の鋼にして先込め亦然れり元込先込の式に於て既に曼の佛に勝る居るに又一方の鋼にて其質脆く且つ重量甚しきに一方の鋼鐵にて其質強く且つ輕し兩者大砲利鈍の比較は専門の人にあらざるも亦た一見して直ちに判断し得べき程の事なり此のみに就ても既に兩軍勝敗の偶然ならざるを知るに足れり

◎半解の英語

或る日本人倫敦に來り某の家に下宿し居りしか此人此度の旅に付き始めて少々の英語を習ひそめし迄にて先づ茶よ水よの通する位の處なりき一夜主人夫婦と共に客間に於て十二時頃まで片言まじりに談話せりイザ皆お寢に就かんとして各々客間を立出で第一に主人其次に細君相續て下る部屋に降り行き最後に彼の日本人降り行かんとせしかフト心付さし尙ほ室内に瓦斯の燈を滅さず其儘にありしことなり(通例人散し座敷不用

半睡大子
半棟大子
半之半
果不人欺
笑不人欺

とされり室内の瓦斯燈を滅すなり(因て之を知らさんとて下の段を降り行く細君に聲を懸け手にて客間を指さしつファイア〜(火〜)と呼ひければ細君の慌て主人を呼留め又たファイア〜と呼ひしにぞ主人も仰天してファイアなる歎〜とて共にウロタへて登り來る夫婦のケンマクの烈しきに日本人の何とも心得ねども只た呆れて夫婦のアトに隨ひ走れり夫婦の客間に飛入りて頻りに見回し不審なる氣色に見ゆる、ち察しより前きの夫婦の聲を聞きしと見へ下女杯も追々駈つくる血相たゞならず何か間違を生したりと獨りキョト〜する程に主人夫婦の漸くにして何か打笑ひつゝ燈を滅して其儘別れたり翌日惡意なる日本人の英語に通ずる者其家に來り始めて細君より事の次第を聞くに全く彼の日本人のファイア〜即ち火〜と呼ひしより此間違を生せしと分り大笑をなしたると云ふ日本にては火も燈も同じく火と云ふか故にファイアとの英語を用ひしことされども英語にて燈の火はライトと呼ひ其のファイア〜と呼ぶの則ち火事〜と云へる意味に當るなりと左れりファイア〜と呼ひ

半睡生子雖曰
解之英不語無
招一愈無不語
何英不語無不
此英不語無不
默一愈無不語
之英不語無不
招一愈無不語
阿招一愈無不

し聲に夫婦は是れ火事なりと心得て飛上かり來り臺所の下女までも驚て馳集とひたる事なり。日本語を英語に直譯するか故に不都合を生ずること少からず少こし計り漢籍を解し得る書生桑港に赴ひさ儘々の英語を覺へて先づ某の家の小使に住込みたり一日例の如く其門口より往來の墨石に水を撒き掃除し居たる中一婦人の此を過ぐるに遇ふ彼の書生水を撒く拍子に過ちて少しく其婦人の裳を汚したり書生慌て曰くサンキ、ユ一(汝に謝す有り難し忝なしの意味)と折節恰かも之を見居たる英語に通せる日本人あり其の意味を問ひしに彼の書生平然として對へて曰く汝に謝す即ち汝に我罪を謝するの意味なりと

◎電氣鰻、駝鳥、象等の事

右等の話の皆なソレ／＼出處の確かなる事實なり。埃西利亞及ひ亞米利加の某の澤池に電氣鰻あり此鰻は水中にて隨意に電氣を發作し身邊に近寄る動物を防ぎ止むるとの事ハ博物志中にも見へ

小學讀本等にも記しあることにて此鰻の圖をさへ書きたる者多きは人の知る所なり余等も其生物を一たび見たしと思居たりしに倫敦のツウロヂカル、ガーデン(動物園)に此鰻ありと云ひ又近く此鰻を埃西利亞より齎らし來れりと聞たれハ一日往て見たるに如何にもかねて諸書の圖にて見居たる如し余等の親しく目したるハ二尾にて其大なる者ハ長さ三尺許り全身の周圍は七八寸にて一寸見たる所其狀鰻と云はんより寧ろ鰻に類せり若し其の形屬を以て區別せし電氣鰻と云ふ方適當なるへし彼地の鰻ハ概して太く短き者多き故鰻の名を下し邦人も亦此譯を用ひたるなるへしと雖も一寸眺めたる所の餘にして少しく細長し又其頭より背にかけてハ黒茶色を帯ふること鰻の背に似たり但し腹は守宮の如く一面に赤色を帯ひ一見したる所既に只だ物にあらざるを覺ゆ唯た其電氣の發作を試むるを見ること能はざりしハ實に遺憾なりき此魚を埃西利亞より持來る途中船の中にて一名の乗客何心なく指にて此魚の背に觸れしに即時電氣を發作せしと見へ彼の乗客ハ忽ち甲板上に卒倒せる由あり博物館中にてハ獨

甲子日
可食雞小不
魚之煎敷

かに水中に手を浸さるる機嚴重に誠めあり此の小魚にして人を卒倒せし
ひる程の電氣を發作するに實に奇と云ふへし

先日渡來して興行せしチリ子の觀せ物中に駝鳥もありたるが其大さは甚
だ小なりし由に傳聞せり駝鳥に隨分大いなるものあり現に巴里にて有
名なるポアドブロンポアドブロンの公園内に動物園あり此處にてハ駝鳥に車を駕し之
に十四五歳までの子供を乗せ公園内を良廻りて其車賃を取る者あり勿論
子供を乗する車なれば尋常の馬車杯と比較すへきにあらねども又た日本
の人力車杯よりの稍や大きくして手重なる方あり斯る車に子供を乗せて
曳き歩くことおれは大抵其大さを想像すへし

博物志中にシーラフシーラフ(日本の博物館中にハ麒麟と名けある者なり)の事を記
し百獸の中にて其丈高き者此獸に過くるはなしと記せり我國の博物館中
に飾付けたるものを見るも如何にも丈高きものに見へしかとも素ねて
聞きし程に思はれざるへし然るに前記せる倫敦の動物園中に畜ひある
ものを見て實に其頭の長く丈の高さに驚きたり其丈の殆んど二間半より

甲子日
可食雞小不
魚之煎敷

三間もあつたと思はるゝ程なり又シラフと名くる虎毛の野馬も博物志中
に記しありしか同園中には之をも畜ひあり其大さハ日本にて土佐駒と稱
ゆる小馬位にて其形ハ亞刺比亞馬亞刺比亞馬の如くに恰好宜しからず日本の馬同様
頸短かく太どく概するに体短く逞しき方なり馬にして虎の如く黄色に黒
斑あるか故に若し之を畜ひ馴らすことを得は定めて面白かるへしと見ゆ
但し此獸ハ謂はゆる野心甚しくして狎らすこと出來難しと云ふ

同園中に有名なる大象にて英人のシンボウと名けたる者あり非常に大な
りし由ありしか余等の同地に到る少し前亞米利加にて觀せ物になすため
に持ちゆかれたりと云ふ今同園に残り居るは小なる者の由なれ共尙は相
應には大なる者ありチリ子の携へし象の如きは傳聞する所にて量かるに
極小なる者にて能く生長せし象の大なる者に至ては實に美事なり同園に
てハ前記せる巴里公園の如く象及び駝駝に見物人を載せて其賃を取り其
邊を一周づゝ廻る事なるか途中にて菓子其他の食物を之に與ふる時ハ
遠慮なく食す又た銅貨杯を與ふる時ハ之を鼻にて受取り馱者に渡す絶へ

その學動野戰中にての最も智慧ある者に相違なし

◎壁煖爐夏期の飾

歐洲諸國の中にて部屋へやの壁かべに作り付けたる煖爐だんろを英語英語グレイドグレイドを多く用ふる地あり又た置煖爐おきだんろストロウストロウを多く用ふる地あり英國英國の如きは多く壁煖爐だんろを用ふるの國にて三階四階其他如何なる小さき部屋へやにても苟も一室と成り居る處にの必らき壁煖爐だんろあらざるはさき程なり然る所夏分なつぶんに向へは勿論煖爐も不用とあり若し置煖爐おきだんろならんには之を取除とりのぞけりすへき處なれども何分壁かべに作付けある者されり其儘ままに差置さしおかさるへからす因て煙突えんたくより風の通り過さざる爲め爐口ろくちを鎖くわし其儘ままにての甚た見苦みくしきか故に何歟然るへき飾かざりりをなして煖爐だんろの正面せうめんの口を蔽おほふ

嘗て日本の日傘ひがさの外國がくこくに向くは如何なる用に充つるにや正さか彼地の婦人等か日本日傘ひがさを翫あそし歩行するにもあるまじと思ひ居たり何となれば輸出の傘がさに限り總体そうたいに切れ地きりぢを用ひ五彩ごさいを以てハデハデしく花鳥人物はなとりぶつ杯はを畫かきぬり如何に華美くわびなる出立ちの西洋婦人せいやうふじんと雖も之を用ふるの如何やと

疑はるれりなり然るに夏分右の壁煖爐だんろを見るに及んで始めて日傘輸出の用ひ處を見出したる勿論上等の家ハ格別かくべつ但た中以下の家にては日本の日傘がさを開らさ之を爐の口に差込み傘の外面の繪ハ爐口より室内しつないに向て恰も爐の蓋かきを爲し居れり是れ則ち日本日傘の輸出ある所以にして夏分に座敷内の壁煖爐の蓋かきとなり飾りとなる者なり若し之を聞かハ製作人等ハ一驚を吃することならん余輩も慣れさる中ハ笑しさに堪へぬ事なりし斯く飾りとする者ゆゑ切れ地きりぢにて張り華美くわびに拵こしらゆる程益す能く釣合つりあふ譯なり日本の日傘ひがさをさへ用ふる程の事なれば彼地の人々種々の工夫をなして夏分爐口を飾るあり上等の家ハ格別中以下にては種々の切れ地きりぢの紙にて作りたる者を用ふ其中にて最も普通なるは五色の紙を幅五釐一分程の線に長く切り同じく銀紙杯ぎんしはいを切り雜へ之を堆かかくして爐口を埋め其上に金色の飾り杯かざりはいを散ちりす今更此の飾りを形容し盡さんと欲すれり我か經師屋けいしやの細かなる紙の裁ち端はしを無數に亂堆したる如き者にて五色の紙或ハ金銀紙きんぎんしを雜まゆるか故に一寸綺羅きらにませざるなか中以下の珈琲店料理屋杯かりやはいにハ

通例此飾りにて少し手組たる者を用ふるも多し或る日本人數名倫敦にて相應なる一の料理屋に登りしか何れも皆な意氣なる出立ちにて只今熨器をかけたる計りと云ふか如き光澤ある絹帽子を戴き靴に茶色の甲掛を着け細き筋を小脇に掻ひ込み指の先にてツとシガーを持ちし様子杯のナカ／＼に萃を扱きたる巴里紳士亦然らされは萬事心得たる倫敦紳士と見ゆへき容体にして卓子に就きてよりの小使の呼ひ振り料理の擇み方其他總べて申分なく天晴れ場所馴れて見受けらる扱て一切都合能く相濟み此を立出でんとするに當りイサや例に因りシガーを燻らせんと卓上なるマツチを一擦して火を煙草に點したりし手振りもイトい鮮かなり終て其儘マツチのカラをバ壁煖爐に投置さて見向きもなさば濟まし返りて一ト足ニ々足行かんとする是の如何に爐口は一面の炎となり五彩の紙の火花を散らす始末にてセメての爐中の蓋無くんの烟の悉皆煙突に騰るへき筈なりしも不幸なる哉其口の堅く鎖さしあるか爲に煙の看る／＼廣き室中に充満し居合せたる他の客人等の何事にやと皆なく濟しく振返へる彼の

半睡子日
鮮能無終

行の人々の此火を打消さんとして慌て騒きたりし氣色にて折角意氣なる出立ちも忽ちに馬脚を露はしつ／＼の体にて此の茶店を逃げ出せり冬期のマツチのカラを爐邊に投込むと通例書生杯の手癖となり居るが故にツイ迂かとして此の不体裁を生せしなり

◎大陸の山川と島國の山川と異同

日本に在りし時の左程にも思はさりしか諸國を巡遊するに至り始めて山川の國々に由り大小非常の差あるに驚きたり支那の文學家の常に曰く天下を周遊し名山大川を見來りしか故に其文氣筆力此の如く大なりとか盛ありとか始め此言を聞きし時の唯た通例の誇言漫言として等閑に考へ居たりしか處々を旅行して始めて實に其言の謂われあるに思ひ當れり尤も名山大川の壯景偉觀を見しとて之か爲に是非筆力の進む者なるや否やの必し難けれ共兎に角種々のものを見し丈け其胸中に幾分の益を得るに相違さし

中に就て日本の如きは島國にて其山川の規模も何れと云のい最も小形な

の逆に索を引くなり此の索の此小室の上下を貫き居れり歐洲諸國の大なる旅館にの通例此の昇降室を備へあり又米國の旅館にも頗る多く之を備ふ又紐育杯にて其家屋極めて高さか故に盛り場の商店にハ一軒毎に昇降室ありて四階五階の高さを昇降するの勞を省しむ尤も日本の家屋と違ハ一軒の家屋とても廣さハ四十間以上にも跨り其高さも之に叶ふか故に一商店にて一軒の家屋を取切る者は非常の大店あり通例ハ一軒中の一階を取切る事すら甚た稀にて物品を陳列せざる店々事務所の類別して一階中に七八戸も同居し居るなり左れの下より其一階に昇るハ一商店に行くにあらすして一町に行くと同様なり歐洲にてハ紐育の如く各商店に昇降室を付する處は甚た稀なる様に見受けたり

◎呼鐘の事

住居の有様に應じて便利を達すの道具も種々出來する者にて日本の家の打開ち居るか上に空氣の隙間を漏るゝこと多く且つ三階若くハ間敷多き宏大なる家に住居する程の人の是迄の風習として側らに侍者あり其用

を達すの仕組なるが故に自ら家人を呼び用を命するの道具なく手を叩くを以て唯一の合圖と爲し兩手に呼鐘を持居ると同様なれば其の所にても手を鳴して人を呼得へし然れ共人の知る如く西洋諸國の家は寒氣を防ぐが爲に其一間ハの建付け殊に嚴しく隙間漏る風さへ通ひ難き有様なれば少しく隔てハの手を叩く杯にて進む勝手向き臺所に聞ゆべきにあらざ加ふるに又高さ家を幾階にも作上ぐる風習なるが故に尙更ら二階三階より人を呼にハの手を叩く杯にてハ開ゆへさ譯にあらす因て通例の家には皆な呼鐘の設けあらざるなし臺所口に至り見ればシホノとせし薄金の端に鈴を着けあり其家の間の多少に由りて此鈴ハ臺所口に間毎より通するもの四つ五つも下けあり則ち其間より其鈴に各々線鐵を引張りて連絡しあり英國にてハ何れの家も室々に大抵皆な壁付きの煖爐あり其煖爐の上の右角左角の所に把手の如きものあるを通例とす是れ則ち呼鐘の引手なり此引手を搖かす時の臺所口の鈴動き鳴る下女ハ其聲を聞き鈴の處に往き見れハ鈴ハシホノとしたる薄金にブラ下り居る考なれば尙は動き

中睡子不日
便換之有以
傳話管若
有不知便乎
以何物之
未見之

居るを見るべし其動き居る鈴に由て部屋の番號を認め用開きに越くこと
あり然れども此の呼鐘の尙は不便あり其故の二階なり三階なり下女の
度昇り行て然して後其用事を知り用達しの爲に再び昇り来る煩ひあり茶
を呼ぶとせんに一たび下女を呼寄せて其用を命し然る後に下女は更らに
降り行きて其品を持来る二重の面倒を見ねばならざ此不便を避くるが爲
に近來は往々傳話管スピーキングチューブと稱する者を用ふることゝなれ
り是の只たゴムの筒を坐敷より臺所或の勝手に通じ置き兩方の端に當口
ありて此口より話し彼の口にて聞くと云へる譯にて竹管の兩端に口を着
けたると同様なり大抵の用事の此管に由りて三階四階より能く聞ゆるあ
り之を用ふるに始めより茶を持來れとか何品を持參せよとか直ちに命
し得るか故に下女の一應其品物を齎すのみにて事足るなり此の傳話管の
入組みし器械にもあらず又た彼地にてのゴムの價も左程貴さにあられ
ないト必安く事整ふへき者あり日本の家にも行くこの傳話管を設
ふくる事となるへし

中睡子不日
便換之有以
傳話管若
有不知便乎
以何物之
未見之

傳話機の事に付き記載すへきの頃來工夫中にて未だ十分の成功の得され
ども此の發明成功せは大いなる世上の便利となるへしと云へる一種の仕
掛あり其大体の彼の蘇言機と云へる者に似て茲に一の函あり其函に當口
あり其口より何事にても發言すれの中の機關にて白紙の上に一種の字を
寫出だす因て其字の符牒をさへ知り居る時其發言の儘を讀得へし即ち
音聲の爲に極く微妙なる顫動を生ずる機關ありて其顫動通りに墨にて紙
に印するなり然らば世の文章家此函に向て文章を述ふる時一種の符
牒を以て其文章を函内の白紙上に寫出たすを得へし此の工夫の稍や成
功せし由新聞紙に評判せしか十分の實用を爲すに至るまで尙は程遠き
者あるへしと云へり

◎伯林行きの荷物

日本にての鐵道の布設尙は短かさか故瀛車と云へは長からぬ旅の様に想
はるれど歐洲にては一國の首府より四隣諸國の首府に達し其他通邑大都
概ね鐵道にて連接し居らざる者あし故に驛車の旅も少しく旅らしき仕度

を爲す者ならん孰れも昔な八九時間一晝夜又の晝夜に跨る者甚た多し又其途中にて経過する停車場の數も夥しき事なり一々之に立寄りて一ヶ所に一二分を費やする既に百里二百里の行程に在ては積んで一時間以上二時間を費やすか故に急行列車と通常列車とを區別し急行列車の唯た重なる場所に時々立寄るのみ又其時間も極めて短きこと恰も我京濱間の急行列車と同様あり十里二十里の道なれり四五十分七八十分過ぎされは如何なる事をも辛抱し得へしと雖も早や十時間若しくは一晝夜に跨る路程にての非常の困難を引起すこと少らず若し旅巧者の者ならんには瀧車表を求め其中に記する所の各停車場の立寄り時間を見合せ五分以上の地を見ての其用を達す爲め車を下りるも自由なり然れども初旅の者の左様に行き難く困却することおれりて余等の如き用心家の豫め万一の節に備ふる仕度を爲し行きし程の事なり停車場に立寄る時間の短き地は僅か一二分のもの甚た多し若し是等の地にて誤て車より下れり吾の歸り來るを待たず車の百里の外に走去るあり是等の不便を避けんか爲に英國

甲田子 睡航 紀六 日 吉田 航 紀六 日 車中 睡航 紀六 日 人呼 紀六 日 同此 紀六 日 於英 紀六 日 所爲 紀六 日 然望 紀六 日 可機 紀六 日 車給 紀六 日 轉運 紀六 日 氣不 紀六 日 轉活 紀六 日

の地方瀧車には上等車に用所の附しあるもの多し又大陸にて日耳曼の瀧車も同様なる者多し唯た佛伊二國にての瀧車の外に此設なし之か爲に初旅の者極めて困難すること少からず日本人の一行五六名嘗て巴里より伯林に赴くことありしに其中四五名は何れも新着の人にて日本語の外何れの國語も解し得ず話し得ず唯た一人の通辯を便りに旅行するなり扱て皆々同車にて巴里を發し何事も都合善りし所停車場五分計りの地にて一寸車を下り用を便したりしに其中の一人不幸にも用事長く瀧笛の響を聞き飛來て乗込まんとするに早や車は容赦なく輾り去るにぞ只た茫然と煙を望むたり停車場の役人の早くも其有様を察し四五人打寄りて丁寧には取扱ひしか何分にも言語通せず唯た車の去りし方を指し妙なる訛にて伯林と云ふのみなり機轉さして且つ親切ある佛人の事なれば早くも其意を悟り鐵道地圖の掛けある所に連れ行き又零圓杯を出し見せしに其伯林に赴く事だけは纔かに分りしと見へ彼の役人等は今一二時間を後る孰は又た一列車來るべし其れまで待てと云へる様子にてナクむる故委細

呑込み待居たが三時間許を経たる後果して一列車到着せり彼の役人等
 出で来りて早く乗込めと云へる手具似を爲す故に心得て其言に従ひしに
 一人の役人四五寸計りの紙に何か文字を書きたるを持来りて之を人に示
 せの仔細なく伯林に達し得へしと云へる様子を示し又た帽上の上の正面
 に挿み居らり別して宜しと教ゆるさまなれり乃ち其言に従ひ手荷物の前
 の車に持行かれたれども同行の人々居れば氣遣ひあし先づ今夜の伯林に
 達すへしと安心して四方の景色杯打眺め旅せし誠に不幸中の幸なりき
 扱て又た伯林にての在留の日本人に豫ねて此一行より電報達し居れば數
 名の親友知人皆な迎ひに出て居りし所電報通り一行の達したりしも其中
 の一人の途中にてハグレたりとの事ありけれり左らの定めて次の車にて
 來るへしと此車の達する頃又た皆々停車場に出迎ひ注意し居りしに果し
 て巴里より達せる上等車中より彼者の出來れるにぞ先づ無事を祝しつゝ
 フト帽子を見れり四五寸四方の札を正面に着け伯林行と記しあり人々其
 故を問へば停車場の役人か着け呉れたりと翻るにそ扱の足下の「伯林行」の

半睡子曰
余亦精倒

半睡子曰
被褥之出
社稷之蓋
不平等之
會社之數

半睡子曰
人睡之可
取之可失
可取之可失

札を貼られ荷物と成りて無事に到着したるなりと一同噴き出したり

◎犬猫の肉

英佛杯にて富貴驕奢の有様を見れり實に驚くへき者あれと又一方にて貧
 賤困窮の有様を調ふれり是も亦た驚くへきと多し始めて彼地に赴きし者
 の誰しも先づ第一に目を驚かす計りの繁華なる場所繁華なる品物を飽ま
 せ看る然る後ち又た一方なる貧民の哀れなる有様家屋の醜穢なる趣等に
 も次第に耳目の向かふことなり一の日本人倫敦にて華麗無比ある重たち
 たる町々を遊覽せし後一日府の南東の町々を見て實に其困窮者の多くし
 て憐むへき有様に驚きたり其後己れの下宿屋の近傍を遊歩し舖の硝子戸
 に犬及び猫の肉と記しあるを見たり扱てく大都會の貧民も多きか故に斯
 る事もありける歟我東京杯の如何に貧民なればとて未だ犬猫の肉を食ふ
 には至らざるものと見る中に手に籠を下けたる老婆或は下女の如き種
 類の買人頗りに此舖より出入する有様にて其籠に各々肉を齎らし歸へ
 る様子なりしかは心の中に嘆息しつゝ歸へり來ぬ其夜下宿屋の主八夫

婦と晚餐を爲す節談偶々此事に及び扱て、當地の貧民の氣の毒なる事あり日本杯にては未だ左程にてのあらぬものをと述べたるに國自慢の細君の眉を蹙め、ソハ怪しからぬ事を承れり我々も長く當府下に住へとも左様の事の聞かざりしなりと云への亭主の方は平氣にて「不景氣の此節柄なれは如何なる事のあらんも知れず去乍ら今聞くか始めてなり」と云ふ細君の之に服せず英人か犬猫の肉を食ひたる例の決してなし」と主張す日本人「今日吾親から其の看板を見來りし譯なれん決して相違あるへからず」と茲に一場の議論となり左らの賭を爲すへし遠くもあらぬ事なれば明朝檢分に趣くへし若し愈よ英人が犬猫の肉を食ふ譯にして日本人の言分勝たは主婦の其夕の晚餐に多くの馳走を出たすへし又日本人の詞か不實からは日本人の主婦を一夜芝居に同伴すへしと定まりたり斯くて翌日彼の日本人今夕こそ馳走に預からんと主婦の用果つるを待ち左らばとて共々に出て行きつ彼の店の前に至り「是なん余か言ふ所の者なり如何に實事と思はすや」と云ふをも待たず主婦の覺へす噴き出し乍ら「否や是にて候か是は

半睡一牌
以牌招子
以牌者一
之往者不
邦之往者
無之往者
皆此人

犬や猫に與ふる肉を賣る舖あり犬猫の肉を鬻ぐにのあらず如何にも猫及び犬の肉とのみ書きあるか故に左様思ひるゝも無理ならせ左れと是の菜人の食ふにはあらず此肉の馬の肉にて其價廉なるか故に犬猫を飼ふ者は此の廉價の肉を買ふて其飼料に充つるを通例とすと云われしに遂に一夜の芝居を奢ることとなり日本人中にて一笑話となれり

「猫及び犬の肉」と看板を書きし舖の往々之れ有り主婦の言の如く皆な馬肉を鬻ひて犬猫を飼ふの料とす然れども犬猫を飼ふには馬肉のみを用ふるにわらず一種のビスケット(菓子麵包の類)を以てする者あり「飼犬御用のビスケット」と云へる看板にて廣告杯をよく見掛ることあり嘗て説林の中に馬肉の食ふへきを記せしか如何にも巴里にての現に馬肉を食ふ者少からず而して之を鬻く舖の看板にハ馬の首を畫き或ハ刻み其號と爲すこと恰かも我が東京杯にて猪鹿の肉を鬻く者か紅葉牡丹を畫くと同様なる由然れども余等の馬肉の味を實驗するにの至らざりき

◎世界三奇觀の一なるナイヤガラの瀑布

申睡子日
誇稱内地
之景色亦
市景體之
意

山川天然景色の中にては米國ナイヤガラの大瀑布を以て世界第一と爲す由は豫て聞居たりしか如何にも其實に違はざるを覺へたり英人杯の常に米國人にさへ逢へば皆な米國に遊びたりやと問ひ然りと答ふれり二度目に必ずナイヤガラの瀑布を見たりやと尋ぬるに定まり居れりとして自慢に事を缺き人の功勞もなき天然の瀑布を持出すを笑ふ者多し去年余等をして米人おらしむるも亦必らず之を誇るに相違なし
ナイヤガラの瀑布の其寫眞も多く日本に來り居り又其畫圖も多きとなれり更めて其有様を形容するにも及はざるへし如何にも非常なる大湖琵琶湖を幾倍せるの大きさあるものより其近傍なる一大湖に向て注ぐ水脈の兩湖の間に於て懸崖又遇ひ此の大瀑布を爲すことなれば其壯大なること勿論にて尋常潤溪に溜りし水の谷間に走て小瀑布を爲すとの其地勢上より自ら大小の優劣あるへき筈なり見渡したる所にては大なる瀑布の幅の五六町なるへく小なる方の幅は三四町なるへし湖尾より其水十餘町の幅を成して流れ來り瀑布の前に於て小島に衝當り大小二脈に分れ小島の

申睡子日
誇稱内地
之景色亦
市景體之
意

將に盡さんとす所にて大小二條の大瀑布を爲して落下し瀑布壺に於て復た合して一條の流れとなり下なる湖に注ぎ込むことあり故に言は、廣河か不意に途中にて落下し瀑布を爲したる譯なれり其水勢の大なる固より想像すへし又た其瀑布の高さ五六十間計りと見ゆ若し尋常瀑布の如き五間十間の幅の者あらんには非常に高さ瀑布なるへけれ其何分瀑布の幅廣き故其高さの却て目立たざるなり見物人の瀑布の手前二十町許りの地より既に遙かに堂々たる瀑布の音を聞く程にて其上流の水勢急湍を爲し河幅一面に岩礁無數に突兀し水流之に激して瀑布口に至る迄の間にて早や既に一場の奇觀を成し居れり况んや千万斛の水か五六十間の高さより落下する有様の實に凄しきものにて瀑布の半より瀑布壺にかけては一面に雲霧の如き水煙常に絶ゆることなく其邊に迸散し蟠旋して濛々蒸々たる有様の別して言ふへからざる趣を添へたり支那の詩人か九天より銀河を倒瀉するの語を以て瀑布を形容せしめ此瀑布をの尙は形容するに足らざるか如く覺ゆ實に此の世界第一の大奇觀の形容を寫し出すへき筆を有

する者ハ甚た得難かるへし之を言ひ換ゆれハ如何なる文人詩人の筆力にても此瀑布を未だ見ざる人に其儘寫し出して實物を見るか如く想像せしめ得んことハ殆んど望み難きことあるへし因て思ふ此瀑布か未だ世に知られず亞米利加新世界には人跡尙は稀れなるの頃に始めてフト此地に尋ね到る者ありて卒然此の大瀑布を見し時に其人の驚きの如何なりしならんか既に久しく其名を聞き非常に廣大ある者と想像して見物に赴く者は或は當初の望に反對する如き感情を爲すハ免れ難き所なり去るにてさへ猶は見るハ聞くに勝ざるの想ありき若し我々をして其圖を見ず其名を聞かず卒然と此の奇觀に遭遇せしめは其驚嘆ハ定めて今日に幾倍せるなるへし

總べての瀑布も此の如き者にや此大瀑布の落下する水の皆さビリくと震へ居れり器中の水を地上に落下せしむる時滑かなる直線をあじて降たるか如くならずして數千萬の練絹を重ね垂れたるか如く眞白に見ゆる其の水筋ハ何れも皆な落下し來る十間以下の所よりビリくと震へて降つ

るあり故に之かため更に一層の奇觀を添ゆるを覺へたり

然れども此瀑布にハ又た非難すへき箇所なきにあらす通例何れの瀑布も山間溪谷の地に在るか故に大抵瀑布壺近傍の地に立ちて之を仰き眺むるか如く成り居れり然るに此大瀑布は見物人の來往する地勢と瀑布口と同し高さにて其落下する瀑布壺及ヒソレより流れ逝く一條の河ハ通例の地面より數十間深く成り居り恰も往來通常の地面より數十間深き溝を掘り其溝下に落込み流るゝ如き有様なり故に遊覽人の爲に設ふけたる其邊の家屋及ヒ往來の道路等ハ總へて皆な瀑布口の上の流れと同し平面に成り居り瀑布ハ數十間下ある溝の底に落下する者あり若し此の瀑布をして瀑布壺最奇の下より仰き眺むる様の地勢にあり居らしめは實に今ま一層の奇觀なるへさあり憾むへし

左れハ瀑布壺の近傍此河の流れに小涼船を浮へ見物人の求めに由て中流を乗廻はし下より瀑布を仰き眺むるの便に供せり斯く瀑布壺は往來の地面より數十間下に在るかれども瀑布の廣大にして水煙の雪霧の如く迸散す

るか爲めに其近傍の草木の朝霧に露を帯ひたるか如く草木岩礁共に皆な
 濕ひ居れり
 瀑布壺より流れて河を成す其兩岸を以て英領加那太と合衆國との國境と
 成し居れり故に此岸より彼岸に渡り行くには此兩岸の有名なる高さ吊橋
 を以て往來せしむること成しあり橋上より下なる川流を見れば數十間
 の遠さにて殆んど人をして魂飛はしむるの思あり昨年衆人と賭を爲し紐
 育の高橋より飛下りし者の再ひ賭を爲してナイヤガラの高橋より水中に
 飛下りし由嘗て記せし即ち此の吊橋のとなり一方にては合衆國の役人
 一方にては加那太の役人各々其橋ギハに出張し居て一々荷物を改むる杯
 只た橋一ツを渡り行くに一國を出で一國に入る丈の手續をあさねはな
 らず甚たウルさし又た此邊の人家の總へて瀑布の見物人に衣食し居るこ
 となれば人氣も宜からぬ賑ある地にて紐育にて親友より其邊の忠告をも
 受け居りしか停車場に客待を爲す馬車屋杯の如き極めて風儀悪しく余
 輩も其の爲めに面倒を見たる事あり後來此地に遊ふ人の注意すへし

甲子日
 旅客之所
 宜注意不
 忘感佩

◎ 壁鏡

日本より歐羅巴の都會に至り著しく華美に見へて目を驚すは處々に大い
 かる硝子鏡を澤山用ひある一事あり今日東京杯にて二枚敷の硝子鏡と云
 へん貴人の家にても稀なる程にて指を屈するに過ぎざるへし然るに彼地
 にては硝子の製法日々に進歩し無造作な製出するものと見へ一枚敷二枚
 敷の鏡を壁一面に聯らね張り宛然一面の鏡の壁を作りある珈琲店杯少か
 らず其他も一枚敷許りの鏡の殆んど普通のものと見ゆ又三四尺の姿見の
 鏡ならは通例中等の家にて幾個も飾りあり中に就いて佛國の諸都府にて
 は多く鏡を用ひ居る様に見受けたり
 何れの都府にかありけん初旅の日本人十餘名の一行某の家に投宿せり當
 家の主人の好事家にて元と或る會合の席にて是等一行の人に對面し珍ら
 しき万里外の國なる高貴の方の我都府に來れりとして態々已れの別荘に招
 待せし譯あり扱て其底園も可き手廣にて庭に對して二つの入口あり一
 方の入口の庭より上り扉を開らけは五六枚敷の一室あり此より折れて右

の間に入るへき間取りなりき而して此の入口の突當りたる正面の壁には一面の大硝子鏡を嵌め込みあり其左壁も同様にて唯た右の方のみ奥の間に通するの往來あるなり扱て日本人の一行の夕方庭園を散歩し三々五々坐敷に歸へり行きしか其内の一人夕方の事にもあり庭より扉を開らさつト入來りしか彼の突當りの壁鏡を見て先きに行通りのことゝ心得恰も蠅の障子硝子に突當る如くコッソソと行當り此れはしたりと自分ながら笑しさを堪へ先つ幸ひに同行人の見答ひる者なきは仕合せの至りなりと何食はぬ顔にて右に曲り左も事無げに諸人と談話し居たりしか間もなく又た一人庭より入來りしか之も同じくコッソソと突當り何食はぬ顔にて前の如く座敷に通たりたり其後又た間もなく一人庭より歸り來りしか此男の少しく西洋慣れ機轉の利きたる者なりしか座敷に入來り扱てくゝ氣の毒千萬なることを爲せし人あり此同行中に颯の如く見付の鏡壁に突當りし者兩名ありと覺へたり速かに白狀あるへしと述へたり左れとも以前の二人の何氣なき顔にて「ナドで左様のものあるへさや」扱と繕ひ居たりしに彼男曰

中睡子曰
言々促笑
筆々呈戲

中睡子曰
鉤距至當
阿里鉢兩
之煮無所
遊之
中睡子曰
天網恢々
疎而不漏

く如何に強辨するとも確かに其證據あり何となれば客人饗應の爲に一點の塵もなく素ねて拭ひある彼の壁鏡に額と鼻の付きたる痕あり確かにコッソソとやりたるに相違なし其宛を解かんと欲せば各位彼の鏡壁に赴き其丈けを比べて額と鼻とを彼の痕に合せ見るへし必ず其痕に符合する者二人あるに相違なしと語りたれば顯はれたる歎残念なることをしてけりと彼の兩人は遂に白狀する場合となりけり
右の人々のみならず往々此間違は起り勝ちのことにて壁一面の鏡なれば後の室之に映して恰も壁の先きに今一室續き居るか如く思ひ其方に何心なく行かんとし我影の寫るを見て是はしたりと我ながら笑しきこと往々あるなり又た華美なる料理屋の四方の壁に硝子を嵌め込みたるハ壁々の人物相映して間の先に間あり室の先きに室あるが如く限りなく相映對するか故に千疊敷の間取りなるか如く甚た心廣く思はるゝあり他の器物の万里の東洋に持來るも差支なけれども大硝子は破物のことなれば其の日本に少きも然るへきことあり去りなから日本にて現在用ふる硝子の薄く

して且つ脆く且つ其面の不様あるに實に同種のものとの思はれぬ程なり

社會進化 歐洲の風俗畢

明治二十年四月六日出版御届
全二十年七月 印行發兌

定價金七十五錢

廣島縣平民

編纂 佐藤雄治

府下東區内平野町
二丁目四番地寄留

大阪府平民

出版 大庭和助

府下東區備後町
四丁目四十番地

大阪心齋橋通備後町角

賣捌書林 吉岡平助

28
1
80

